

千葉市立高等学校改革の評価・検証

～ 最終まとめ ～

本 編

平成26年3月

千 葉 市 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

本市では、昭和34年4月に千葉市立千葉高等学校（以下「市立千葉高校」という。）を、昭和54年4月に千葉市立稲毛高等学校（以下「市立稲毛高校」という。）を開校いたしました。両校とも文武両道を標榜し、活発に部活動を行うとともに、高い進学実績を誇っております。

また、市立千葉高校には、昭和45年に理数科を、市立稲毛高校には、平成2年に国際教養科を設置し、それぞれの特色ある学科が学校運営に生かされるなど、普通科にも好影響を与えて参りました。

平成3年4月に中央教育審議会から提出されました答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」を皮切りに、情報化や国際化をはじめとする社会の変化と多様な進路ニーズや教育ニーズに対応するため、全国的に高等学校改革が広がる中、本市においても、平成17年6月に、魅力ある高等学校づくりを推進するため、単位制高等学校や中高一貫教育などの研究を進め、市としての高等学校改革の方針として「千葉市立高等学校改革基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定いたしました。

この基本方針に基づき、市立千葉高校では、平成19年度入学生から、これまでの理数教育の実績を生かし、多様な進路ニーズに対応する単位制を導入し、市立稲毛高校では、平成19年4月に、これまでの英語教育の先進的な取組を発展させ、中高一貫教育を導入し、市立稲毛高校附属中学校を開校いたしました。

本市では、平成21年3月に「千葉市学校教育推進計画」を策定し、その具体施策の中に「市立高等学校教育の充実」、アクションプランとして「市立高等学校改革の評価・検証」が位置付けられていること、平成22年度は、市立千葉高校の卒業生の進路状況、市立稲毛高校の内進生や市立稲毛高校附属中学校の生徒の状況等の調査に相応しい年度であることから、平成23年2月に本市の高等学校改革のこれまでの成果と課題を洗い出し、「中間まとめ」として整理いたしました。

そして、平成25年3月には市立稲毛高校初の内進生が卒業し、その進路状況を調査することが可能となり、平成22年度に作成いたしました「千葉市立高等学校改革の評価・検証～中間まとめ～」における課題への対応とこれまでの成果を改めて検証するとともに、市民の多様なニーズと社会の変化に対応できる魅力ある市立高等学校づくりの更なる推進に資するため、本年度「千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～」を行いました。

このまとめを通じ、本市の高等学校教育の更なる充実に努めて参りますので、市民の皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成26年3月

千葉市教育委員会

目 次

I 千葉市の高等学校改革 ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 改革の背景・経過・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 千葉市の高等学校改革の概要・・・・・・・・	2
II 評価・検証の目的と進め方 ・・・・・・・・	4
1 目的・・・・・・・・	4
2 進め方・・・・・・・・	4
(1) 評価・検証の年度(中間まとめと最終まとめ)	4
(2) 「千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会」	4
(3) 各種調査(平成25年度)	5
III 改革の成果と課題 ・・・・・・・・	8
1 市立千葉高校・・・・・・・・	8
2 市立稲毛高校・附属中学校・・・・・・・・	13
IV 最終まとめを終えて ・・・・・・・・	20
1 中間まとめにおける改革の課題への対応	20
2 改革の成果・・・・・・・・	20
3 課題・・・・・・・・	21
4 今後の方向性・・・・・・・・	22
平成25年度千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会	23

別冊 資料編 各種調査の結果

1 市立千葉高校	
(1) 基本調査結果	1
(2) 小・中学校長代表対象意見交換会結果	3
(3) 聞き取り調査結果	4
(4) アンケート調査結果	7
2 市立稲毛高校・附属中学校	
(1) 基本調査結果	20
(2) 小・中学校長代表対象意見交換会結果	25
(3) 聞き取り調査結果	27
(4) アンケート調査結果	29

I 千葉市の高等学校改革

1 改革の背景・経過

平成3年4月に中央教育審議会から提出された答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」を皮切りに、情報化や国際化をはじめとする社会の変化と多様な進路ニーズや教育ニーズに対応するため、全国的に高等学校改革が広がった。

本市教育委員会では、魅力ある高等学校づくりを推進するため、「千葉市立千葉高等学校改築基本構想及び（同）基本計画」・「千葉市における中高一貫教育について（第2次報告）」（平成14～15年度）等の答申を踏まえ、教育委員会内部に設置した検討会議「千葉市立高等学校在り方研究会」（平成15年度）で聴取した学識経験者、保護者等の外部の意見や提言等を総合的に勘案し、千葉市としての高等学校改革の方針として、平成17年6月に「千葉市立高等学校改革基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定した。

その中で、千葉市立千葉高等学校（以下「市立千葉高校」という。）については、千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール※1研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、単位制を導入することが適当であるとされ、平成19年度入学生（普通科）から、進学を重視することができる単位制に移行した。

また、千葉市立稲毛高等学校（以下「市立稲毛高校」という。）については、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール※2研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間の計画的・継続的な指導により、コミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入することが適当であるとされ、平成19年4月に、「真の国際人の育成」を中高一貫教育目標とし、千葉県初の併設型公立中高一貫教育校である千葉市立稲毛高等学校附属中学校（以下「附属中学校」という。）が開校した。

※1 スーパーサイエンスハイスクール（通称「SSH」）

文部科学省が、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目的に平成14年度から行っている事業で、指定された高等学校は高度な理数教育に取り組むとともに、学習指導要領の枠を超え、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関と連携した講座や実習などを行う。なお、指定期間は5年で、国から総額約6千万円の助成を受けることになり、期間を終え、再指定を受けることもある。

※2 スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（通称「SELHi」）

平成14年度から開始された日本の高等学校における先進的な英語教育を研究するための文部科学省主導のプロジェクト。指定された高等学校は、研究予算が支給され、重点的に英語教育に取り組むこととなり英語教育に重点をおいた教育課程・カリキュラムの開発や中学校や大学との英語教育の面での効果的連携のあり方を研究していく。一度SELHiに指定された場合、以後3年間研究活動に取り組むこととなる。なお、本事業は平成21年度をもって終了した。

2 千葉市の高等学校改革の概要

	市立千葉高等学校	市立稲毛高等学校
背景	○情報化社会や国際化社会をはじめとする社会の変化 ○進路ニーズや教育ニーズの多様化 →これらに対応するとともに、これまでの文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、平成17年6月に「基本方針」を策定	
経緯	平成13年度 「千葉市における中高一貫教育について」 千葉市中高一貫教育研究会議報告書 平成14年度 「千葉市立千葉高等学校改築基本構想」 「千葉市における中高一貫教育について」 千葉市中高一貫教育研究会議第二次報告書 平成15年度 「千葉市立千葉高等学校改築基本計画」 「千葉市立高等学校在り方研究会」 平成17年6月「基本方針」	
「基本方針」に基づき導入した制度	千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に単位制を導入	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間の計画的・継続的な指導によりコミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入
導入時期	平成19年度入学生から	平成19年度に附属中学校開校
特色	進学重視型単位制高等学校 1・2年生のうちに必修科目をほぼ終わらせ、3年生で独自に設定した科目も含めた多様な選択科目から、進路希望に沿って学ぶことができるようにする。全員が1日45分7時間授業を受ける。	真の国際人を育成する中高一貫教育 中学では、年間総授業時数が標準1,015時間のところ1,185時間を展開し、中高6年間の一貫教育の利点を生かし、系統的なカリキュラムに基づく継続的な指導と先取り教育を行う。高校2年次に全員が英検2級を取得でき、卒業までにはTOEIC※で650点取得できることを目指す。
学科・学級数 (平成25年度)	全校24学級 1学年 普通科7学級(単位制) 理数科1学級(〃) 2学年 普通科7学級(単位制) 理数科1学級(〃) 3学年 普通科7学級(単位制) 理数科1学級(〃)	中学校(全校6学級) 各学年2学級 高等学校(全校24学級) 1学年 普通科7学級 (内進生2学級、外進生5学級) 国際教養科1学級 2学年 普通科7学級 (内進生2学級、外進生5学級) 国際教養科1学級 3学年 普通科7学級(混合クラス) 国際教養科1学級
施設の状態	平成20年4月から新校舎(全面改築)供用開始	平成20年10月に中学特別教室棟(多目的ホール)竣工。その他の施設は中高で共用。

※TOEIC: Test of English for International Communication の略称で、国際コミュニケーション英語能力を評価するテスト

～千葉市立千葉高等学校は、平成19年度入学生より、単位制を導入します。～



～平成19年4月より、千葉市立堀毛高等学校附属中学校（1学年2学期）を開校します～



Ⅱ 評価・検証の目的と進め方

1 目的

平成19年度から実施した、本市の高等学校改革の成果と課題を洗い出し、市民の多様な教育ニーズと社会の変化に対応できる、魅力ある市立高等学校づくりのさらなる推進に資することを目的としている。

なお、平成21年3月に策定した「**千葉市学校教育推進計画**」では、「基本施策(13) 学びの連続性を重視した教育の推進」において、「具体施策34 市立高等学校教育の充実」のアクションプランとして、「122 市立高等学校改革の評価・検証」が位置づけられている。

2 進め方

(1) 評価・検証の年度(中間まとめと最終まとめ)

市立千葉高校は、平成19年度入学生から普通科が順次単位制に移行し、平成21年度から普通科の全学年で単位制を実施した。平成22年3月には、単位制に移行して初の卒業生を送り出した。

一方、附属中学校は、平成19年度に開校し、平成21年度から全学年がそろい、平成22年度には、附属中学校の平成19年度入学生が市立稲毛高校へ進学し、初の内進生となった。

したがって、平成22年度は、単位制に移行して初の市立千葉高校卒業生の進路状況及び生徒の状況、並びに稲毛高校の内進生及び附属中学校の生徒の状況等を調査するのにふさわしい年度である。さらに、その3年後の平成25年度には、稲毛高校初の内進生が卒業し、その進路状況等を調査することができる。

このようなことから、評価・検証を実施する年度は、次のとおりとした。

○平成22年度 調査の実施と評価・検証(中間まとめ) … 概要版(7ページ参照)

○平成25年度 調査の実施と評価・検証(最終まとめ) … 本報告書

(2) 「千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会」

ア 研究会の位置づけ

評価・検証を行うための研究組織

イ 研究会の役割(平成25年度)

研究会は、(3)で示す各種調査を実施し、その内容をもとに、改革の「成果と課題」を洗い出し、評価・検証の「最終まとめ」を行い、教育委員会会議に報告する。

ウ 構成員(平成25年度)

高等学校教育に関わる教育委員会各課の担当者及び小・中・高等学校現場の代表者で構成した。(23ページ参照)

(3) 各種調査（平成25年度）

ア 基本調査

(ア) 市立千葉高校

次の項目について、改革3年前の平成16年度と平成22年度、平成25年度のデータを比較できるよう調査した。

①生徒数等（1ページ参照）

志願倍率（平成19・22・25年度）、在籍生徒数、居住区別生徒数、教員数、部活動加入状況、進路状況

②教育課程（2ページ参照）

科目数・学校設定科目の設置状況

(イ) 市立稲毛高校・附属中学校

次の項目について調査した。

①生徒数等（20～23ページ参照）

志願倍率（平成19～25年度）、在籍生徒数、居住区別生徒数、教員数と中高兼務の状況、部活動加入状況、市立稲毛高校への進学状況、進路状況

②教育課程（24・25ページ参照）

科目数・学校設定科目の設置状況

イ 意見交換会

市内小・中学校の校長代表を対象に、次のとおり意見交換会を開催した。

(ア) 小・中学校長代表対象：平成25年10月29日実施

①内容

授業参観（市立稲毛高等学校・同附属中学校）

市立高等学校概要説明

意見交換

②参加校長（本編23ページ参照）

(イ) 意見交換結果

①市立千葉高校について（3ページ参照）

②市立稲毛高校・附属中学校について（25・26ページ参照）

ウ 聞き取り調査

(ア) 市立千葉高校：平成25年10月29日実施

市立千葉高校の教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事及びSSH推進部長を対象に聞き取り調査を行った。

(イ) 市立稲毛高校・附属中学校：平成25年10月21日実施

市立稲毛高校・附属中学校の副校長、教頭、高校教務主任、中学教務主任、生徒指導主事及び進路指導主事並びに前中高一貫室長・学校活性化委員会事務局、内進1期生担任・現1学年主任、内進1期生3学年主任、適性検査主担当、国際交流部長、特活指導部長を対象に座談会方式で聞き取り調査を行った。

(3) に記すページ番号は一部を除き別冊「資料編」のもの

(ウ) 調査結果

- ①市立千葉高校（４～６ページ参照）
- ②市立稲毛高校・附属中学校（２７・２８ページ参照）

エ アンケート調査

平成２５年１０月実施

市立千葉高校・市立稲毛高校（内進生・外進生）・附属中学校の生徒・保護者及び卒業生を対象にアンケート調査を行った。

調査結果

- ①市立千葉高校（７～１９ページ参照）
- ②市立稲毛高校・附属中学校（２９～４１ページ参照）

背景・経緯

情報化社会や国際化社会をはじめとする社会の変化と進路ニーズや教育ニーズの多様化

→これらに対応するとともに、これまでの文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、平成17年6月に「千葉市立高等学校改革基本方針」を策定した。

→同方針に基づき、市立千葉高校には平成19年度入学生より単位制を導入するとともに、市立稲毛高校には中高一貫教育を導入し平成19年度に稲毛高校附属中学校を開校した。

市立千葉高校

千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に単位制を導入した。

特色 進学重視型単位制高等学校

市立稲毛高校

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間の計画的継続的な指導によりコミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入した。

特色 真の国際人を育成する中高一貫教育

評価・検証の目的と進め方

改革後4年目となる中で、市民の多様な教育ニーズと社会の変化に対応できる魅力ある市立高等学校づくりのさらなる推進に資するため、「千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会」を組織して、本市の高等学校改革のこれまでの成果と課題を洗い出し、中間まとめとして整理する。

改革の成果

「基本方針」に基づく本市の高等学校改革は良好な成果

- 市立千葉高校及び稲毛高校・附属中学校は進路ニーズや教育ニーズの多様化に適切に対応できており、生徒・保護者の満足度はかなり高い。
 ○「総合的に判断すると市立千葉高校に満足している」の問いに対して、生徒の82%・保護者の90%が「満足」と回答
 ○「総合的に判断すると附属中学校に満足している」の問いに対して、生徒の85%・保護者の97%が「満足」と回答
- 市立千葉高校の「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制」及び稲毛高校・附属中学校の「真の国際人を育成する中高一貫教育校」という改革の特色が、市民には明確でわかりやすい。また、実際にその特色が生かされ教育効果を上げている。
 ○市立千葉高校の4年制大学への現役進学率が、平成15年度卒業生の50.5%に対して、平成21年度卒業生は72.7%と上昇
 ○市立千葉高校の国公立大学現役合格者数が平成19年度25人・20年度24人に対して、平成21年度は40人に増加
 ○附属中学校生徒の9割以上が中学3年在学時に英検準2級（高校中級レベルに相当）を取得
- 志の高い教職員とそれに応える生徒のやる気、さらには両校の教育活動に対する行政の支援が相乗効果として表れている。
- これまでの文武両道の教育の伝統と市立千葉高校の理数教育及び稲毛高校の国際理解教育の成果が生かされている。

今後の課題

- 学校の特色や改革の成果等についてのアピールについては、さらなる工夫が必要である。（小中学校への授業公開、千葉市教育研究会を通じた交流等）
- 稲毛高校・附属中学校の施設設備の改善が必要である。（部活動等の活動場所の確保等）



千葉市教育委員会

教育総務部企画課

学校教育部学事課

☎ 043-245-5908（企画課）

043-245-5928（学事課）

Ⅲ 改革の成果と課題

1 市立千葉高校

※表中の「満足」の割合は、アンケート調査結果の「とても満足している」と「やや満足している」を合わせたものである。

※表中の「重視」の割合は、アンケート調査結果の「とても重視した」と「やや重視した」を合わせたものである。

※アンケート調査結果の()内の数値は、平成22年度に行った中間まとめの時の数値である。

※表中のページ番号は、別冊「資料編」の参照ページを表している。

※考察は、「研究会」の中で出された意見を基本としている。

No	項目	成果	課題
1	全体としての改革の成果	アンケート調査 ○「総合的に判断すると市立千葉高校に満足している」の問いに対して、生徒の76%(82%) p.10、保護者の93%(90%) p.14、卒業生の97%p.16が「満足」と回答している。 ○「充実した施設・設備」に生徒の89%(82%)p.10、保護者の98%(89%) p.14が「満足」と回答している。 ○卒業生が「特に学力の向上に有効だったもの」として、「充実した設備」「1日7限授業」等を挙げている。 p.15 ○卒業生の68%が、市立千葉高校での学習活動が卒業後の進路に生かされていると感じている。 p.16	
		考察 ※学校への満足度は高く、全体として改革は良好な成果を収めている。 ○進学重視型単位制に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなどの特色ある教育が可能になっている。 ○1年生から徹底した進路ガイダンスを実施したことで、幅広い教科に対する生徒の学ぶ意欲が向上している。 ○理数教育の成果が、十分浸透しており、卒業生の理系大学への進学率が高い。	

No	項目	成果	課題
2	多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制	基本調査 ○4年制大学への現役進学率が、平成15年度卒業生の50.5%に対して、21年度卒業生は72.7%、24年度卒業生は73.0%と上昇した。p.2 ○国公立大学現役合格者数が、平成15年度20人、21年度40人に対して、24年度は47人に増加した。p.2 アンケート調査 ○「進学指導を重視し授業時数が多く、教科指導が熱心に行われている」という設問に生徒の51%(74%) p.9・保護者の77%(82%) p.12が「満足」と回答している。 ○「単位制で多様な科目から適性や進路希望等に応じて選択して学習できる」という設問に生徒の54%(76%) p.9・保護者の83%(79%) p.12が「満足」と回答している。 ○卒業生の83%p.15が自分の希望どおりにカリキュラムを組むことができた」と回答している。また、「科目選択をするに当たり十分なガイダンスが行われている」という設問に、生徒の73%(81%) p.9・保護者の84%(80%) p.13が「満足」と回答している。 聞き取り調査 ○単位制導入により、学校設定科目の増加や幅広い選択科目の設定が実現し、生徒のニーズに対応した教育課程の編成が可能になるとともに、進路意識改革にもつながっている。p.4 ○単位制ではあるが、科目選択では類型に分け、道筋を示して生徒に選択させている。そのことで生徒は、興味関心や進路ニーズに対し、的確に対応した授業を選択している。p.4 考察 ※多様な進路ニーズに対応した「進学重視型単位制高等学校」という改革は、大きな成果を上げている。 ○「科目選択に伴う類型化」や「単位制」を導入するとともに、ガイダンス機能を徹底させており、生徒が自分の進路ニーズに応じた科目を選択し学習計画を立てることができている。 ○一方で、高校改革がスタートして7年が経過し、教職員の入れ替わりも起こり始めているが、教員人事が公募制ではないため、SSHや教科指導上の核となる教員がなかなか集まらない。今後、人材確保面での改善が課題である。	○「進学重視型単位制」は近年、県立の多くの単位制高校にも見られるようになってきた。 今後、2期制における単位の半期認定等、より発展的で、生徒にとって有意義な教育課程を検討していくことが必要である。p.4 聞き取り調査

No	項目	成果		課題
3	理数教育の伝統	交換意見	○在学中にJSEC2010(高校生による科学研究に関するコンテスト)の協賛社賞を受賞し、理系大学へ進学した卒業生がいる。p.3	聞き取り調査
		聞き取り調査	○第2期SSH(平成24年度～)では、プレゼンテーションやネイティブ実習助手による言語活動を充実させ、市立高校ならではの市の施設(動物公園、科学館など)との連携も着実に進んでいる。p.4 ○外国人理科実習助手・留学生ティーチングアシストを導入し、英語での理科授業及びプレゼンテーションが行なわれ、国際的な視野に立てる人材の育成に役立っている。p.4 ○「SSHの市立千葉」というイメージが外部に広がりつつある。教職員の中でSSHが共通認識の柱になり、良い刺激になっている。p.4	
		考察	※理数教育の伝統や成果が生徒へ十分に浸透し、進路意識の啓発につながっている。 ○理数教育に対する卒業生や保護者の満足度は、高く、平成25年度3年生の理系進学希望者は50%と非常に高い。また、24年度に4年制大学に進学した卒業生のうち35%が理系大学に進学している。	

No	項目	成果		課題
4	文武両道の伝統など	基本調査	○部活動加入率は、平成16年度の77.3%に対して、22年度は91.9%、24年度は97.3%と上昇している。p.2	聞き取り調査
		アンケート調査	○「文武両道で部活動が盛んである」という設問に生徒の76%(76%) p.10、保護者の87%(76%) p.13が「満足」と回答している。 ○「学校行事が充実している」という設問に生徒の71%(62%) p.10、保護者の92%(77%) p.13が「満足」と回答している。	
		聞き取り調査	○全学年、通年で行われている進学補習(朝及び放課後に実施)に多くの生徒が受講しており、夏季休業中にも26講座の進学補習が行われている。p.6	
		考察	※文武両道の伝統は引き継がれている。 ○生徒は部活動や行事に自覚と自信を持ち、参加し、主体的な活動を行っている。	

Ⅲ 改革の成果と課題・市立千葉高校

No	項目	成果	課題
5	中学校現場や地域へのアピールなど	アンケート調査 ○「受検に当たり、市立千葉高校の特色を高校（説明会及びホームページ）から知った」と回答した者が、生徒の49%[説明会38%+ホームページ11%] p.8(順に34%/25%/9%)・保護者の55%[説明会46%+ホームページ9%] p.12(39%/32%/7%)と一番多い。 ○卒業生の63%が、「市立千葉高校の魅力や特色は、学外の友人等に知られている」と回答している。 p.16 意見交換会 ○25年8月に千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同年9月に千葉都市モノレール千葉駅で生徒作品の展示を行い、好評を得た。 p.3 ○市内の小・中学校には、市立千葉高校の施設利用をアピールしており、今年の夏には市教研の理科の教員127名が来校し、学校を知る良い機会になった。 p.3 聞き取り調査 ○昨年、2回のSSH交流会(千葉市クロススクール科学フェスティバル・同フォーラム)により、異校種間の児童生徒の連携を深めるとともに、小・中学校の先生方との重要な交流の機会になった。 p.5 ○生徒会がクリーンアップ活動を主催したり、ダンス部、吹奏楽部及び合唱部等が、小仲台フェスティバル、小仲台地区敬老会、モノレール祭り、稲毛駅前でのコンサート等に参加したりして、地域との連携活動を行った。 p.6 ○SSH専用ホームページを作成し、地域へのアピールを積極的に行っている。 p.6 考察 ※地域や中学校現場に、さまざまな形でのアピールがなされている。さらに市立高校ならではのアピールも検討する必要がある。 ○千葉都市モノレールとの連携やSSH交流会の開催をはじめ、授業の公開、ホームページの活用、地域活動への参加等様々な方策により、市内の小・中学校及び市民に対してPRに努めているが、特色や成果等をより一層PRするための手法を研究する必要がある。 ○中学生や中学校の教員に見てもらうような、市立高校の良さを生かした積極的な授業公開等を検討していく必要がある。	意見交換会 ○文化祭は高校の内容を見る良い機会であり、毎年7月に実施しているが、その時期は中学3年生が最後の総合体育大会前に当たってしまうため、見学に行きにくいという課題がある。 P.3

No	項目	成果と課題	
6	学校現場からみた市立高校改革の方向性	考 察	※市立高校改革における「進学重視」「単位制」「理数教育重視」は、大きな成果を上げている。 ○進学重視型単位制により、教員の定数が増え、多様な選択科目の実施やSSHなどの特色ある教育が実現できている。 ○1年からの進学指導を重視しているため、受験科目の多い国公立大学進学希望の生徒が多く、実際に合格する現役生徒も増加している。 ○理数教育重視が、生徒や保護者にも十分に浸透しているため、理系大学を希望する生徒の比率（平成25年度3年生の50%）が高く、生徒の多く（4年制大学に進学した24年度の卒業生の35%）が理系大学に進学している。 ※SSHの指定など文部科学省と学校との施策調整を行うため、教育委員会事務局の組織体制の強化が必要である。 ○国からの研究指定は、当該校の成果に留まらず、地域全体に効果が波及していくことが求められている。また、多額の予算が手当てされることもあり、教育委員会事務局の組織体制の強化や、学校とのより強い連携が必要になっている。 ※市立高校改革をさらに進めるための教員の確保が課題である。 ○SSHを実施するに当たっては、高い専門性、指導力、企画力の備わった理数科教員が必要である。そのため、県立船橋高校などのSSH実施校では、教員の公募制をとっている。しかし、市立千葉高校は、現時点で公募制をとっていない。SSHを推進する教員を引き続き確保するための手立てが必要である。

2 市立稲毛高校・附属中学校

※表中の「満足」の割合は、アンケート調査結果の「とても満足している」と「やや満足している」を合わせたものである。

※表中の「重視」の割合は、アンケート調査結果の「とても重視した」と「やや重視した」を合わせたものである。

※アンケート調査結果の()内の数値は、平成22年度に行った中間まとめの時の数値である。

※表中のページ番号は、別冊「資料編」の参照ページを表している。

※考察は、「研究会」の中で出された意見を基本としている。

No	項目	成果	課題
1	全体としての改革の成果	アンケート調査 ○「総合的に判断すると附属中学校に満足している」という設問に、生徒の93%(85%) p.32・保護者の97%(97%) p.36、卒業生のうち内進生の87%・外進生の81%が「満足」p.38と回答している。 ○「中学特別教室棟や高校の施設設備を使うことができる」という設問に、内進生の87%(80%) p.32・その保護者の92%(90%) p.36が「満足」と回答している。 聞き取り調査 ○海外の語学研修受入れ校において、日本文化をリサーチした結果を生徒が発表し、極めて高い評価を得た。p.27 考察 ※学校への満足度は高く、全体として改革は良好な成果を収めている。 ○内進生と外進生が、お互いに向上心をもち、学習活動を行っており、大学進学の実績も高い成果が上がっている。 ○教育熱心な職員のもと、質の高い授業が行われ、それに生徒が積極的に参加している。 ○校内の約25%の生徒が海外語学研修を経験している。 また、真の国際人の育成に向け、英語力の育成だけでなく、社会人基礎力※の養成をメインにした取組が行なわれている。	

※社会人基礎力：「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している。企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきた。

No	項目	成果	課題
2	真の国際人を育成する中高一貫教育	アンケート調査 ○「真の国際人の育成を目指して心と体の教育も充実している」ことに「満足」と回答した生徒が85%(73%) p.31・保護者が96%(90%) p.34と増加している。 ○「先進的な英語教育」へ「満足」と回答した生徒が93%(83%) p.31・保護者が98%(92%) p.35と高い割合を示している。 ○内進の卒業生は「先進的な英語教育」が最も稲毛高校の魅力であると回答している。 p.38 意見交換会 ○専門性の高い学習が営まれており、直接、海外の大学に進学する生徒は多くはないが、国際系や海外留学に実績のある大学に進学し、海外へ出ていく卒業生は増加している。 p.25 聞き取り調査 ○英語ディベートを学ぶ学校設定科目(エッセンシャルイングリッシュⅡ)の実施により、生徒は語学だけではなく、思考力や表現力の向上につながっている。 p.27 ○海外語学研修(オーストラリア)に参加することで生徒の英語に対する見方が変わり、GTEC※の得点が上昇し、その後の英語力飛躍につながった。 p.27 ○「第5回千葉県高校生英語ディベート大会」(平成25年11月・成田国際高校で開催)第1位 「第8回全国高校生英語ディベート大会in長野」(平成25年12月・松本大学で開催)第21位。 p.27 考察 ※「真の国際人を育成する中高一貫教育」という改革は良好な成果を上げている。 ○引き続き、Call教室※やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育の充実を図るとともに、様々な体験活動を通じて、単なる知識やスキルだけではない「人格の育成を含めた教育」を行っている。 ○コミュニケーション能力の育成に努めてきた結果、自分の意見を持ちきちんと発言している生徒の姿を見ることができ、大きな成果を上げている。	聞き取り調査 ○現在、交流校が7校あるが、それらすべての学校との交流は、スタッフ面・資金面で不可能である。現在、3校のみと姉妹校交流しているが、今後、拡大が望まれる。 p.27

※GTEC: Global Test of English Communication for Studentsの略称。中高生が入試に必要な英語力、さらに社会・留学先でも使える英語力を育むことを目的としている。英語を実際に使うことを重視した問題で、「読む、聞く、書く」の3技能を測定する。絶対評価なので、技能別英語力の伸長度がわかり、多くの中学校・高校で利用されている。

※Call教室: CallはComputer Assisted Language Learningの略語。学力の向上及び外国語の授業支援、語学の自学自習のため、PCやヘッドセットを備えた教室のこと。

Ⅲ 改革の成果と課題・市立稲毛高校・附属中学校

No	項目	成果	課題
3	中高6年間の継続的な指導	アンケート調査 ○「6年間の継続的な学習指導と先取り教育」等に対して、「満足」と回答している生徒は85%(82%) p.31・保護者は93%(91%) p.35であり、中間まとめ調査時点に比べ増加している。 ○「高校の先生による専門的な指導を受ける」ことに「満足」と回答した生徒が79%(79%) p.31・保護者が84%(79%) p.35である。 ○「授業を工夫したり、補習を充実させたりして、生徒が理解できるよう努力している」という設問に対して「満足」と回答した生徒が84%(71%) p.32・保護者が84%(77%) p.35である。 ○中学入学時に「中高共同の活動」を重視した生徒は62%(53%) p.30であるが、実際に中高共同の学校行事や部活動、生徒会活動を経験した結果、満足は91%(78%) p.32と上昇している。	聞き取り調査 ○平成25年度から普通科の教育課程が統一されたことに伴い、内進生と外進生の学習進度の違いを考慮し、中高の教育内容全体を検討していくことが必要である。 p.27
		聞き取り調査 ○GTECは毎年7月に中学2年生以上の全生徒が受検しており、25年度、高校3年の内進生の平均スコアは594点（英検2級相当レベルは570点以上）であった。当初の目標は「高校2年までに英検2級に全員合格」を掲げていたが、学校として、現在、英検は個人受検でという位置づけにしていることもあり、当初の目標は達成できていると考えている。 p.27 ○内進生と外進生は、お互いが刺激しあい、高校の進路実績では改革前よりも伸びている。 p.28	
		考察 ※中高6年間の継続的な指導は良好な効果を上げている。 ○6年間の継続的な学習指導や先取り教育、先進的な英語教育、高校の先生による専門的な指導などにより、生徒の学力向上が図られており、生徒・保護者の満足度は高く、中間まとめ時よりも更に上昇している。 ○教育熱心な職員の指導のもと、質の高い授業が行われ、それに生徒が積極的に参加しており、進路実績においても成果が上がっている。 ○内進生も外進生も、真の国際人を目指す教育目標のもと、互いに切磋琢磨し、充実した学生生活を過ごしており、その成果も上がっているが、とすると「内進生重視」という見方をされてしまう場合があるため、今後、より一層の工夫が必要である。	

No	項目	成果		課題	
4	文武両道の伝統など	基本調査	○平成25年度附属中学校生徒240人中延べ232人の生徒が部活動に参加している。p.21		聞き取り調査 ○中学と高校の行事日程を組合せて計画することが難しい場合がある。 p.28
		アンケート調査	○「高校生と共同の学校行事や部活動・生徒会活動が充実している」ことに「満足」と回答した生徒が91%(78%) p.32・保護者が87%(76%) p.35である。 ○外進生の卒業生は、市立稲毛高校の魅力や特色として「文武両道」と「先進的な英語教育」を挙げている。p.38		
		聞き取り調査	○内進生は高校入試がなく、継続して部活動ができるため、高校になり活躍している部活動も見られる。p.28 ○平成24年度は高校の野球部が県大会ベスト16、バドミントン部が県大会ベスト8、ダンスドリル部が全国大会に出場している。p.28 ○中学校の野球部やサッカー部の練習場所が課題となっていたが、24年度までは公営施設を借用して対応していた。平成28年度から、隣接する学校跡施設を附属中学校で活用することが決まっている。p.28 ○中間まとめにおける「中学3年生としての自覚の形成」の課題に対し、高校とは別に中学は、学年別に生徒会を組織して独自の活動を行っている。また、中学3年生については、学校評議会の中心メンバーとして、文化祭をはじめ各種校内行事の運営に積極的に関わることで、集団における統率力や中学最高学年としての自覚を育成している。p.28		
	考察	※文武両道の伝統は引き継がれ、6年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実している。 ○中学校から継続して部活動を実施することができ、高校生になり、その当該活動の中核を担う生徒も多い。 ○1月中旬から3月中旬まで中高の入試期間が続くため、その間、部活動が継続して活動できないといった短所が生じている。 ○多くの部活動が中高一緒に活動しており、中学生は高校生から大きな刺激を受けている。 ○部活動の活動場所が不足している課題については、近隣の施設や小学校跡施設の校庭や体育館を使用することで対応を図っている。			

Ⅲ 改革の成果と課題・市立稲毛高校・附属中学校

No	項目	成果		課題	
5	教育ニーズの多様化への対応	基礎調査	○附属中学校における入学者選抜の倍率は、開設時以来、10倍を超えている。P.20	意見交換会	○公立中等教育学校及び併設型中学校の入学者選抜については、学校教育法で学力検査を行わないことになっている。そのため適性検査を実施しているが、入学後の生徒の学力差が課題となっている。P.26
		アンケート調査	○受検に当たって「高校受検がなくそのまま稲毛高校へ進学できる」ことを「重視」した保護者が82%(84%) P.33と減り、「真の国際人の育成」88%(86%) P.33、「6年間の継続的な学習」94%(88%) P.33、「先進的な英語教育」94%(87%) P.33が上昇している。 ○入学後も「高校受検を意識せずに学習や諸活動に取り組むことができる」ことに対する満足度は、生徒で92%(94%) P.31・保護者で94%(90%) P.34となっている。 ○「生活に関する相談や指導が充実」の問いに対する満足度は生徒で69%(51%) P.32・保護者で84%(69%) P.36と、中間まとめ時より上昇している。		
		意見交換会	○附属中学校に入学を希望する児童は多いが、倍率が高く、入学しにくい状況がある。P.26 ○「真の国際人の育成」という学校の特徴を理解した、本当に入学したいと思っている生徒が入学できると良い。P.26		
		聞き取り調査	○特に英語と数学については、教科担当レベルでの個人指導を通年で実施している。また、高校生になってからも、中学の先生が成績不振者を対象に課外補習を実施している。P.28 ○今年度から養護教諭が1人増員になり、中高3人体制になったため、従来のスクールカウンセラーに加えて相談体制が強化された。P.28		
		考察	※教育ニーズの多様化の中、附属中学校の成果は受検生やその保護者に着実に伝わっており、公立中学校の新たな選択肢として定着している。 ○附属中学校へ進学を希望する児童は毎年多く、中間まとめに比べ、「真の国際人の育成」、「6年間の継続的な学習」、「先進的な英語教育」等の特色をよく理解して入学する生徒・保護者が増加している。また、進学後も附属中学校の特色に対する満足度は高い。 ○入学後の学力差や、メンタル面のケアに対しても、担任やスクールカウンセラーによる個別相談及び養護教諭の増員で対応している。		

No	項目	成果	課題		
6	小学校現場や地域へのアピールなど	アンケート調査	○保護者のうち、「受検に当たり附属中学校の情報を附属中学校（説明会及びホームページ）から知った」と回答した者が全体の71%[説明会64%+ホームページ7%] P.34と一番多い。なお、生徒は保護者から知ったと回答した者が一番多く、46%(44%) P.30となっている。	アンケート調査	○保護者のうち、「受検に当たり附属中学校の情報を小学校の先生から知った」と回答した者が全体の1%(2%) P.34であり、生徒では2%(10%)と非常に少ない。 P.30
		意見交換会	○文化祭で実施した三線演奏やエイサー等は、文化祭後も様々なところで披露し、好評を得ている。 P.26	意見交換会	○文化祭は高校の内容を見る良い機会であり、毎年7月に実施しているが、その頃は中学3年生が最後の総合体育大会前に当たってしまうため、見学に行きにくいという課題がある。 P.26
		聞き取り調査	○小学校の児童・保護者向けには、学校説明会と学校見学会を7月と11月に実施している。小学校の教員に対しては、職員向け説明会で、学校の紹介と出願方法の説明をしている。 P.28 ○千葉市教育研究会国際理解部会等、本校を参観したい希望があれば受け入れており、中学校職員の初任者研修でも授業を公開している。 P.28 ○吹奏楽部やESS等の部活動は、近隣の小中学校との交流活動を行っている。 P.28 ○中学1年生は「地域を知る活動の一環」として稲毛の浜の清掃活動を行っている。また、中学2年生は職場体験学習で、地域の各事業所に受け入れていただいている。 P.28		○国際教養科は普通科に勝るとも劣らない実績を残している。その進路実績等をもっと強調して外部に伝えていく必要がある。 P.26
	考察	※改革の大きな成果を、より外部へ発信することが必要である。 ○中間まとめの課題を踏まえて、各種説明会・学校公開・近隣小中学校との交流活動等さまざまな方策がなされており、学校の特色が受検生やその保護者に伝わっている。また、今後、改革による生徒の大きな成果を、より外部へ発信することが必要である。 ○引き続き、同じ市立の学校として、附属中学校のことをもっと知り、交流を図ろうとする小学校側からの働きかけも必要である。			

No	項目	成果と課題
7	学校現場からみた市立高校改革の方向性	※市立高校改革における「真の国際人を育成する中高一貫教育」は大きな成果を上げている。 ○英語に対する豊富な学習量に支えられた語学力を基盤に、学校設定科目（エッセンシャルイングリッシュⅡ）や、キーワードだけを使ったプレゼンテーションの訓練により、英語による表現力や思考力が習得できている。 ○帰国生徒は少ないものの、校内の約25%の生徒が海外語学研修の経験を持ち、ネイティブ教員に積極的に指導を仰ぎ、県スピーチコンテストで優勝したり、日本文化のリサーチに基づいた発表を行ったりして、海外の学校でも高い評価を受けるといった成果も出ている。 ○生徒の知識や技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等のバランスのとれた「生きる力」の育成が行われており、社会人としての基礎力の養成にもつながっている。 ※大きな成果に対する外部への発信がより必要である。 ○さまざまな成果を本校生徒だけで享受するのではなく、より外部の学校や教育機関にアピールすることが必要である。 ※海外語学研修の受け入れに対する課題がある。 ○生徒の海外語学研修は大きな成果を上げており、海外の学校からの評価も高い。現在、交流校が7校あるが、それらすべての学校との交流は、スタッフ面・資金面で不可能である。現時点では、3校のみと姉妹校交流しているが、今後、拡大が望まれる。 ※内進生重視という見方をされてしまう課題がある。 ○市立稲毛高校では普通科の内進生・外進生のほか、国際教養科の生徒や附属中学校の生徒と一緒に学習している。すべての生徒に満足してもらえる学校経営を行っており、進路状況等、それぞれの相乗効果もでているが、一方で、内進生重視という見方をされてしまうケースがあり、今後の課題となっている。 ※入学者選抜の形態等で生じている課題がある。 ○1月中旬から3月中旬まで中高の入試期間が続くため、授業や部活動に制限が出たり、職員の業務量が増加したりするなどの課題が生じている。 ※市立高校改革をさらに進めるための教員の確保が課題である。 ○中学校の職員は県費負担教職員であり、高校は市費負担教職員となっていることから、勤務条件等の違いが生じている。都道府県から指定都市への権限移譲（補）を見据えながら、一方で優秀な教職員を確保するための公募制の検討も必要である。 （補）市町村立小中学校等に係る県費負担教職員の給与等の負担・定数の決定・学級編成基準の決定に係る権限について、都道府県から指定都市への移譲が平成25年12月20日に閣議決定している。

IV 最終まとめを終えて

平成25年度に実施した本市高等学校改革の評価・検証結果を改めて整理すると、次のとおりとなる。

1 中間まとめにおける改革の課題への対応

(1) 学校の特色や改革の成果等のアピールについて

両校とも各種説明会、学校公開、近隣小・中学校との交流活動等の実施に加え、市立千葉高校では、千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同モノレール千葉駅構内での生徒の作品展示、SSH専用ホームページの開設等を行った。

また、市立稲毛高校・附属中学校では、千葉市教育研究会国際理解部会の開催に向けた協力や、市内中学校職員の初任者研修における授業公開、文化祭で好評を得たエイサーと三線演奏を地域でも披露するといった積極的な活動を行った。

(2) 市立稲毛高校・附属中学校の施設設備の改善について

昨年度まで、部活動等の活動場所については、千葉市中央卸売市場のグラウンドを借用し、対応していたが、平成28年度より、隣接する高浜第二小学校跡施設の校庭と体育館を附属中学校で活用することとした。

2 改革の成果

(1) 市立千葉高校における主な成果

- ① 進学重視型単位制の導入に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなどの特色ある教育が可能になった。
- ② 「充実した施設・設備」に対する満足度が高く、「1日7限授業」や「生徒の学習ニーズに対応した選択教科」の導入が、生徒の学ぶ意欲の向上につながった。現役生の4年制大学への進学率や国公立大学合格者数は、順調な伸びを示している。
- ③ 理数教育の伝統や成果が生徒へ十分に浸透しており、理系大学に進学を希望する生徒の比率が高く、実際に進学する生徒も多い。
- ④ 文武両道の伝統は引き継がれ、生徒は自覚と自信を持ち、部活動や行事に参加し、主体的に活動を行っている。

(2) 市立稲毛高校・附属中学校における主な成果

- ① 「真の国際人を育成する中高一貫教育」「中高6年間の継続的な指導」「先進的な英語教育」は、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。
- ② 先進的な英語教育と6年間の継続的な指導により、高い英語力とコミュニケーション能力が育成されている。
- ③ 進路実績において、現役生の4年制大学への進学率や国公立大学合格者数は順調な伸びを示している。
- ④ 部活動や学校行事等、6年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実しているため、入学前の期待度以上に高い満足度が得られている。

「基本方針」に基づく本市の高等学校改革は、良好な成果を収めている。

- ① 市立千葉高校及び市立稲毛高校・附属中学校は、進路ニーズや教育ニーズの多様化へ適切に対応できており、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。
- ② これまでの文武両道の教育の伝統と、市立千葉高校における「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制」及び市立稲毛高校・附属中学校の「真の国際人の育成を目指す中高一貫教育」という改革の特色が調和し、良好な成果を収めている。
- ③ 教育活動に対する行政の支援と、教育熱心な教職員の指導の下、質の高い授業が行われ、生徒が積極的に授業に参加していることにより、教育効果が上がっている。

3 課題

(1) 市立高等学校改革の成果等におけるさらなるアピール

- ・市立高等学校の成果や効果をより地域全体へ波及させるために、積極的な授業公開や文化祭の開催時期を検討するとともに、地域との連携を強化し、外部の学校や教育機関にも成果の発信をする必要がある。

(2) 市立高等学校改革の実効性を高める上での優秀な人材の確保

- ・改革後7年が経過し、改革当初から勤務する教職員は、異動により入れ替りが生じつつある。今後も、先進的な理数教育や英語教育を継続していくためには、引き続き優秀な教職員を確保することが必要であり、公募制の実施に向けて検討する必要がある。
- ・実効性のある取組が可能となるように、教職員の増置など配置の改善や実施方法の工夫が必要である。

(3) 教育課程上の課題に対する手立て

- ・市立千葉高校における進学重視型単位制のメリットを更に生かし、達成度テスト(仮称)など大学入試改革に対応した教育課程の編成に向けた検討を行う必要がある。
- ・市立稲毛高校においては、平成25年度から普通科の教育課程が統一されたことに伴い、内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した、中高の教育内容全体を検討していくことが必要である。

(4) 教育委員会事務局の組織体制の強化

- ・課題への対応を図り、より魅力ある市立高等学校づくりを推進するために、教育委員会事務局の組織体制の強化や学校とのより強い連携が必要である。

〈検討すべき主な課題〉

短期的に対応を必要とするもの

- 学校の成果等についてのさらなるアピール
- 有意義な教育課程の編成を行える環境の整備
- 進学校としての部活動と家庭学習時間の確保

中・長期的に検討を必要とするもの

○優秀な教職員の確保

○教育課程上の課題への手立て

- ・単位制のメリットをより生かした、発展的な授業編成等の検討(市立千葉高校)
- ・内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した中高の教育内容全体の検討(市立稲毛高校・附属中学校)

○教育委員会事務局の組織体制や学校との連携の強化

○第2期SSH後における理数教育成果の継続(市立千葉高校)

○附属中学校の入学者選抜のあり方(市立稲毛高校・附属中学校)

4 今後の方向性

平成17年6月に策定した「千葉市立高等学校改革基本方針」に基づき、市立千葉高校及び市立稲毛高校は、「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制高等学校」と「真の国際人を育成する中高一貫教育校」に生まれ変わった。

そして、改革後7年が経過し、SSH事業や海外語学研修をはじめとする国際理解教育の成果等により、生徒の進路実績や学校生活に対する満足度が両校とも上昇している。

一方、平成23年6月に本市では、「科学都市戦略事業方針」を策定し、「科学都市ちば」の実現に向けた取組を推進している。そのためにも、市立千葉高校は、今後、千葉市における小・中学校の理数教育をリードする役割を担い、理数教育の核となる学校を目指すことが求められており、その役割は一層重要なものになっている。

また、昨年、文部科学省では平成32年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、「グローバル化に対応した英語教育改革計画」を公表し、英語教育の体制整備を行うとともに、日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実を推進している。すでにグローバル化に対する先進的な取組を行い、高い成果を上げている市立稲毛高校・附属中学校においては、今後も「真の国際人を育成する教育」に励み、より発展することが期待される。

この「最終まとめ」では、これまでの成果と課題を改めて洗い出してきたが、この検証を踏まえ、これからの市立高校のあり方やその姿を実現していく上で必要となる対応を検討していく必要がある。

平成25年度千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会

1 構成員

番号	所 属	職	氏 名	備 考
1	教育総務部企画課	課長	大崎 賢一	議長
2	学校教育部学事課	課長	小川 彰	副議長
3	千葉市立千葉高等学校	校長	三木 千恵子	
4	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校	校長	山本 昭裕	
5	千葉市中学校長会代表（おゆみ野南中学校）	校長	重田 裕一	
6	千葉市小学校長会代表（園生小学校）	校長	三野宮 純一	
7	学校教育部教職員課	管理主事	根本 厚	
8	学校教育部指導課	指導主事	平野 正春	
9	学校教育部指導課	指導主事	山口 喜弘	
10	学校教育部保健体育課	指導主事	岸平 直子	
11	千葉市教育研究会代表（長作小学校）	教諭	鳥海 亮	

2 「中学校長代表対象意見交換会」参加校長

番号	学 校 名	氏 名	千葉市小中学校長学校運営協議会役職
1	生浜中学校	佐藤 好美	理事
2	若松中学校	實川 純一	進路指導委員会専門委員長
3	大宮中学校	四ノ宮 貫	進路指導委員会副委員長
4	山王中学校	小林 一茂	進路指導委員会委員
5	稲毛中学校	大木 茂	進路指導委員会委員

3 「小学校長代表対象意見交換会」参加校長

番号	区	学校名	氏 名	千葉市小中学校長学校運営協議会役職
1	中央区	松ヶ丘小学校	町井 公明	総務委員
2	花見川区	瑞穂小学校	川田 文和	総務委員
3	稲毛区	稲毛小学校	塚原 久江	総務委員
4	若葉区	若松小学校	長谷部 敏一	総務委員
5	緑区	平山小学校	及川 聖彦	総務委員
6	美浜区	海浜打瀬小学校	引地 清人	総務委員

4 事務局

番号	所 属	職	氏 名	備 考
1	教育総務部企画課	統括管理主事	池田 亘宏	
2	学校教育部学事課	統括管理主事	森 健	
3	学校教育部学事課	指導主事	植草 茂生	
4	教育総務部企画課	主査	小口 祐司	
5	教育総務部企画課	主査補	望月 宏次	

千葉市立高等学校改革の評価・検証

～最終まとめ～ 本 編 平成26年3月

千葉市教育委員会教育総務部企画課

学校教育部学事課

〒260-8730 千葉市中央区問屋町1-35

千葉ポートサイドタワー12階（企画課）

11階（学事課）

043-245-5908（企画課） 043-245-5928（学事課）

千葉市立高等学校改革の評価・検証

～ 最終まとめ ～

資料編 各種調査の結果

平成26年3月

千葉市教育委員会

目 次

資料編 各種調査の結果

1 市立千葉高校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1～19
(1) 基本調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(2) 小・中学校長代表対象意見交換会結果・・・・・・・・	3
(3) 聞き取り調査結果・・・・・・・・・・	4
(4) アンケート調査結果・・・・・・・・・・	7
 2 市立稲毛高校・附属中学校 ・・・・・・・・・・	 20～41
(1) 基本調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	20
(2) 小・中学校長代表対象意見交換会結果・・・・・・・・	25
(3) 聞き取り調査結果・・・・・・・・・・	27
(4) アンケート調査結果・・・・・・・・・・	29

千葉市立高等学校改革の評価・検証 ～最終まとめ～ 本編

I 千葉市の高等学校改革 ・・・・・・・・・・	1～7
1 改革の背景・経過・・・・・・・・・・	1
2 千葉市の高等学校改革の概要・・・・・・・・	2
 II 評価・検証の目的と進め方 ・・・・・・・・	 4
1 目的・・・・・・・・・・	4
2 進め方・・・・・・・・・・	4
(1) 評価・検証の年度(中間まとめと最終まとめ)・・・・・・・・	4
(2) 「千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会」・・・・・・・・	4
(3) 各種調査(平成25年度)・・・・・・・・	5
 III 改革の成果と課題 ・・・・・・・・・・	 8～19
1 市立千葉高校・・・・・・・・・・	8
2 市立稲毛高校・附属中学校・・・・・・・・	13
 IV 最終まとめを終えて ・・・・・・・・・・	 20～22
1 中間まとめにおける改革の課題への対応・・・・・・・・	20
2 改革の成果・・・・・・・・・・	20
3 課題・・・・・・・・・・	21
4 今後の方向性・・・・・・・・・・	22
 平成25年度千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会・・・・・・・・	 23

1 市立千葉高校

(1) 基本調査結果

ア 生徒数等 (各年度5月1日現在)

【クラス数】

	平成16年度			平成22年度			平成25年度		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
普通科	8	8	8	7	7	7	7	7	7
理数科	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学年合計	9	9	9	8	8	8	8	8	8
学校合計	27			24			24		

【生徒数】

		平成16年度			平成22年度			平成25年度		
		男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
普通科	1年	177	145	322	140	144	284	161	125	286
	2年	166	158	324	154	131	285	142	143	285
	3年	167	152	319	162	116	278	118	162	280
	合計	510	455	965	456	391	847	421	430	851
理数科	1年	30	10	40	32	7	39	28	12	40
	2年	29	11	40	29	11	40	22	18	40
	3年	30	10	40	24	15	39	27	12	39
	合計	89	31	120	85	33	118	77	42	119
学校合計		1085			965			970		

【入学者選抜】

			平成16年度	平成22年度	平成25年度
入学志願 倍率	特色 &前期 学力	普通科	3.75	3.86	2.66
		理数科	5.50	3.90	3.17
	特色 &後期	普通科	1.30	2.34	1.71
		理数科	1.50	2.64	2.88

【居住区別生徒数】

			中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	他市町村	合計
平成16年度	1年	普通科	63	56	55	43	53	52	0	322
		理数科	2	2	3	1	4	3	25	40
	2年	普通科	47	48	80	53	55	40	1	324
		理数科	3	0	4	4	1	0	28	40
	3年	普通科	51	46	67	59	52	42	2	319
		理数科	3	2	4	4	3	4	20	40
平成22年度	合計	普通科	161	150	202	155	160	134	3	965
		理数科	8	4	11	9	8	7	73	120
	1年	普通科	55	44	62	39	40	44	0	284
		理数科	3	4	0	2	5	2	23	39
	2年	普通科	47	46	52	26	72	42	0	285
		理数科	4	3	8	4	1	2	18	40
平成25年度	3年	普通科	48	33	60	39	54	43	1	278
		理数科	4	2	1	3	3	1	25	39
	合計	普通科	150	123	174	104	166	129	1	847
		理数科	11	9	9	9	9	5	66	118
	1年	普通科	52	35	53	49	45	51	1	286
		理数科	2	2	1	1	0	3	31	40
平成25年度	2年	普通科	50	62	51	26	36	59	1	285
		理数科	0	3	3	2	3	3	26	40
	3年	普通科	34	53	53	38	38	62	2	280
		理数科	2	2	3	2	2	2	26	39
	合計	普通科	136	150	157	113	119	172	4	851
		理数科	4	7	7	5	5	8	83	119

【職員数】

		平成16年度	平成22年度	平成25年度
実働職員 (臨任含む)	全職員	68	72	73
	生徒指導部職員	9	9	8
	進路指導部職員	9	10	11
	教務部職員	9	11	13
	数学科職員	10	12	13
	理科職員	11	12	12

【部活動】

	平成16年度			平成22年度			平成25年度		
	部活数	参加数	参加率	部活数	参加数	参加率	部活数	参加数	参加率
運動系	16	600	55.3%	16	622	64.5%	16	643	66.3%
文化系	18	239	22.0%	17	265	27.5%	17	301	31.0%
合計	34	839	77.3%	33	887	91.9%	33	944	97.3%

【進路】

			平成16年 (平成15年度卒)	平成22年 (平成21年度卒)	平成25年 (平成24年度卒)
大学	国公立	男子	15	21	32
		女子	5	18※	15
		合計	20	39※	47
	私立	男子	79	94	73
		女子	84	98	113
		合計	163	192	186
短期大学		男子	1	1	0
		女子	18	3	3
		合計	19	4	3
専門学校		男子	6	1	1
		女子	13	1	1
		合計	19	2	2
就職		男子	1	0	0
		女子	1	0	1
		合計	2	0	1
未定 (次年進学希望等)		男子	93	54	64
		女子	46	27	16
		合計	139	81	80

※合格者は女子18人、合計40人だが、1人は入学辞退。

イ 教育課程(普通科)

課程・学科		改革前 (平成18年度入学生用教育課程)	改革後 (平成22年度入学生用教育課程)	現行 (平成24年度入学生用教育課程)
		全日制・普通科	全日制・普通科(単位制)	全日制・普通科(単位制)
学校 設定 科目 数	国語		4科目	4科目
	地理歴史		4科目	4科目
	公民		3科目	3科目
	数学		4科目	4科目
	理科		4科目	4科目
	保健体育		1科目	1科目
	外国語		2科目	2科目
	家庭		1科目	1科目
選択 科目	1年	a選択(2単位)3科目から1科目選択	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ(2単位)から1科目選択	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ(2単位)から1科目選択
	2年	a選択(2単位)3科目から1科目選択	物理Ⅰ・生物Ⅰ・地学Ⅰ(4単位)から1科目選択	化学・生物基礎・地学基礎(2単位)から2科目選択(SSHコースは化学は必須)
		b選択(4単位)3科目から1科目選択	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ・家庭研究(2単位)から1科目選択	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ・家庭研究(2単位)から1科目選択
		c選択(2単位)3科目から1科目選択	a選択(2単位)3科目から1科目選択 b選択(2単位)6科目から1科目選択	b選択(2単位)7科目から1科目選択
	3年	a選択(3単位)11科目から1科目選択	a選択(4単位)7科目から2科目選択	a選択(4単位)8科目から2科目選択
		b選択(2単位)8科目から1科目選択	b選択(3単位)9科目から2科目選択	b選択(3単位)4科目から2科目選択
		c選択(4単位)4科目から1科目選択	c選択(2単位)12科目から2科目選択	c選択(2単位)12科目から2科目選択
		d選択(3単位)7科目から1科目選択	d選択(2単位)15科目から2科目選択	d選択(2単位)15科目から2科目選択
	サイエンスキャンプ講座	1年対象、希望者による選択科目(週1時間)		1・2年対象、希望者による選択科目(週1時間)
				2・3年対象、本人の希望をもとに学校の推薦を得た者が履修(週1～2時間)

(2) 小・中学校長代表対象意見交換会結果

※ (小) 小学校長代表 (中) 中学校長代表

No	項目	小・中学校長代表から	市立千葉高校から
1	理数教育の伝統	第1期SSHの卒業生の活躍状況は？(小)	1期の卒業生は、現在、ドクターコースに進学したぐらいの年齢である。また、高校時代にJSEC2010(高校生による科学研究に関するコンテスト)の協賛社賞(JFEスチール賞)を受賞し、それにより理系大学へ進学した卒業生などがある。
2	教育ニーズ多様化への対応	教職員研修の中での大学との連携は？(小)	SSHの授業のために原書を読んで勉強をしたり、All Englishで理科の授業を展開したりする教員もいる。クロスカリキュラムについて、大学の協力を得て教員が研修している場合もある。また、予備校などの授業研修に参加し、教科指導力の向上を目指している教員もいる。
		広い意味でのキャリア教育について伺いたい。(中)	生徒は大学進学希望が多いため、学部学科研究や講義体験などを行っている。SSH事業による外部機関との連携をすることもキャリア教育の一環になっている。 また、数は少ないが、市役所、県庁などでのインターンシップに参加する生徒もいる。
		習熟度別授業などの展開はどうなっているのか。(中)	数学などで実施しており、生徒の学力向上に効果が見られている。
3	小中学校現場や地域へのアピール	先進的な理数教育をもっと(中学等に)知ってもらおうと良いのは？(中)	市内の先生方の研究組織「千葉市教育研究会」における夏の理科部会を本校で実施し、127名の中学の先生方が来校した。今後もこのような機会を増やしていきたいと考えている。
		モノレール車内に生徒の作品を掲示発表したのは良いアイデアだと思う。(中)	平成24年度のSSH運営指導委員会特別委員の市長の提案に基づき、実施しており、非常に好評を得たため、8月の車内掲示に加え、9月に千葉駅コンコースで掲示発表を実施した。
		市立の高校なので「ちば市政だより」など利用してアピールをしてはどうか？(中)	「市政だより」は、市政全体の情報なので高校の内容を掲載するのは限界がある。「教育だよりちば」の活用などで、市立高校の情報掲載を増やせたら良いと思う。
		文化祭は高校の内容を見る良い機会であるが、市立両校とも7月に実施している。その頃は、中3生は最後の総合体育大会前で見学しにくい。(中)	進学校は高3の夏休みを大学受験に向けた大切な時期ととらえ、センター試験に間に合わせるためにも7月に文化祭を実施してしまう傾向にあるため、今後の検討課題として認識している。

(3) 聞き取り調査結果 対象：市立千葉高校校長・教頭・教務主任等

No	項目	意見
1	進学重点型 単位制高校 について	単位制導入により「教員定数」が増え、学校設定科目を多く設定したり、選択科目を広く開講できたりすることは、生徒の進学に有効であり、進路意識改革につながっている。
		市立高校改革の立ち上げ当初は、「単位制」は目新しいものだったが、現在は、かなり多くの高校で実施している。「進学重視型」も県立の多くの単位制高校に見られる。何らかの工夫が必要かもしれない。「2期制の単位半期認定」の導入や、大学などとのSSH講座を10単位分程度「学校外の学修」の単位として認定するなどを検討してもよいと思う。 また、千葉大学の飛び級が2年修了時に加え、3年秋も可能になるということもあり、半期認定を導入したら有効に機能すると思われる。
		選択科目が多く、生徒が自分で選ぶには指導が必要である。その点、市立千葉は類型に分けて、選択の道筋を示していることが有効に作用している。
		ガイダンスカウンセリングは、教務担当者が中心に行っている。科目選択のしおりを1年次より配布し、実際の選択では、進路の方向性に従い選択科目の類型化により対応している。
		授業を1日6限から7限にしたことが、生徒の進路意識の高揚につながっている。また、選択科目や少人数授業は、職員数により制約があるが、成果は上がっている。国公立大の合格者も20人台から40人台に伸び、今年度も47人が合格している。現役進学率も50%台から75%程度に伸びた。
		単位制への移行と生徒指導面の関係はわからないが、最近、生徒の生活行動や服装面は落ち着いている。進学重視をしたことの成果なのか、生徒そのもの変化なのかは不明である。
2	理数教育 の伝統	第1期SSHの連携講座の成果から、第2期SSHは、プレゼンテーションやネイティブ実習助手による言語活動を充実させており、市立高校のメリットである市の施設との連携なども、着実に進んでいる。具体的には外国人理科実習助手・留学生ティーチングアシストを導入し、英語での理科授業及びプレゼンテーションが行なわれ、国際的な視野に立てる人材の育成に役立っている。また、第2期SSHにおいては、今年度、普通科SSHコースが始まり、次年度には全学年でクロスカリキュラム※を展開する予定である。なお、全校的な取組として、徐々に理数以外の教科担当にも理解が進んでいる。
		「SSHの市立千葉」というイメージが外部に広がりつつある。 また、校内でもSSHが共通認識の柱になってきている。理科以外の教科でも、外部人材を活用する取組などを行う教員が出て来ており、よい意味でSSHが学校の刺激になっている。外部の力を借りるノウハウが浸透し始めており、消費生活センターや弁護士が授業に加わるといった例が見られる。ただし、中心になっている職員は忙しい。仕事を割振りしきれない状況もあり、どこまで関わって良いかが難しい状況がある。

※クロスカリキュラム：ここでは全ての教科にサイエンスの切り口を取り込み、教科・科目の垣根を超え、教員の特質を生かした、より専門性の高い授業を学校全体で行うことを示す。

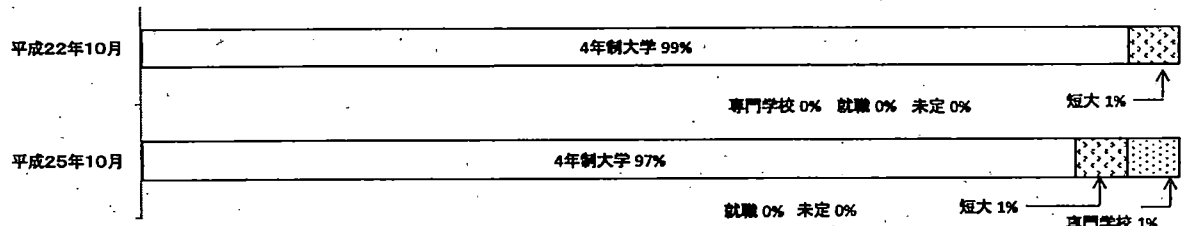
		理数の市立千葉、国際の市立稲毛、両校の学校経営の特徴が受検生や保護者に分かりやすい。県内のSSH校の中でも市立千葉は、全国的に有名である。市立という行政に近い環境で教育活動を実施できることが、その一つの要因であり、更に、理数系の伝統もSSHに磨きをかけている。 ただし、担当教員の負担と人材の確保が課題である。SSHを進めるには、専門性、調整能力、指導力のある教員が必要であり、県立高校のように教員の公募をかけられないだろうか。また、フィールドワークに十分な引率教員を配置できるよう予算化をお願いしたい。 クロスカリキュラムに興味・関心を持っている生徒が多いことから、今後、理系・文系を問わず広げていく予定である。普通科の生徒でも、クロスカリキュラムの課題研究を大学入試の際に生かす生徒が出てきている。 現在の2・3年生は、第2期SSH指定の前の入学者であり、1年生は、採択後の入学者である。そのため理科に対する意識に若干の差はある。 そういう意味でも、今後、第2期SSHが終了後に理数教育の成果や伝統をどのように継承していくかが課題である。 理科担当の教員は、とても大変であり、文系担当教員の協力が必要である。教職員の人数は、決まっているので、理数系以外の科目での少人数、習熟度授業を実施することは難しい状況がある。また、全校が理系中心の学校ということではなく、普通科7クラス中4クラスは文系の生徒もいる。SSHを目的に入学する生徒もいるが、極端に多いということではない。
3	中学校現場や地域へのアピールなどについて	市立高校の利点として地域との連携をしやすい環境にあるが、授業公開に関しては、現在、小中台中学校や園生小学校など、近い学校との連携に過ぎない状況もある。県立高校が取り組んでいる「授業練磨」のように、市内小・中学校の先生方に授業を見てもらう機会を増やしていけると良いと思う。 昨年、11月に千葉市クロススクール科学フェスティバルを開催し、千葉市動物公園動物科学館において小学生、中学生、高校生のポスターセッションを実施した。高校生が小・中学生に対して意見を述べるとともに、逆に小学生が予想以上に良い発表をしており、高校生も刺激になった。12月には同科学フォーラムを市立千葉高校で行い、中学生のプレゼンテーション発表を行った。このようなSSH交流会には、小・中学校の先生方にも参加していただいております、小・中学校との重要なパイプづくりになっている。 中学へのアピールでは、先生方の会議等を含め、市立千葉高校を利用してもらえるように訴えている。市内の先生方の研究組織「千葉市教育研究会」における夏の理科部会を本校で実施し、中学校の127名の先生方に来校いただいた。小・中学校が秋休みのときなど、中学生や中学の先生方に見てもらえるように積極的な授業公開を行っていきたい。

		中学へのアピールということも含め、中高の人事交流を進められないか。または、高校の教員が中学の授業に出かけたり、中学の先生に高校の授業に参加してもらったりするなど、中高のクロスカリキュラムも市教委を含め検討したら良いと思う。 中学校の先生が、高校の内容を知らないケースが多い。授業公開や施設見学がもっと必要だと思う。 生徒会が主催したクリーンアップ活動や、ダンス部と吹奏楽部及び、合唱部等が参加した小仲台フェスティバル、小仲台地区敬老会、モノレール祭り、稲毛駅前でのコンサートといった外部への活動も行っている。 SSHの専用ホームページを作るなど、積極的なアピールも行っている。
4	文武両道について	進学校における部活動として、下校時間の配慮や、土日のどちらかは活動を休止するなど、勉強時間を確保することが必要である。その辺をより徹底すると良いと思う。文武両道の伝統は守られていると思う。 「文武両道」はどこの進学校も掲げている。新しい言葉が必要ではないか。 全学年、通年で行われている進学補習(朝及び放課後に実施)に多くの生徒が受講しており、夏季休業中にも26講座の進学補習が行われている。 文武両道は、聞こえは良いが、どっちつかずの感もある。進学重視というわりには、中途半端な気もする。勉強に関してストレスを感じている生徒はあまりいない様子であり、学校を楽しんでいる生徒が多い。反面、部活などでも最後の踏ん張りが効かない面も見受けられ、学習でも最終的に3年になって焦り始める生徒もいる。
5	その他	県立高校は、公募制で職員を集めているが、市立高校で公募にすることはできないのであろうか。もしくは、優秀な中学の先生が高校で教壇に立つことはできないのか。 また政令市なので、大学を設置し、その下に市立高校があつて、独自の高大連携教育などという大胆な改革も検討が必要に思う。 科学都市戦略とのリンクをもっと進める必要がある。互いに補完する部分は大きいと思う。

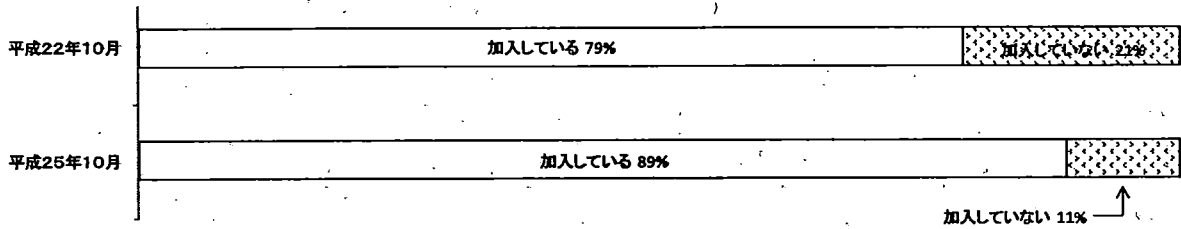
（４）アンケート調査結果

ア 生徒対象（普通科第３学年）

１ 高校卒業後の進路希望について

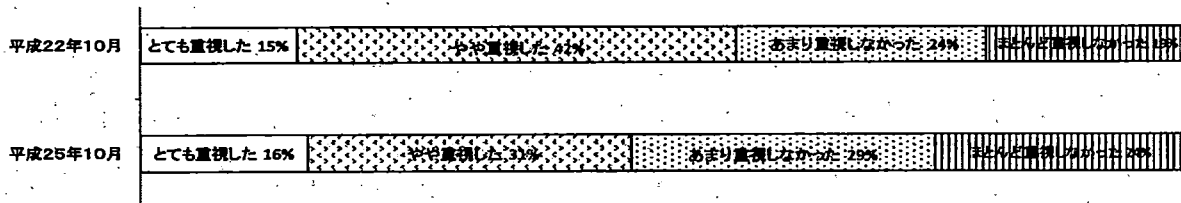


２ 部活動に加入しているか。

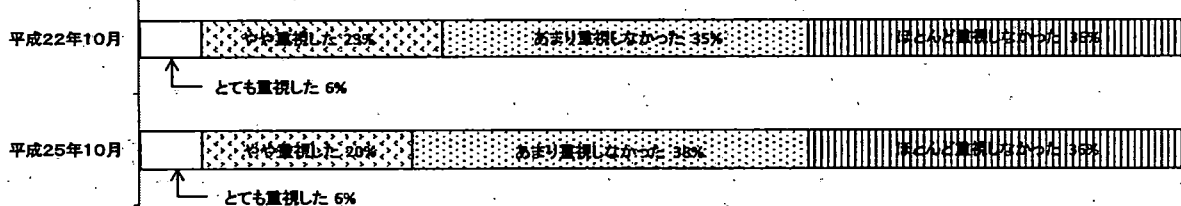


３ 中学３年生の時、市立千葉高校普通科を受検するにあたり、次の各項目について、どの程度重視したか。

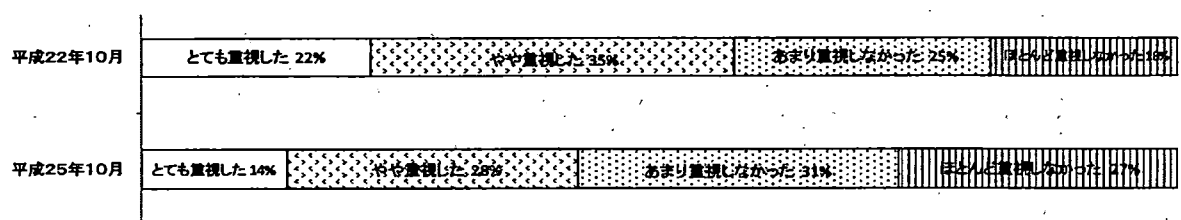
（１）進学重視型の単位制である。



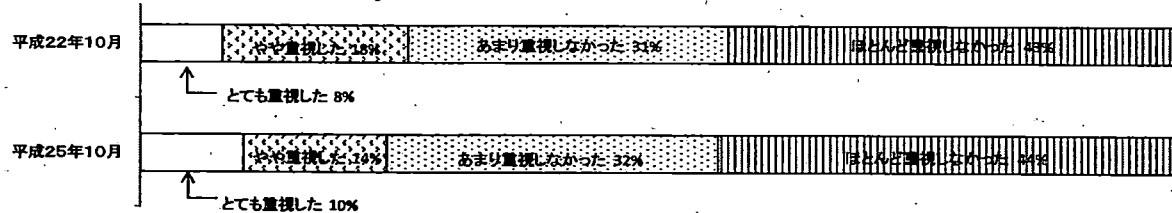
（２）１日４５分７時間授業を行っており授業時数が多い。



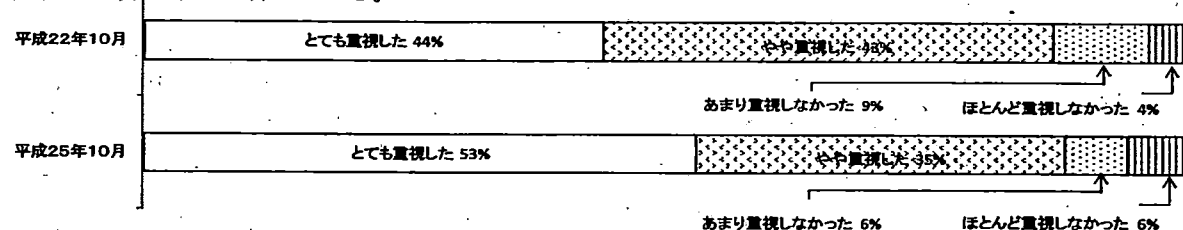
（３）選択科目が充実しており自分の興味関心・適性・進路希望に応じた学習ができる。



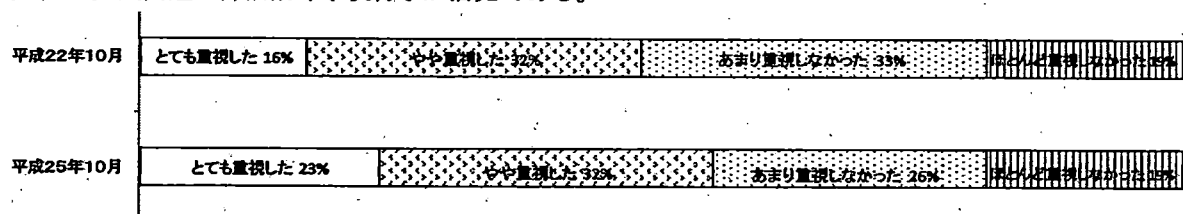
(4) 理数教育が充実している。



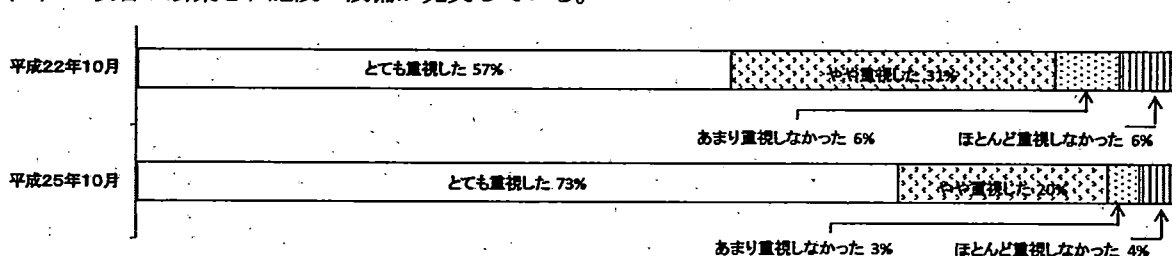
(5) 自分の学力に合っている。



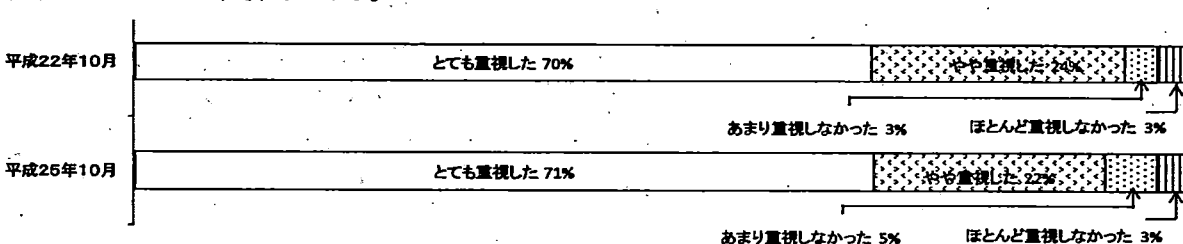
(6) 文武両道で部活動や学校行事が活発である。



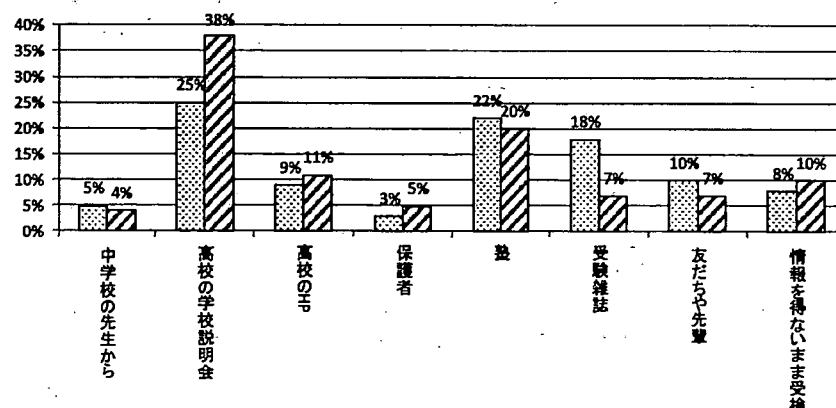
(7) 校舎が新築され施設・設備が充実している。



(8) 公立なので経済的である。



4 中学校3年生の時、市立千葉高校普通科を受検するにあたり、その特色についてどこ(誰)から知ったか。

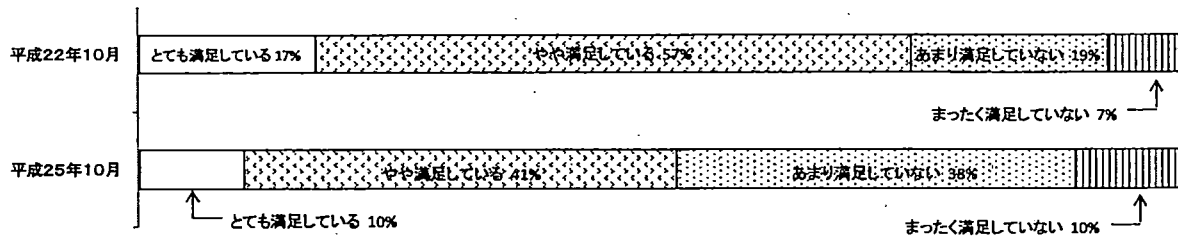


■ 平成22年10月

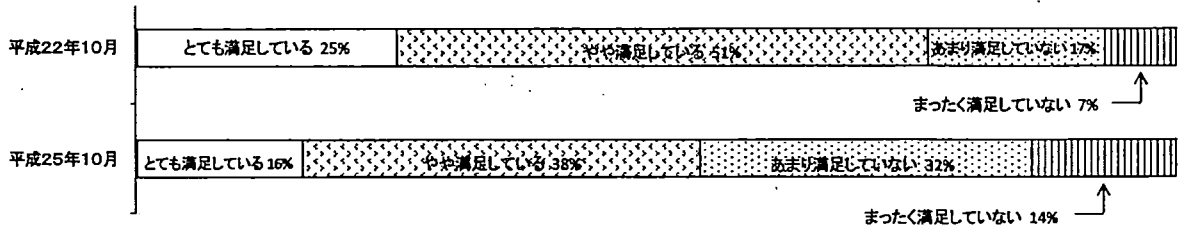
■ 平成25年10月

5 市立千葉高校普通科で、次の項目についてどのくらい満足しているか。

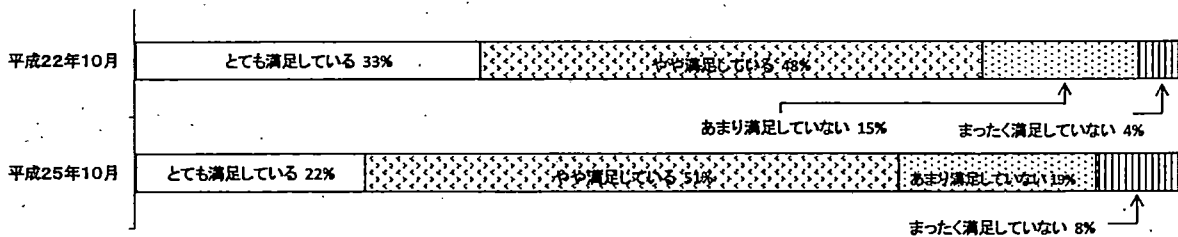
(1) 進学指導を重視しており授業時数も多く、授業や補習など教科指導が熱心に行われている。



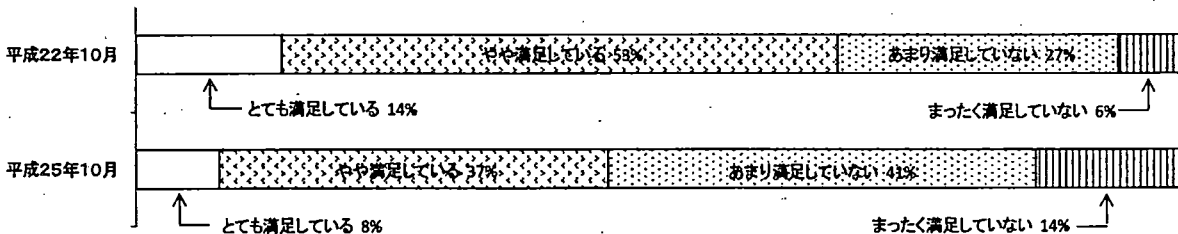
(2) 単位制であり、多様な科目の中から自分の興味関心・適性・進路希望に応じて選択して学習できる。



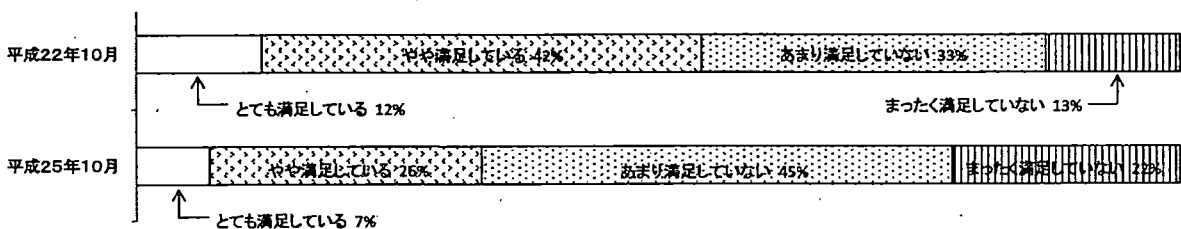
(3) 科目を選択するにあたり十分なガイダンスが行われている。



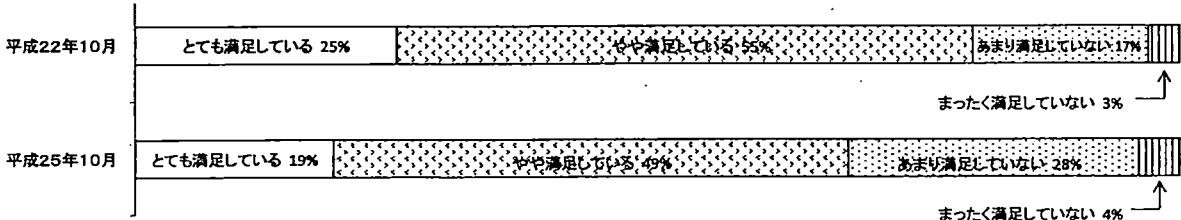
(4) 授業の内容を工夫したり質問に丁寧に対応するなどして生徒の学力を伸ばす努力をしている。



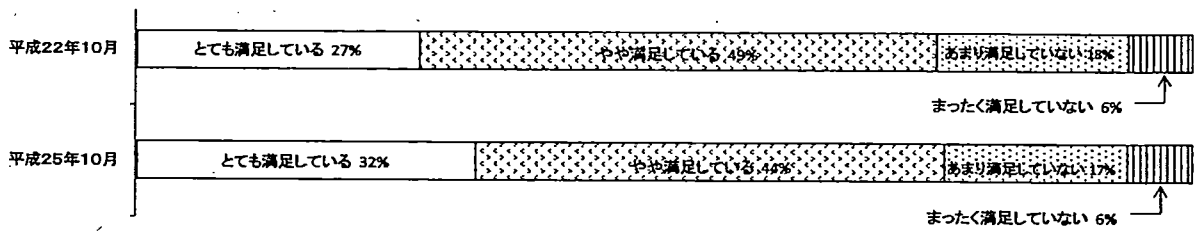
(5) 普通科にも理数教育の成果や伝統が生かされている。



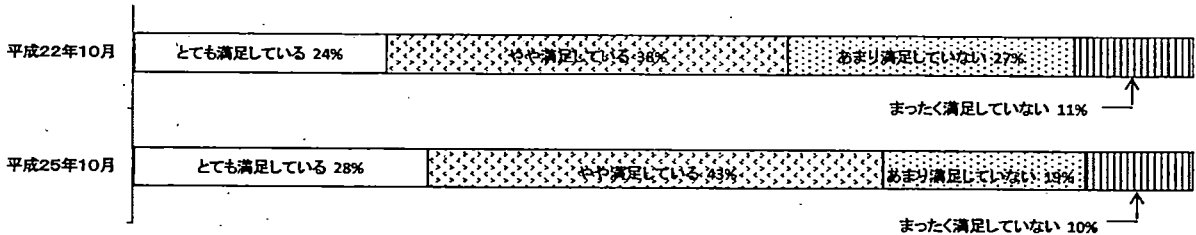
(6) 進路に関する指導や情報が充実している。



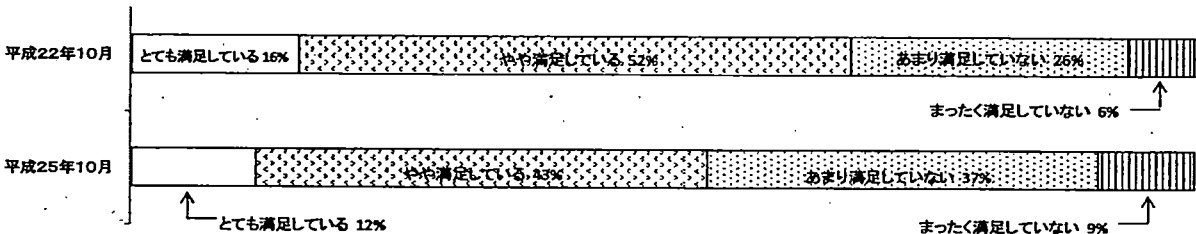
(7) 文武両道であり部活動が盛んである。



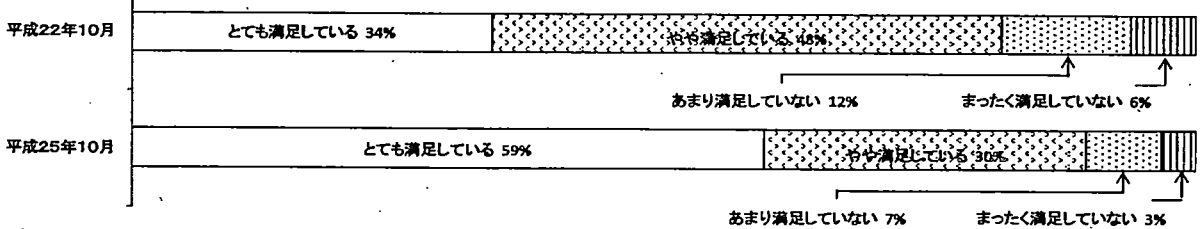
(8) 学校行事（陸上競技大会・夾竹桃祭・合唱コンクール等）が充実している。



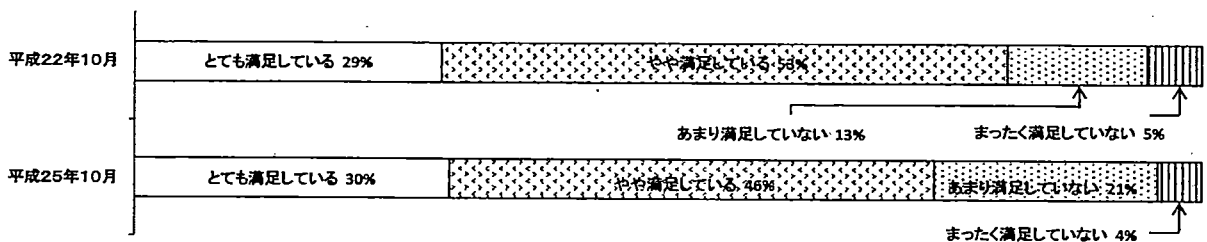
(9) 生活に関する相談や指導が充実している。



(10) 新築されたばかりの校舎の中で充実した施設・設備を活用することができる。



(11) 総合的に判断すると市立千葉高校に満足している。



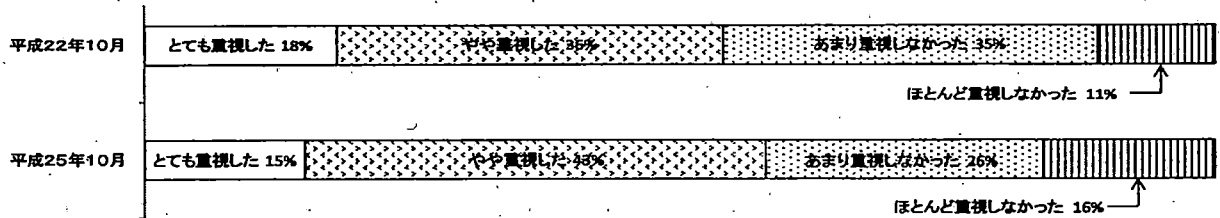
〈回収率〉

市立千葉高校普通科第3学年生徒	アンケート回収数	回収率
280人	271	96.8%

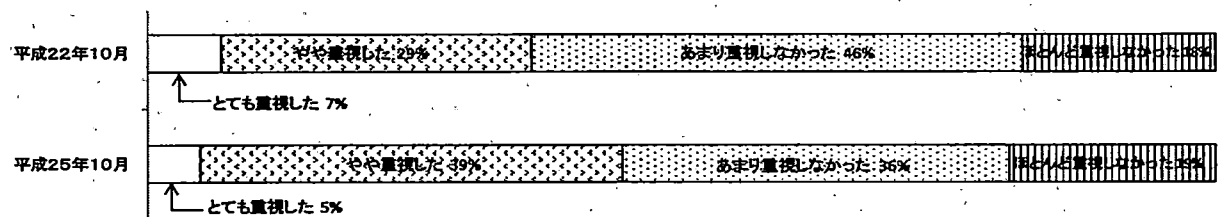
イ 保護者対象（市立千葉高校普通科第3学年）

1 お子様が市立千葉高校普通科を受検するに当たり、あなたは次の各項目について、どの程度重視したか。

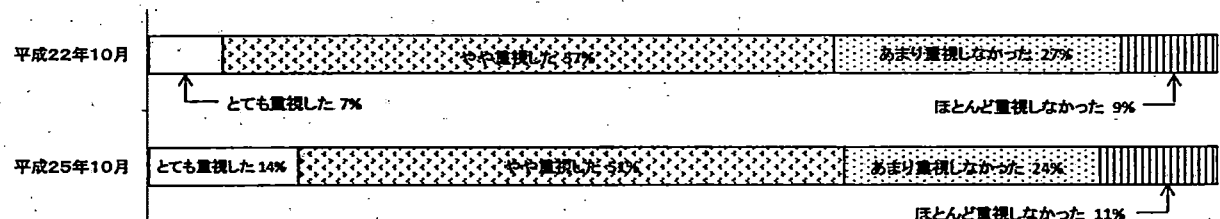
(1) 進学重視型の単位制である。



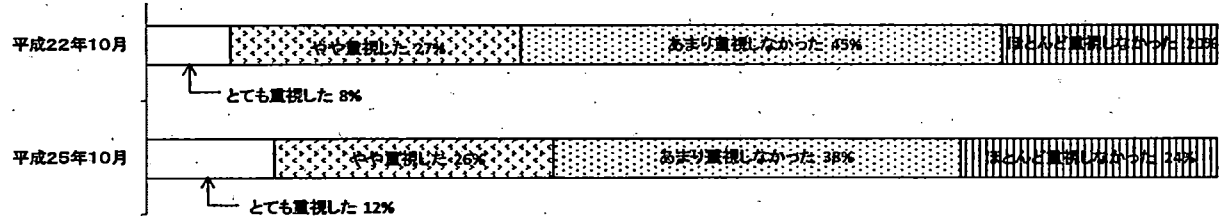
(2) 1日45分7時間授業を行っており授業時数が多い。



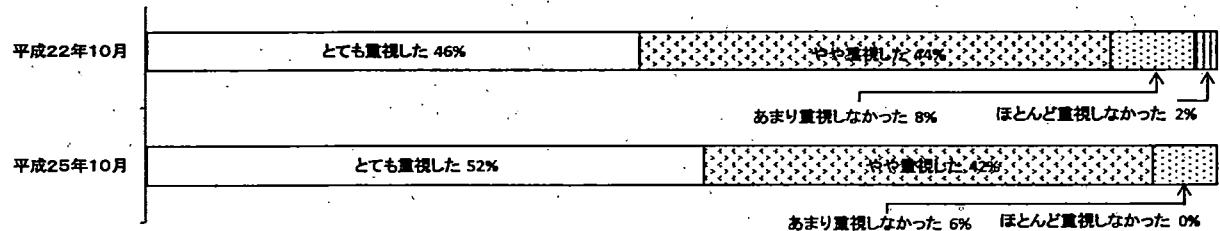
(3) 選択科目が充実しており自分の興味関心・適性・進路希望に応じた学習ができる。



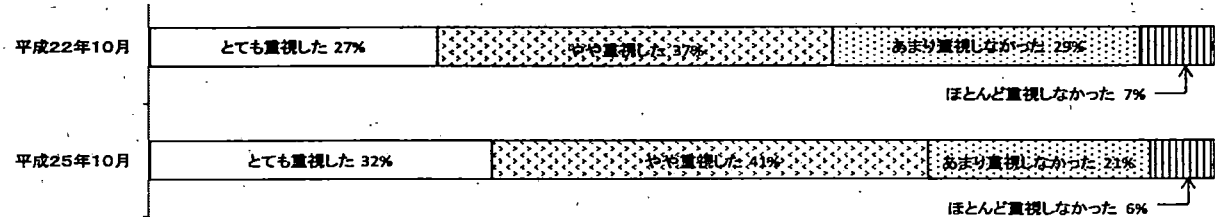
(4) 理数教育が充実している。



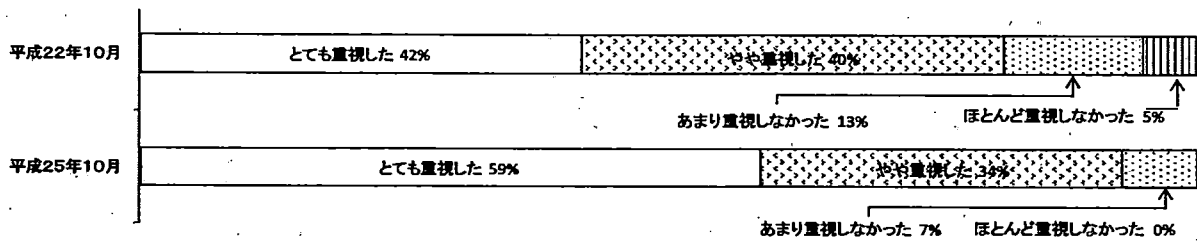
(5) 子どもの学力に合っている。



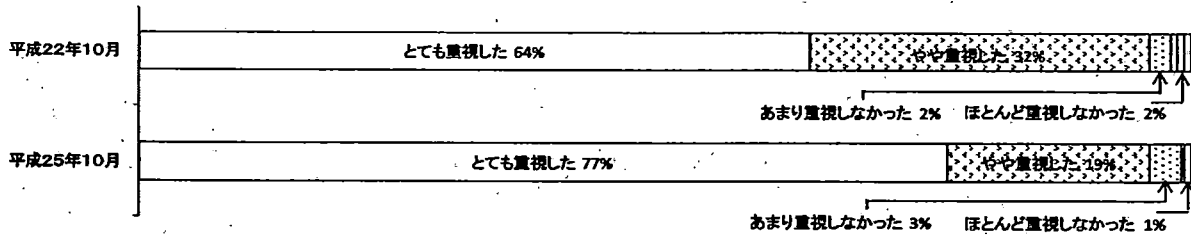
(6) 文武両道で部活動や学校行事が活発である。



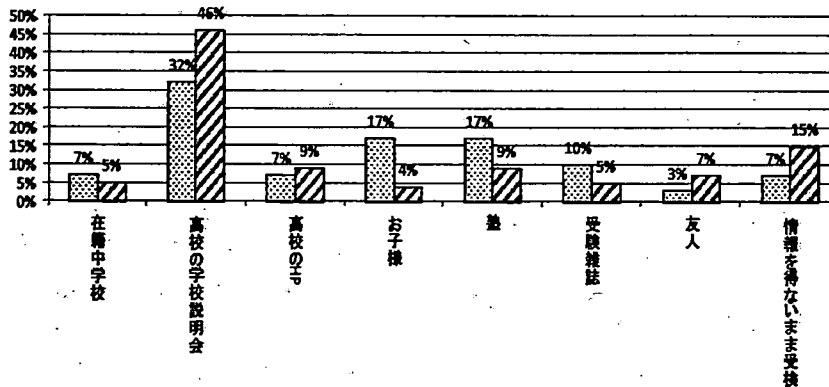
(7) 校舎が新築され施設・設備が充実している。



(8) 公立なので経済的である。



2 市立千葉高校の特色をどこ(誰)から知ったか。

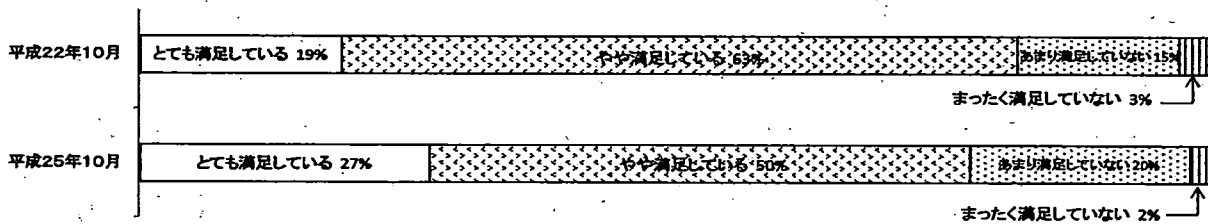


■平成22年10月

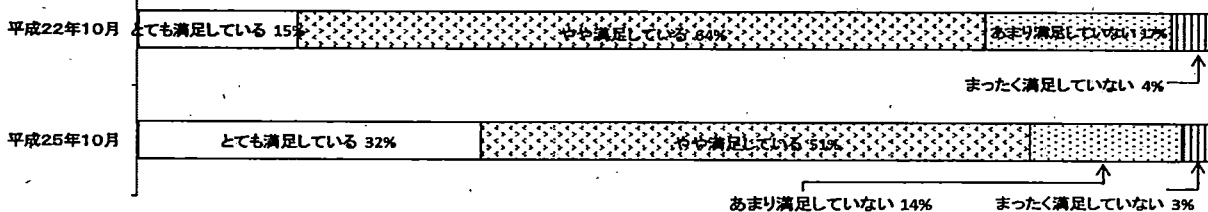
■平成25年10月

3 市立千葉高校普通科で、次の項目についてどのくらい満足しているか。

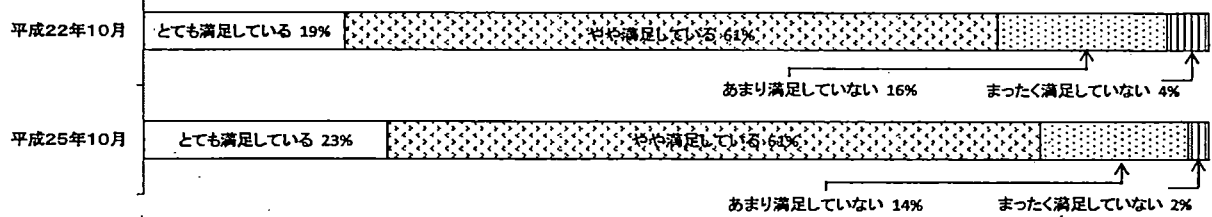
(1) 進学指導を重視しており授業時数も多く、授業や補習など教科指導が熱心に行われている。



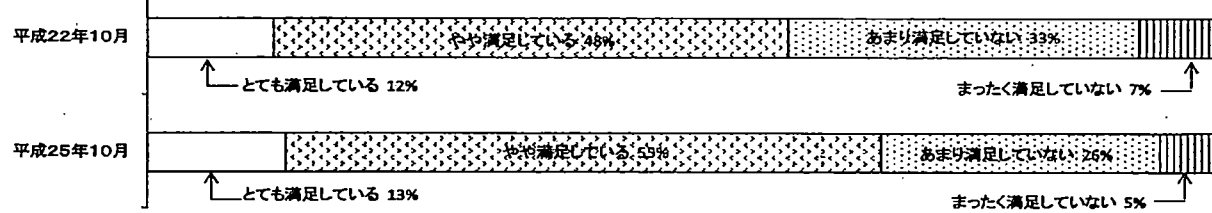
(2) 単位制であり、多様な科目の中から自分の興味関心・適性・進路希望に応じて選択して学習できる。



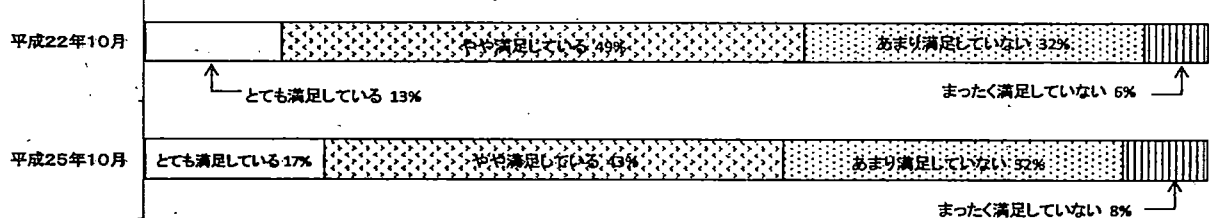
(3) 子どもが科目を選択するにあたり十分なガイダンスが行われている。



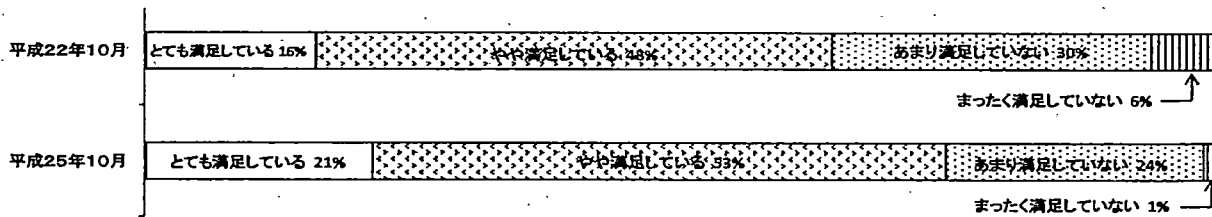
(4) 授業の内容を工夫したり、質問に丁寧に対応したりして子どもの学力を伸ばす努力をしている。



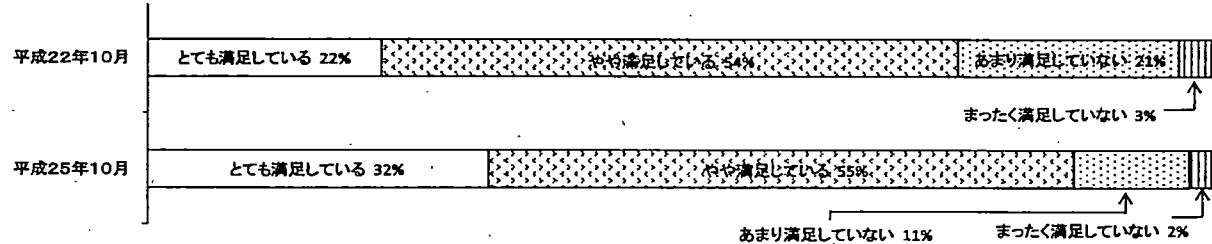
(5) 普通科にも理数教育の成果や伝統が生かされている。



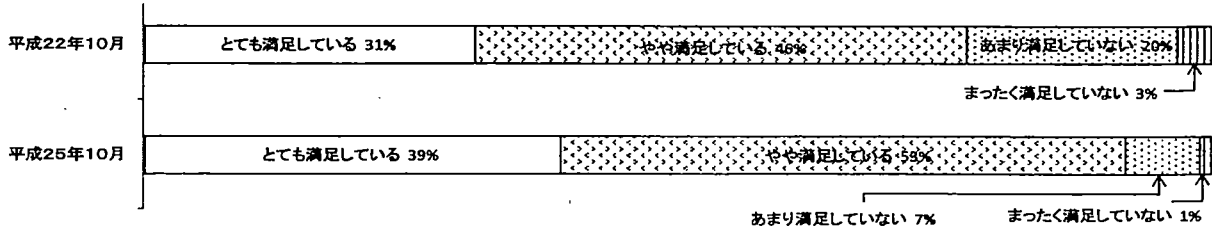
(6) 進路に関する指導や情報が充実している。



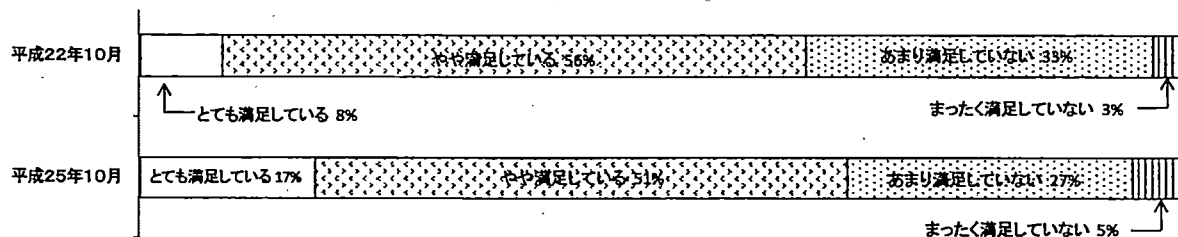
(7) 文武両道であり部活動が盛んである。



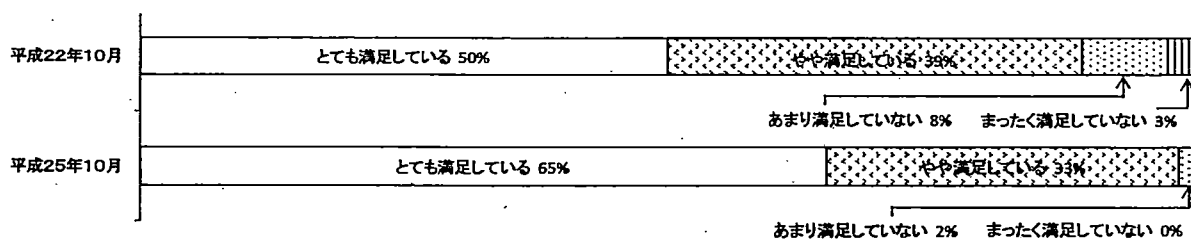
(8) 学校行事（陸上競技大会・夾竹桃祭・合唱コンクール等）が充実している。



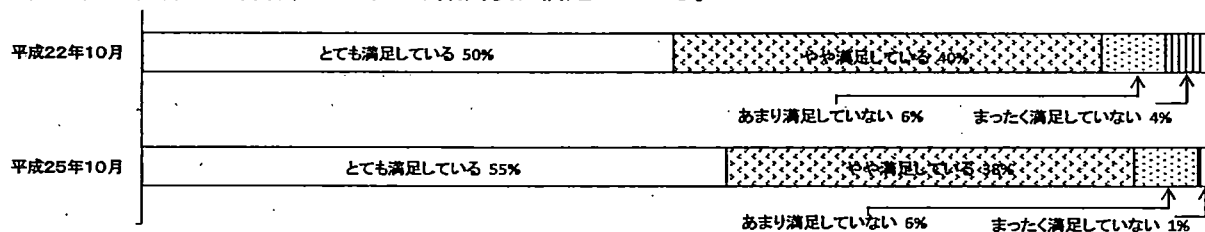
(9) 生活に関する相談や指導が充実している。



(10) 新築されたばかりの校舎の中で充実した施設・設備を活用することができる。



(11) 総合的に判断すると市立千葉高校に満足している。

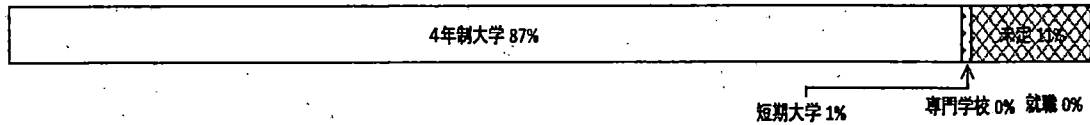


〈回収率〉

市立千葉高校普通科第3学年生徒の保護者	アンケート回収数	回収率
280人	154	55.0%

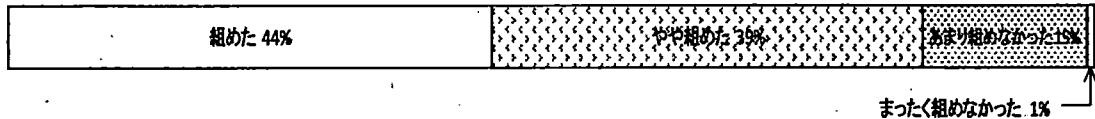
ウ 卒業生対象（平成24年度市立千葉高校普通科卒業生）

1 回答者の高校卒業後の進路について



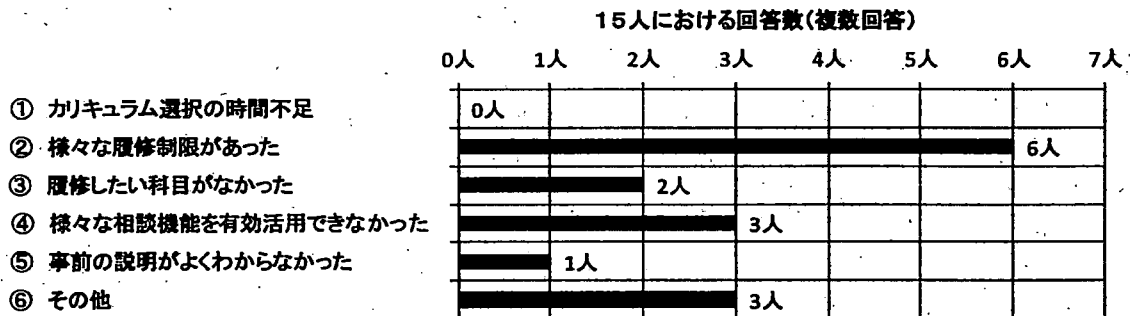
2 単位制高校について

a 自分の希望どおりにカリキュラムを組むことができたか。

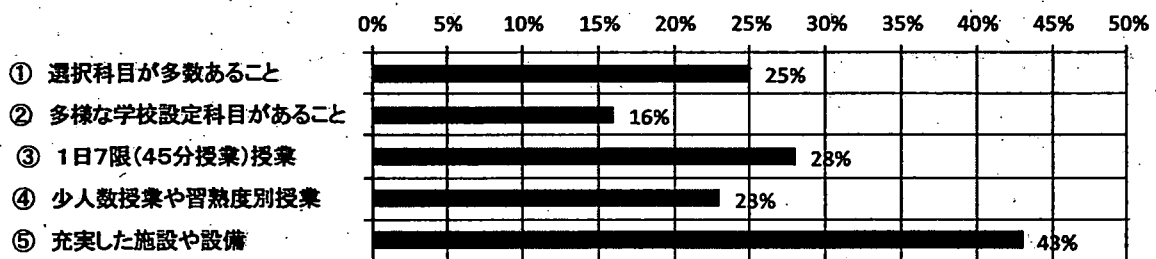


（質問aで「あまり組めなかった」もしくは「まったく組めなかった」と答えた15人だけ回答）

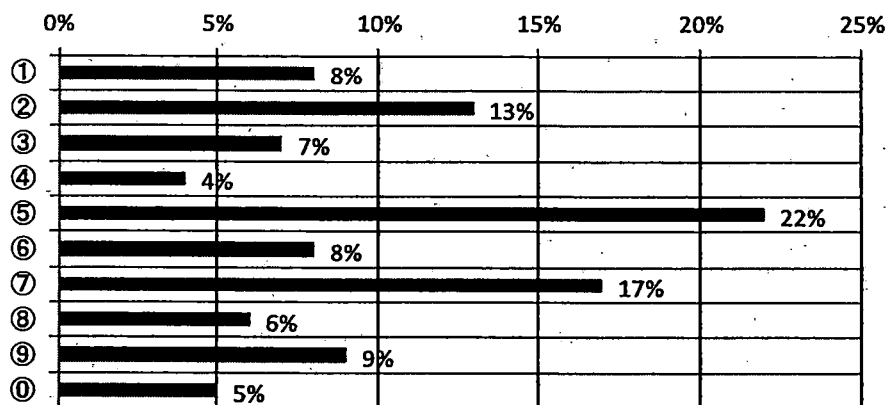
b 希望どおりのカリキュラムを組むことができなかった理由。（複数回答可）



3 学力の向上に有効だったと感じるものについて（複数回答可）



4 「市立千葉高校の魅力や特色」は、何か。(複数回答可)

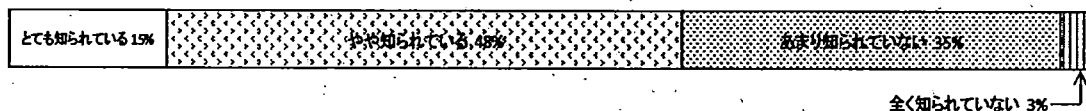


- 〈選択肢〉 ① 多様な教科・科目があること
 ② 単位制といった一人ひとりの生徒に応じた多様なカリキュラムを組めること
 ③ 伝統的な学校行事が豊富にあること
 ④ 教育活動上の工夫(習熟度別授業、少人数授業など)が多数あること
 ⑤ 部活動が活発に行われていること
 ⑥ 進路指導における実績があること
 ⑦ 充実した施設や設備があり、学校周辺の環境が良いこと
 ⑧ 大学や企業との連携による授業が豊富にあること
 ⑨ 理数教育に力を入れていること
 ⑩ その他

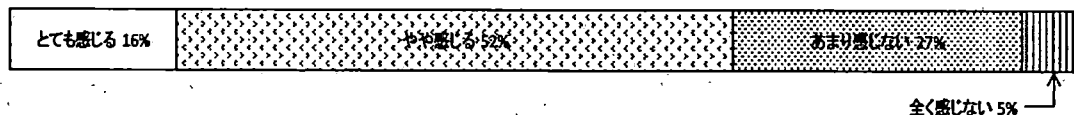
[その他の記載内容]

- ・自由な校風(3件) ・生徒の自主性を重視しているところ(2件) ・校舎が新しい
- ・無理に留年させようとしない ・教員や生徒に穏やかな雰囲気がある
- ・教養のレベルが高く、会話が通じる場所 ・学年ごとの繋がりが濃いこと

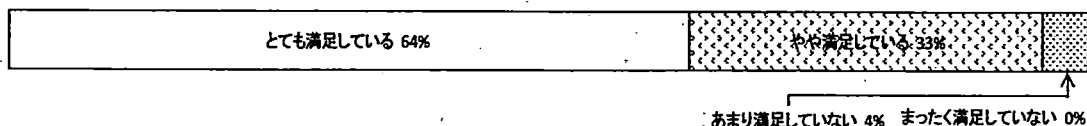
5 「市立千葉高校の魅力や特色」は市立千葉高校以外の友人や後輩に知られているか。



6 市立千葉高校の学習活動は、現在の進路に生かされていると感じるか。



7 あなたは市立千葉高校に進学したことを満足していますか。



〈回収率〉

平成24年度市立千葉高校普通科卒業生	アンケート回収数	回収率
281人	80	28.5%

あなたの学校生活等についてのアンケート（市立千葉高校普通科3学年生徒対象）

千葉市教育委員会

このアンケートは、皆さんに学校生活の様子をお聞きし、今後の教育に役立てる目的で実施します。なお、提出されたアンケートについては、この目的以外には使用いたしません。
回答はすべて枠内のマーク欄を鉛筆もしくは黒ボールペンで丁寧に塗りつぶしてください。

- 1 あなたの高校卒業後の進路希望について、あてはまる番号を一つだけ選んでください。

① 4年制大学 ② 短期大学 ③ 専門学校 ④ 就職 ⑤ 未定

1の回答… ① ② ③ ④ ⑤

- 2 あなたは部活動に入っていますか。あてはまる番号を一つだけ選んでください。
(これまで活動していて既に引退している場合は、①となります。)

① 加入している ② 加入していない

2の回答… ① ②

- 3 あなたが中学校3年生の時、市立千葉高校普通科を受検するに当たり、次の各項目について、どの程度重視しましたか。

(1)～(8)について、それぞれ当てはまる番号①～④を一つずつ選んでください。

① とても重視した ② やや重視した
③ あまり重視しなかった ④ ほとんど重視しなかった

- (1) 進学重視型の単位制である。

(1)の回答… ① ② ③ ④

- (2) 1日45分7時間授業を行っており授業時数が多い。

(2)の回答… ① ② ③ ④

- (3) 選択科目が充実しており自分の興味関心・適性・進路希望に応じた学習ができる。

(3)の回答… ① ② ③ ④

- (4) 理数教育が充実している。

(4)の回答… ① ② ③ ④

- (5) 自分の学力に合っている。

(5)の回答… ① ② ③ ④

- (6) 文武両道で部活動や学校行事が活発である。

(6)の回答… ① ② ③ ④

- (7) 校舎が新築され施設・設備が充実している。

(7)の回答… ① ② ③ ④

- (8) 公立なので経済的である。

(8)の回答… ① ② ③ ④

- 4 あなたが中学校3年生の時、市立千葉高校普通科を受検するにあたり、その特色（進学重視型の単位制、選択科目の充実など）をどこ（誰）から知りましたか。主なもの一つだけ選んでください。

① 中学校の先生 ② 高校の学校説明会 ③ 高校のホームページ
④ 保護者 ⑤ 塾 ⑥ 受験雑誌 ⑦ 友だちや先輩
⑧ 特色についてはよく知らないまま受検した

4の回答… ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- 5 これまでの高校生活を振り返って、次の項目についてどのくらい満足していますか。

(1)～(11)について、それぞれ当てはまる番号①～④を一つずつ選んでください。

① とても満足している ② やや満足している
③ あまり満足していない ④ まったく満足していない

- (1) 進学指導を重視しており授業時数も多く、授業や補習など教科指導が熱心に行われている。

(1)の回答… ① ② ③ ④

- (2) 単位制であり、多様な科目の中から自分の興味関心・適性・進路希望に応じて選択して学習できる。

(2)の回答… ① ② ③ ④

- (3) 科目を選択するにあたり十分なガイダンスが行われている。

(3)の回答… ① ② ③ ④

- (4) 授業の内容を工夫したり質問に丁寧に対応するなどして生徒の学力を伸ばす努力をしている。

(4)の回答… ① ② ③ ④

- (5) 普通科にも理数教育の成果や伝統が生かされている。

(5)の回答… ① ② ③ ④

- (6) 進路に関する指導や情報が充実している。

(6)の回答… ① ② ③ ④

- (7) 文武両道であり部活動が盛んである。

(7)の回答… ① ② ③ ④

- (8) 学校行事（随上競技大会・夾竹桃祭・合唱コンクール等）が充実している。

(8)の回答… ① ② ③ ④

- (9) 生活に関する相談や指導が充実している。

(9)の回答… ① ② ③ ④

- (10) 新築されたばかりの校舎の中で充実した施設・設備を活用することができる。

(10)の回答… ① ② ③ ④

- (11) 総合的に判断すると市立千葉高校に満足している。

(11)の回答… ① ② ③ ④

高校教育についてのアンケート（市立千葉高校普通科第3学年保護者対象）

千葉市教育委員会

このアンケートは、保護者の皆様に高校教育に関するご意見をお聞きし、今後の高校教育に役立てる目的で実施します。なお、提出されたアンケートについては、この目的以外には使用いたしません。回答はすべて枠内のマーク欄を鉛筆もしくは黒ボールペンで丁寧に塗りつぶしてください。

- 1 お子様が市立千葉高校普通科を受検するに当たり、あなたは次の各項目について、どの程度重視しましたか。
- 下の(1)～(8)について、それぞれ当てはまる番号①～④を一つずつ選んでください。

① とても重視した ② やや重視した
③ あまり重視しなかった ④ ほとんど重視しなかった

- (1) 進学重視型の単位制である。

(1)の回答… ① ② ③ ④

- (2) 1日45分7時間授業を行っており授業時数が多い。

(2)の回答… ① ② ③ ④

- (3) 選択科目が充実しており自分の興味関心・適性・進路希望に応じた学習ができる。

(3)の回答… ① ② ③ ④

- (4) 理数教育が充実している。

(4)の回答… ① ② ③ ④

- (5) 子どもの学力に合っている。

(5)の回答… ① ② ③ ④

- (6) 文武両道で部活動や学校行事が活発である。

(6)の回答… ① ② ③ ④

- (7) 校舎が新築され施設・設備が充実している。

(7)の回答… ① ② ③ ④

- (8) 公立なので経済的である。

(8)の回答… ① ② ③ ④

- 2 お子様が市立千葉高校普通科を受検するに当たり、その特色（進学重視型の単位制、選択科目の充実など）をどこ（誰）から知りましたか。主なもの一つだけ選んでください。

① 中学校の先生 ② 高校の学校説明会 ③ 高校のホームページ
④ 保護者 ⑤ 塾 ⑥ 受験雑誌 ⑦ 友だちや先輩
⑧ 特色についてはよく知らないまま受検した

2の回答… ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- 3 市立千葉高校普通科で、次の項目についてどのくらい満足していますか。

下の(1)～(11)について、それぞれ当てはまる番号①～④を一つずつ選んでください。

① とても満足している ② やや満足している
③ あまり満足していない ④ まったく満足していない

- (1) 進学指導を重視しており授業時数も多く、授業や補習など教科指導が熱心に行われている。

(1)の回答… ① ② ③ ④

- (2) 単位制であり、多様な科目の中から自分の興味関心・適性・進路希望に応じて選択して学習できる。

(2)の回答… ① ② ③ ④

- (3) 科目を選択するにあたり十分なガイダンスが行われている。

(3)の回答… ① ② ③ ④

- (4) 授業の内容を工夫したり質問に丁寧に対応するなどして生徒の学力を伸ばす努力をしている。

(4)の回答… ① ② ③ ④

- (5) 普通科にも理数教育の成果や伝統が生かされている。

(5)の回答… ① ② ③ ④

- (6) 進路に関する指導や情報が充実している。

(6)の回答… ① ② ③ ④

- (7) 文武両道であり部活動が盛んである。

(7)の回答… ① ② ③ ④

- (8) 学校行事（陸上競技大会・夾竹桃祭・合唱コンクール等）が充実している。

(8)の回答… ① ② ③ ④

- (9) 生活に関する相談や指導が充実している。

(9)の回答… ① ② ③ ④

- (10) 新築されたばかりの校舎の中で充実した施設・設備を活用することができる。

(10)の回答… ① ② ③ ④

- (11) 総合的に判断すると市立千葉高校に満足している。

(11)の回答… ① ② ③ ④

以上で終了になります。ご協力、ありがとうございました。

市立千葉高校普通科卒業生用アンケート

千葉市教育委員会

このアンケートは、平成24年度市立千葉高校普通科を卒業した皆さんに「千葉市立高校改革」に関するご意見をお聞きし、今後の教育に役立てる目的で実施します。なお、提出されたアンケートについては、この目的以外には使用いたしません。回答のマークシート部分はすべて枠内のマーク欄を鉛筆もしくは黒ボールペンで丁寧に塗りつぶしてください。

1 あなたの高校卒業後の進路について、あてはまる番号を一つだけ○を選んでください。

- ① 4年制大学 ② 短期大学 ③ 専門学校 ④ 就職 ⑤ 未定

1の回答 ① ② ③ ④ ⑤

2 市立千葉高校における単位制の特徴は、必修科目以外選択科目の中から一人ひとりの特性や進路希望、興味、関心に応じて学ぶ科目を主体的に決めていくことができるところにあります。

a あなたは、どのくらい単位制高校の特徴を生かした自分なりのカリキュラムを組むことができたか。

- ① 希望どおりに組むことができた
② やや希望どおりに組むことができた
③ あまり希望どおりに組むことができなかった
④ まったく希望どおりに組むことができなかった

2aの回答 ① ② ③ ④

b 質問aで③もしくは④を回答した方だけ回答してください。(①②を選んだ方は質問3へ)

希望どおりのカリキュラムを組むことができなかった理由を選んでください。(複数回答可)

- ① カリキュラム選択のための時間が足りなかった
② 履修したい科目があっても様々な制限があり取れなかった
③ 履修したい科目がなかった
④ 担任への相談や選択相談会等を有効に活用できなかった
⑤ 事前の説明がよくわからなかった
⑥ その他

2bの回答 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

→質問3へ進んでください。

3 市立千葉高校におけるさまざまな取り組みや教育環境の中で、学力の向上に有効であったと感じているものを選んでください。(複数回答可)

- ① 選択科目が多数あること
② 多様な学校設定科目があること
③ 1日7限(45分授業)授業
④ 少人数授業や習熟度別授業
⑤ 充実した施設や設備

3の回答 ① ② ③ ④ ⑤

4 卒業後にあなたが考える「市立千葉高校の魅力や特色」とは、どのようなものだと思いますか。(複数回答可)

- ① 多様な教科・科目があること
② 単位制といった一人ひとりの生徒に応じた多様なカリキュラムを組めること
③ 伝統的な学校行事が豊富にあること
④ 教育活動上の工夫(習熟度別授業、少人数授業など)が多数あること
⑤ 部活動が活発に行われていること
⑥ 進路指導における実績があること
⑦ 充実した施設や設備があり、学校周辺の環境が良いこと
⑧ 大学や企業との連携による授業が豊富にあること
⑨ 理数教育に力を入れていること
⑩ その他(記載してください)

4の回答(複数回答可) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

5 「市立千葉高校の魅力や特色」は、市立千葉高校以外の友人や後輩に知られていると思いますか。

- ① とても知られている ② やや知られている
③ あまり知られていない ④ まったく知られていない

5の回答 ① ② ③ ④

6 市立千葉高校での学習活動は、現在の進路先に生かされていると感じますか。

- ① とても感じる ② やや感じる
③ あまり感じない ④ まったく感じない

6の回答 ① ② ③ ④

7 今、振り返り、あなたは市立千葉高校に進学したことを満足していますか。

- ① とても満足している ② やや満足している
③ あまり満足していない ④ まったく満足していない

7の回答 ① ② ③ ④

以上で終了です。ご協力、ありがとうございました。

2 市立稲毛高校・附属中学校

(1) 基本調査結果

ア 生徒数等 (各年度5月1日現在の数)

※市立稲毛高校附属中学校

【生徒数】

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1年	39	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
2年			39	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
3年					39	40	40	40	40	40	40	40	40	40
合計	79		159		239		240		240		240		240	

【入学者選抜】

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
募集定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
志願者数	694	939	456	546	391	576	394	446	368	483	371	462	374	454
	1633		1002		967		840		851		833		828	
志願倍率	17.4	23.5	11.4	13.7	9.8	14.4	9.9	11.2	9.2	12.1	9.3	11.6	9.4	11.4
	20.4		12.5		12.1		10.5		10.6		10.4		10.4	
受検者数	689	933	452	544	389	575	383	444	358	476	355	445	362	435
	1622		996		964		827		834		800		797	
受検倍率	17.2	23.3	11.3	13.6	9.7	14.4	9.6	11.1	9.0	11.9	8.9	11.1	9.1	10.9
	20.3		12.5		12.1		10.3		10.4		10.0		10.0	

【居住区別生徒数】

	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	合計
H19入学生	11	18	17	12	7	14	79
H20入学生	14	11	10	12	6	27	80
H21入学生	9	14	7	14	13	23	80
H22入学生	21	11	9	7	8	24	80
H23入学生	20	15	10	10	6	19	80
H24入学生	19	9	13	10	6	23	80
H25入学生	16	12	14	12	4	22	80

【職員数】

職員数	校長(1)、副校長(1)、教諭(15)、養護教諭(1)、主事(1)
兼務の状況	中学籍の職員には高校の兼務発令、高校籍の職員には、実習助手と技能員を除き中学の兼務発令が出されている。

【部活動加入者数】

部活動名		平成22年度			平成25年度		
		男子	女子	計	男子	女子	計
運 動 部	軟式野球	26	0	26	20	0	20
	サッカー	18	1	19	23	0	23
	ラグビー	0	0	0	1	0	1
	ソフトテニス	11	17	28	25	22	47
	陸上競技	14	6	20	4	10	14
	卓球	9	1	10	6	0	6
	柔道	1	0	1	0	0	0
	剣道	10	0	10	6	3	9
	バスケットボール	0	13	13	0	11	11
	バレーボール	0	0	0	0	5	5
	ヨット	8	1	9	9	1	10
	硬式テニス	4	2	6	4	5	9
	ソフトボール	0	1	1	0	0	0
	合計	101	42	143	98	57	155
加入率		84.2%	35.0%	59.6%	81.7%	47.5%	64.6%

部活動名		平成22年度			平成25年度		
		男子	女子	計	男子	女子	計
文化部	吹奏楽	5	23	28	2	20	22
	弦楽オーケストラ	0	20	20	0	21	21
	ESS	5	7	12	1	8	9
	美術	2	3	5	4	2	6
	書道	0	8	8	0	5	5
	茶道	0	2	2	0	5	5
	地学(科学)	1	0	1	0	0	0
	放送	0	3	3	0	0	0
	文芸	0	2	2	0	0	0
	華道	0	4	4	0	0	0
	工芸	0	2	2	11	0	11
	合計	13	74	87	18	61	79
	加入率	10.8%	61.7%	36.3%	15.0%	50.8%	32.9%
部活全体	合計	111	107	218	116	116	232
	加入率	92.5%	89.2%	90.8%	96.7%	96.7%	96.7%
	未加入者	9	13	22	4	4	8

※ 市立稲毛高校

【クラス数】

	平成16年度			平成22年度			平成25年度		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
普通科	8	9	9	7	7	7	7	7	7
国際教養科	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学年合計	9	10	10	8	8	8	8	8	8
学校合計	29			24			24		

【生徒数】

		平成16年度			平成22年度			平成25年度		
		男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
普通科	1年	154	171	325	132	149	281	139	143	282
	2年	146	180	326	139	143	282	135	145	280
	3年	188	177	365	122	158	280	140	140	140
	合計	488	528	1016	393	450	843	414	428	842
国際教養科	1年	5	35	40	9	32	41	9	31	72
	2年	8	33	41	4	36	40	9	31	40
	3年	5	34	39	5	34	39	8	29	37
	合計	18	102	120	18	102	120	26	91	117
学校合計		1136			963			959		

【入学者選抜】

		平成16年度	平成22年度	平成25年度
入学志願 倍率	特色 &前期	普通科	5.77	2.74
		国際教養科	4.07	3.15
	学力 &後期	普通科	1.41	1.54
		国際教養科	1.23	1.85

【居住区別生徒数】

			中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	他市町村	合計
平成16年度	1年	普通科	36	51	89	44	55	48	2	325
		国際教養科	3	5	4	2	3	3	20	40
	2年	普通科	52	36	70	39	74	50	5	326
		国際教養科	4	1	2	1	5	4	24	41
	3年	普通科	39	62	67	39	91	65	2	365
		国際教養科	3	0	2	1	6	2	25	39
平成22年度	1年	普通科	127	149	220	122	220	163	9	1016
		国際教養科	10	6	8	4	14	9	89	120
	2年	普通科	48	53	46	34	58	41	1	281
		国際教養科	3	2	6	1	4	1	24	41
	3年	普通科	42	38	54	32	63	53	0	282
		国際教養科	2	3	3	1	1	2	28	40
平成25年度	1年	普通科	45	31	57	33	65	49	0	280
		国際教養科	2	4	1	2	1	3	26	39
	2年	普通科	135	122	157	99	186	143	1	843
		国際教養科	7	9	10	4	6	6	78	120
	3年	普通科	50	32	52	26	35	87	0	282
		国際教養科	1	0	2	5	1	1	30	40
平成25年度	1年	普通科	51	37	44	40	46	61	1	280
		国際教養科	2	1	3	1	5	3	25	40
	2年	普通科	50	40	40	24	39	87	0	280
		国際教養科	7	4	1	0	1	4	20	37
	3年	普通科	151	109	136	90	120	235	1	842
		国際教養科	10	5	6	6	7	8	75	117

【職員数】

		平成16年度	平成22年度	平成25年度
実働職員 (臨任含む)	全職員	99	111	113
	生徒指導部職員	8	8	8
	進路指導部職員	9	12	12
	教務部職員	12	13	13
	英語科	15	16	16
ALT※・NTE※		3	5	5

※ALT：英語の授業等で日本人教師を補助する外国人指導助手

※NTE：外国人英語講師

【部活動】

	平成16年度			平成22年度			平成25年度		
	部活数	参加数	参加率	部活数	参加数	参加率	部活数	参加数	参加率
運動系	14	625	55.0%	16	517	53.7%	16	508	53.0%
文科系	15	308	27.1%	15	248	25.8%	16	234	24.4%
合計	29	933	82.1%	31	765	79.4%	32	742	77.4%

【進路】

				平成16年 (平成15年度卒)	平成22年 (平成21年度卒)	平成25年 (平成24年度卒)
大学	国公立	男子		11	5	12
		女子		5	7	14
		合計	人数	16	12	26
			対卒業生率	4.0%	3.7%	8.3%
	私立	男子		79	85	71
		女子		121	119	120
		合計	人数	200	204	191
			対卒業生率	50.3%	63.2%	61.0%
短期大学	男子		0	0	0	
	女子		16	10	10	
	合計	人数	16	10	10	
		対卒業生率	4.0%	3.1%	3.2%	
専門学校	男子		7	2	2	
	女子		27	10	7	
	合計	人数	34	12	9	
		対卒業生率	8.5%	3.7%	2.9%	
留学／留学予定	男子		1	0	0	
	女子		5	0	1	
	合計	人数	6	0	1	
		対卒業生率	2.2%	0.0%	0.4%	
就職	男子		1	1	0	
	女子		1	1	0	
	合計	人数	2	2	0	
		対卒業生率	0.5%	0.6%	0.0%	
未定 (次年進学希望等)	男子		80	54	53	
	女子		44	29	23	
	合計	人数	124	83	76	
		対卒業生率	31.2%	25.7%	24.3%	

イ 教育課程 ※市立稲毛高校附属中学校

	稲毛高校附属中学校の特徴
年間総授業時数	標準1015時間のところ1155時間を展開
学校設定科目	1 「世界と日本」 3年間で20時間実施 2 「総合科学」 3年間で25時間実施 3 「英語コミュニケーション」 3年間で105時間実施
教科の授業時数の増加 (3年間)※1	1 国語75時間増 2 社会20時間増 3 数学140時間増 4 理科60時間増 5 英語105時間増
特色ある教科の指導内容	1 国語 ○読解応用と国語総合基礎 2 社会 ○地理Aの一部を先取り 3 数学 ○数学A・数学Iの一部を先取り ○数学を体系的に学ぶ 4 理科 ○化学・物理分野を先取り ○科学研究論文を中学1～3年まで徹底指導する。 ○中学～高2まで体系的に一貫シラバスで学ぶ 5 技術 ○情報分野は高校情報Cまでの一貫カリキュラム 6 英語・英語コミュニケーション ○中1～高3まで一貫シラバス 7 総合的な学習の時間 ○国際人プロジェクト※2
指導の例	1 国語 文語文法基礎、評論文、小説読解 2 世界と日本 世界と日本の比較文化研究 3 数学 整式、不等式、2次方程式、集合、条件と命題 4 総合科学 原子・分子の構造、モルの計算、ニュートン力学 5 英語 分詞構文、過去完了、関係詞、仮定法
特色ある授業展開	1 習熟度別・少人数学習、ティーム・ティーチング 2 高校の専門教員による指導 3 ネイティブ講師による指導、Call教室での指導(英語)
特色ある行事	1 スタートアップセミナー、職場訪問・地域研究、言語技術講座、情報処理技術講座、求道(茶道・合気道)研究、体験講座(中1) 2 自然教室、職場体験、大学研究、プレゼンコンテスト(中2) 3 修学旅行、大学訪問、テーブルマナー講座(中3) 4 海外語学研修(高2)

※1年間総授業数を増加させた分と教科等(選択・総合的な学習の時間)間の授業時数を調整させることで、時数を確保

※2国際理解のための考え方・表現力を身に付け、自国・地域の文化を積極的に発信し、交流することができる「真の国際人」を目指す。

※市立稲毛高校

		改革前 (平成16年度入学生用教育課程)	改革後 (平成22年度入学生用教育課程)	現行 (平成24年度入学生用教育課程)		
課程・学科		全日制・普通科	全日制・普通科	全日制・普通科		
学校 設定 科目	地理歴史		3科目			
	公民		1科目			
	数学			1科目		
	理科			4科目		
	外国語			1科目		
選択 科目	1年	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰ(2単位)から1科目選択	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰ(2単位)から1科目選択	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰ(2単位)から1科目選択		
	2年	物理Ⅰ・生物Ⅰ・地学Ⅰ(3単位)から1科目選択	物理Ⅰ・生物Ⅰ・地学Ⅰ(3単位)から1科目選択	物理基礎・地学基礎(3単位)から1科目選択		
		音楽Ⅱ・美術Ⅱ・工芸Ⅱ・書道Ⅱ(2単位)から1科目選択	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・工芸Ⅱ・書道Ⅱ(2単位)から1科目選択	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・工芸Ⅱ・書道Ⅱ(2単位)から1科目選択		
	3年	文系	A選択(2単位)4科目から2科目選択	文系	A1選択(4単位)2科目から1科目選択	
			B選択(3単位)7科目から1科目選択		B選択(2単位)3科目から1科目選択	B選択(3単位)6科目から2科目選択
					C選択(3単位)6科目から1科目選択	A1選択(4単位)2科目から1科目選択
		理系	A選択(2単位)5科目から1科目選択	理系	A2選択(2単位)6科目から2科目選択	
			B選択(3単位)7科目から1科目選択		B選択(3単位)6科目から2科目選択	B選択(3単位)3科目から1科目選択
大学における学修				2年次に本人希望のもと、学校の推薦を得たものが履修(1～2単位)		

(2) 小・中学校長代表対象意見交換会結果

※ (小) 小学校長代表意見 (中) 中学校長代表意見

No	項目	小・中学校長代表から	高校からの回答
1	全体としての改革の成果について	校訓と学校教育目標とのつながりがわからないが？(小)	校訓は、開設以来のものなので、基本的に変えることはできない。一方、実態に合わせた教育に対しては、教育目標で対応している。
2	真の国際人を育成する教育について	「真の国際人の育成」をどのようにとらえているか。(中)	企業の求める人材との違いを考慮し、チャレンジ精神や忍耐強く努力する力などを育成することを目標としている。
		専門性の高さを感じ、海外で活躍する人材は育っているのか。(中)	直接海外の大学へ進学する生徒は多くはない。一方で、国際系や留学に実績のある大学に進学し、海外へ出ていく生徒は増えている。

		英語科教員のレベルの維持はどうしているのか。(中)	教員相互の授業観察や、ネイティブの職員との研修などを行っている。また、生徒の引率で海外に出る教員も多い。
		「日本人としてのアイデンティティの確立」はどう考えているのか。(小)	「確かな学力」、「豊かな人間性」、「調和のとれた体力」の上に「他者を理解する力」、「異文化理解」を重視している。
3	中高6年間の継続的な指導について	附属中が難関になり、入学しにくい。できれば定員数を増やしてほしい(小)	学校の特徴を理解し、本当に入学したいと思っている生徒に入学してもらいたいと考えている。入学者選抜では、私立のように学力検査ではなく適性検査を実施しているため、入学後の学力差がみられることが課題となっている。 また、定員に関しては、学校で判断できないが、高校から入学する生徒数の関係もあり、簡単に増加させることはできないと思われる。
4	教育ニーズ多様化への対応について	生徒のメンタルのケアなどはどのようなになっているか?(小)	全体としてメンタル面で弱い生徒が増えており、カウンセリングの充実や保健室の対応を重視している。
5	小中学校現場や地域へのアピール	文化祭は高校の内容を見る良い機会であるが、市立両校とも7月に実施している。その頃は、中3生は最後の総合体育大会前で見学しにくい。(中)	文化祭で好評だった生徒の活動をほかの時間や場所でも紹介するようにしている。三線演奏やエイサーなどは様々なところからご要望をいただき、実演している。
		国際教養科の進路実績をもっと強調してもいいのではないか。(中)	英語科・国際科を持つ高校の中でも、市立稲毛高校のように普通科に勝るとも劣らない実績を上げている学校は少ない。着実に実績が伸びていることを個別に伝えていきたいと考えている。

(3) 聞き取り調査結果 対象：市立稲毛高校・附属中学校の副校長・教頭・教務主任等

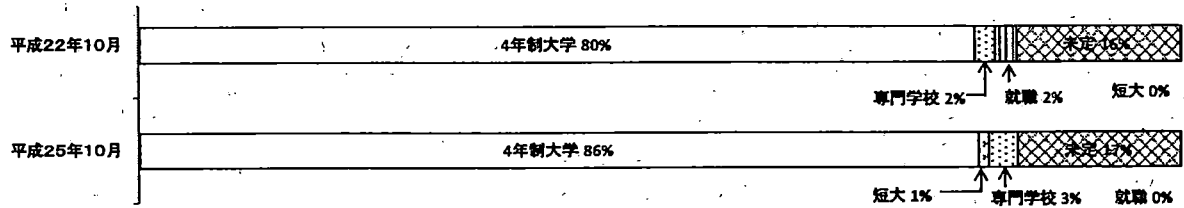
No	項目	意見
1	全体としての改革の成果について	内進生の英語指導に対しては、語学研修を柱にした英語教育を行ってきた。その結果、内進上位層は国際教養科と同程度の英語力が付いてきている。また、オーストラリア語学研修は、英語力のみならず、人間的成長にも寄与できたと思う。GTECの下位層は、3年になって減った。 海外の語学研修受入れ校における日本文化をリサーチした発表は、極めて評判がよかった。ただし、生徒への事前・事後指導のための職員の業務量はたいへん大きかった。 また、ハンドアウトの教材プリントを作成するにしても、教科内のチームワークがないとできない作業であった。
2	真の国際人を育成する教育	英語ディベートを学ぶ学校設定科目（エッセンシャルイングリッシュⅡ）の実施により、生徒は語学だけではなく、思考力や表現力の向上につながっている。 海外語学研修（オーストラリア）に参加することで生徒の英語に対する見方が変わり、GTECの得点が上昇した。その後の英語力の飛躍につながった。 現在、海外交流校が7校あるが、それらすべての学校との交流は、スタッフ面・資金面で不可能である。現在、3校のみと姉妹校交流しているが、今後、拡大が望まれる。 最近の活動実績として「第5回千葉県高校生英語ディベート大会」（平成25年11月1日 成田国際高校で開催）に出場し第1位、「第8回全国高校生英語ディベート大会in長野」（平成25年12月18・19日 松本大学で開催）に出場し、第21位などがある。
3	中高6年間の継続的な指導について	平成25年度から普通科の教育課程が統一されたことに伴い、内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した中高の教育内容全体を検討していく必要がある。 理科については中高の枠を超えて教科内で連携がうまくいっている。施設面では「中学のための実験室」「中学のための技術棟」が無い状況があり、この点が改善されれば、よりスムーズな学習の流れができると思う。 GTECは毎年7月に中学2年以上の全生徒が受験しており、25年度、高校3年の内進生の平均スコアは594点（英検2級相当レベルは570点以上）であった。当初の目標は「高校2年までに英検2級に全員合格」を挙げていたが、現在、学校として英検は個人受検という位置づけにしていることもあり、当初の目標は達成できていると考えている。 適性検査の日程について、現状の1月末の日程では、中高ともに在校生への指導との兼ね合いが難しい。その時期の授業が細切れになってしまい、生徒への影響を考慮した検査日程や在り方を検討すべきだと思う。

No	項目	意見
4	文武両道の 伝統について	内進生は高校入試がなく、中学時代から継続して部活動ができるため、高校になり活躍している部活動も見られた。 中学と高校の行事日程を組み合わせる計画することが難しい場合がある。例えば、文化祭の翌週に中学の総合体育大会を実施するといった、厳しい日程を組むことになってしまった。
		平成24年度は、高校の野球部が県大会ベスト16、バドミントン部が県大会ベスト8、ダンスドリル部が全国大会に出場している。
		中間まとめでは「中学3年生になった時に、最高学年としての自覚をいかに育成するか」が課題となっていたが、これに対して高校とは別に、中学は学年別に生徒会を組織して独自の活動を行っている。特に中学3年生については、学校評議会の中心メンバーとして文化祭をはじめ、各種校内行事の運営に積極的に関わることで、集団における統率力や中学校最高学年としての自覚を育成している。
		中学校の野球部やサッカー部の練習場所が課題となっていたが、昨年度までは公営施設（千葉市卸売市場のグラウンド）を借用して対応していた。（また、今後、隣接する学校跡施設を活用する予定である。）
5	教育二一ズ の多様化へ の対応につ いて	「中高一貫における生徒間の学力差」に対して、特に英語と数学については、教科担当レベルでの個人指導を通年で実施している。また、高校生になってからも、中学の先生が成績不振者を対象に課外補習を実施している。
		今年度から養護教諭が1名増員の中高3人体制になり、従来のスクールカウンセラーに加えて相談体制が強化された。
6	小学校現 場や地域 へのアピ ールなど	小学校の児童・保護者向けには、学校説明会と学校見学会を7月と11月に実施している。小学校の教員に対しては、職員向け説明会で、学校の紹介と出願方法の説明をしている。
		千葉市教育研究会国際理解部会等でも本校を参観したい希望があれば受け入れている。中学職員の初任者研修でも授業を公開している。
		部活動（吹奏楽部、ESS）で近隣の小中学校との交流活動を行っている。
		中学1年の総合的な学習の時間の中で、地域を知る活動の一環として稲毛の浜の清掃活動を行っている。また、同じく中学2年生は、職場体験で地域の各事業所受け入れていただきお世話になっている。
7	学校現場 から見た 市立高校 改革につ いて	内進生と外進生はお互いが刺激しあい、進路実績では改革前よりも伸びている。また、朝学習実施の効果もあり、以前に比べて遅刻数は激減し、違う学校のようになった。
		ともすると市立稲毛高校は「内進生重視」という見方をされてしまう場合があるため、極力、実施可能な教科（今年度は2年次理科の基礎科目）において、内外進のクラスを組み合わせるなどの工夫を行っている。

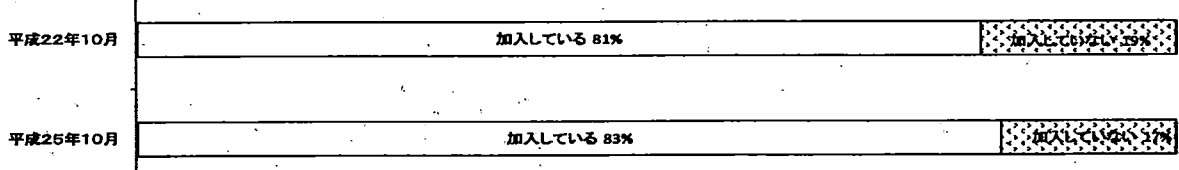
(4) アンケート調査結果

ア 生徒対象(附属中学校第3学年・稲毛高校内進生第1学年)

1 高校卒業後の進路希望について

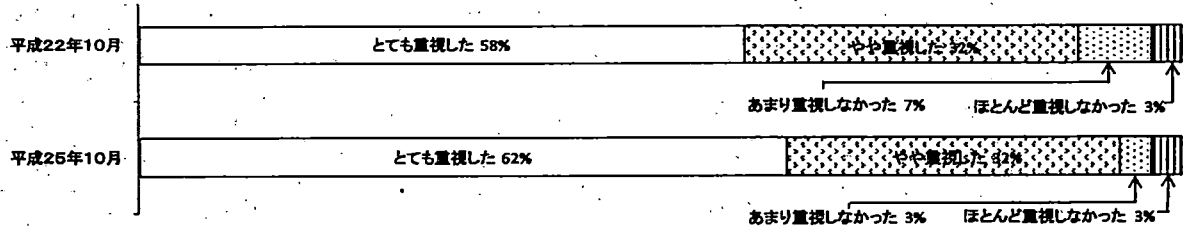


2 部活動に加入しているか。

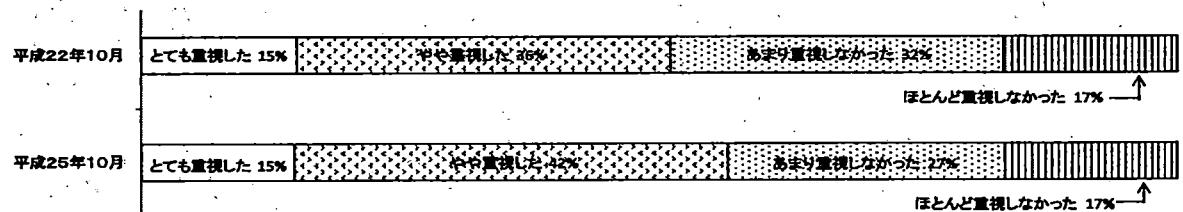


3 小学校6年生の時、稲毛高等学校附属中学校を受検するにあたり、次の各項目について、どの程度重視したか。

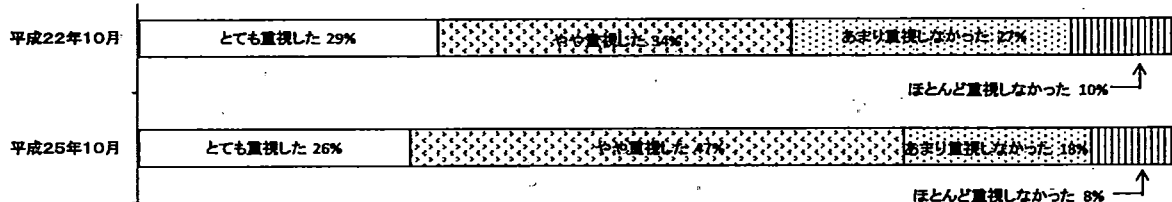
(1) 高校受検がなく、そのまま稲毛高校に進学できる。



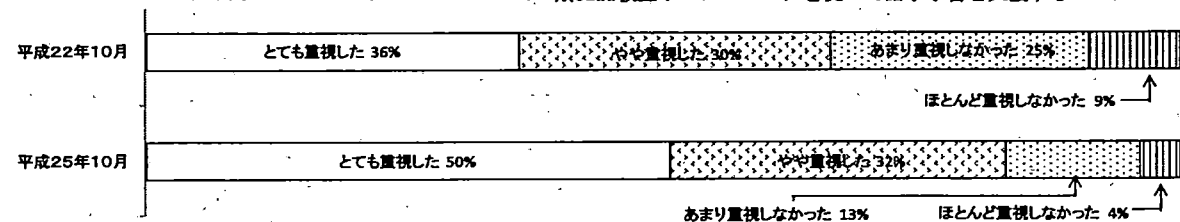
(2) 中高一貫教育目標として「真の国際人の育成」を掲げ、確かな学力・豊かな心・調和のとれた体力を身につけたバランスの取れた生徒の育成を目指している。



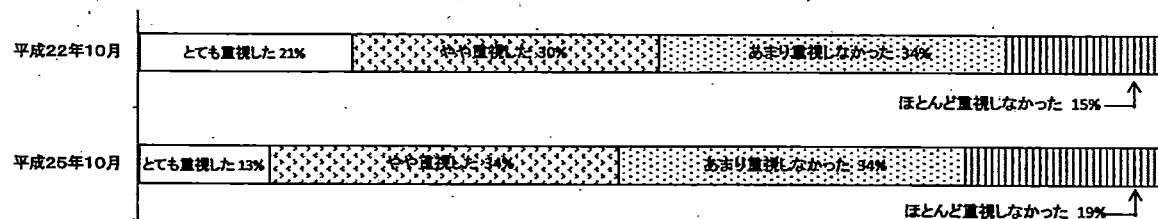
(3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目など特色ある教育を行っている。



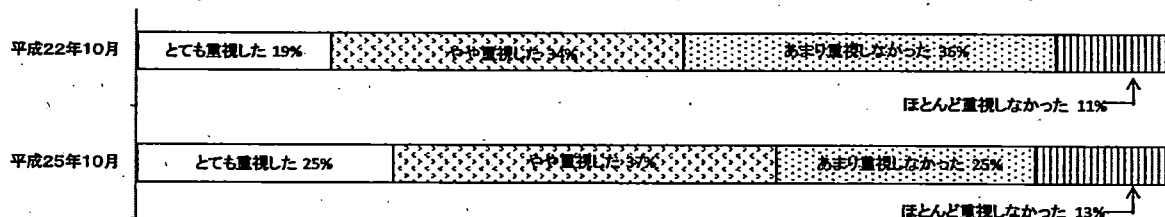
(4) Call 教室やネイティブ講師を活用し先進的な英語教育を行い、高校進学後に海外語学研修があるまた国際交流活動が充実している。 ※Call教室：コンピュータを使って語学学習を支援するシステム



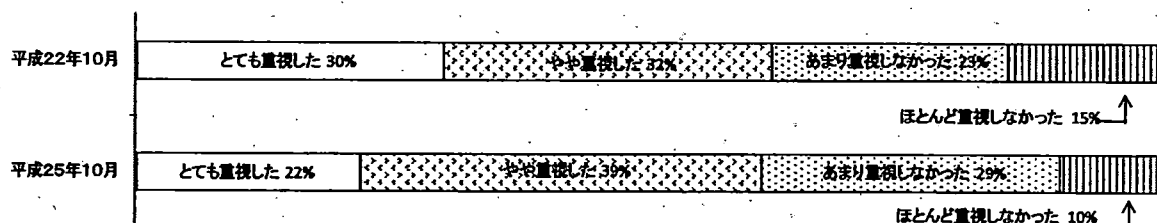
(5) 中高の先生が共同して教えている。



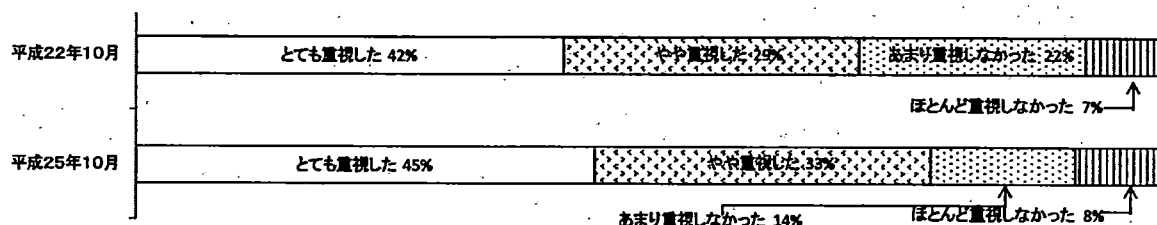
(6) 高校生との交流があり中高共同の活動（部活動・行事・生徒会等）が行われている。



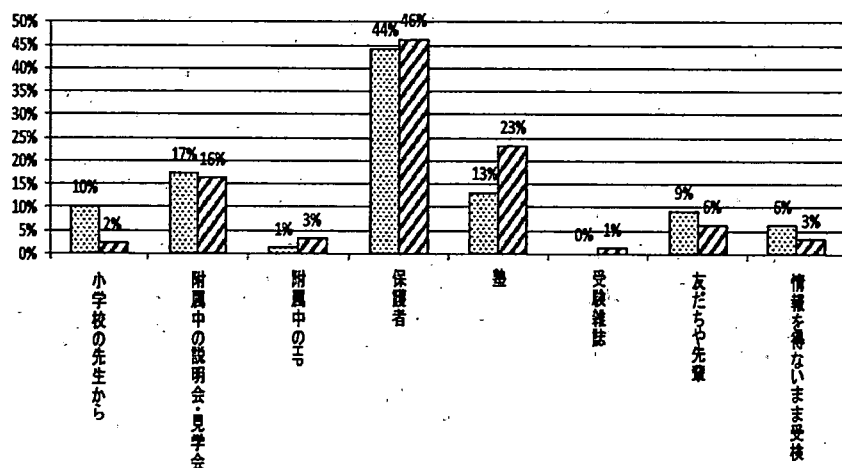
(7) 中学生が高校の施設・設備を使うことができる。



(8) 公立なので経済的であり新たな公立中学校の選択肢である。



4 附属中の情報をどこ(誰)から知ったか。

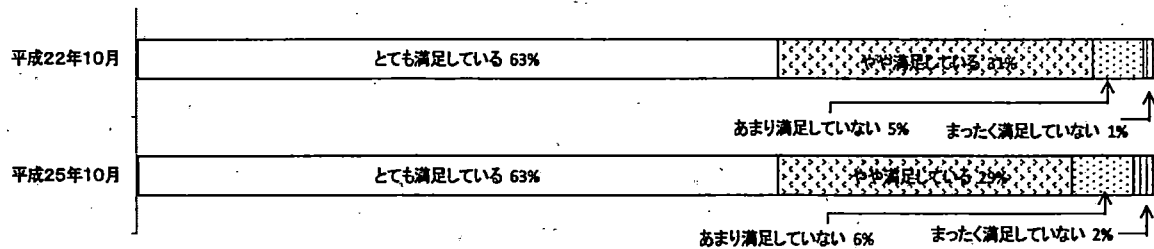


■ 平成22年10月

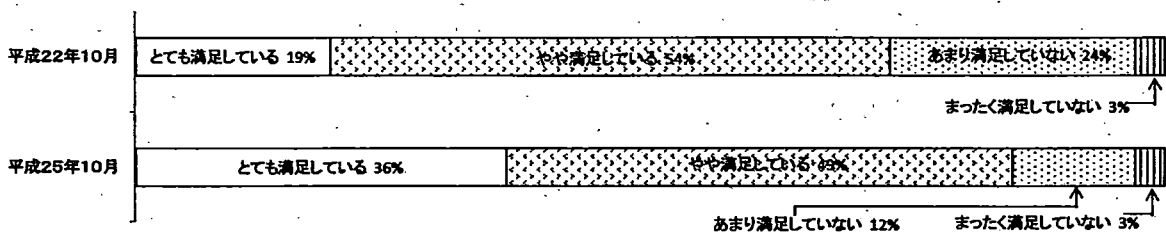
▨ 平成25年10月

5 これまでの附属中の生活を振り返って、次の項目についてどのくらい満足しているか。

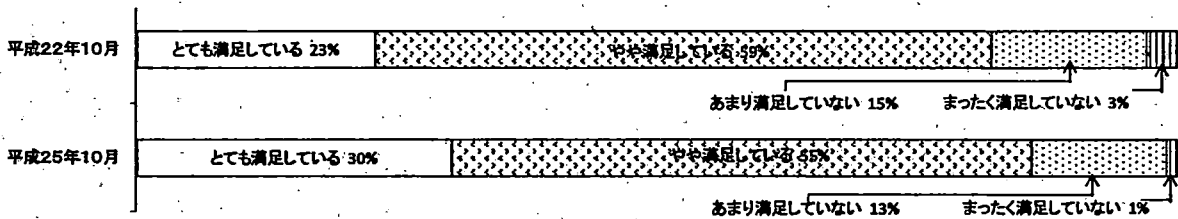
(1) 高校受験を意識せずに学習や諸活動に取り組むことができる。



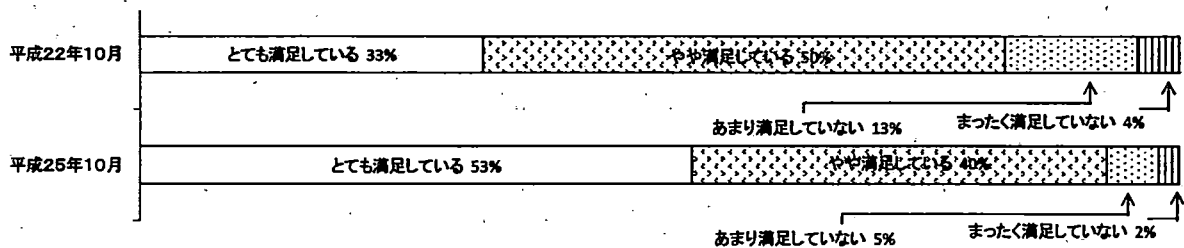
(2) 「真の国際人」を育成するために、学習指導だけでなく多様な体験活動等を通じて心と体の教育も充実している。



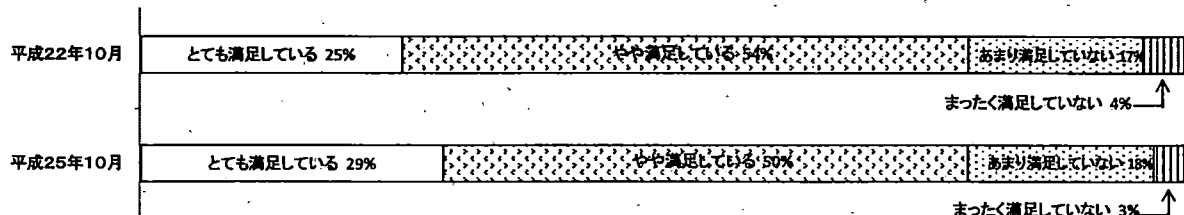
(3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目などをとおして、総合的に学力を向上することができる。



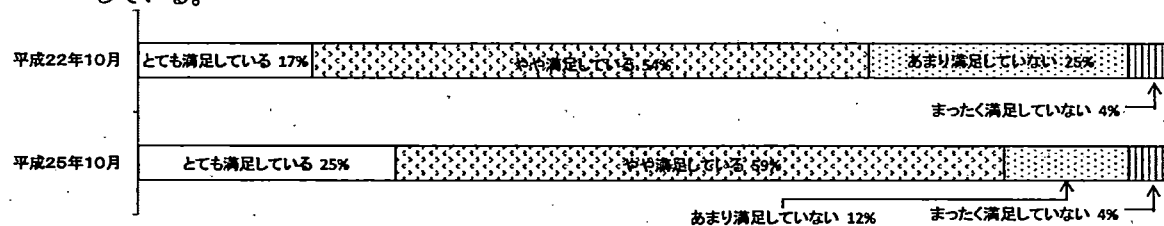
(4) Call 教室やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育により英語力を高め、多彩な国際交流活動をとおして国際人としての視野が広がる。



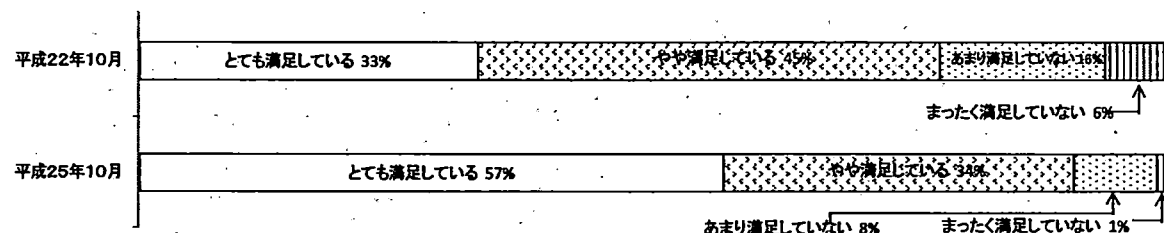
(5) 高校の先生による専門的な指導を受けることができる。



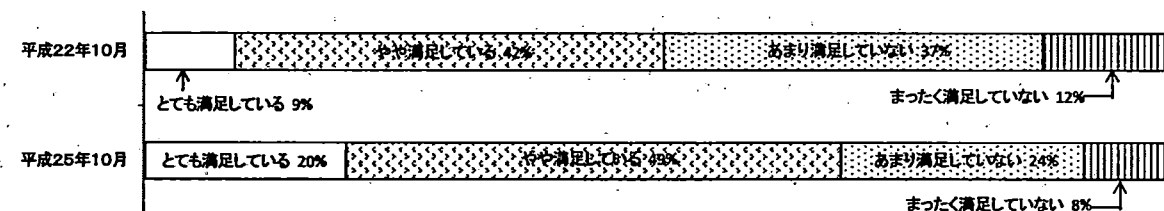
- (6) 授業を工夫したり補習を充実させたりして、生徒が学習内容をきちんと理解できるよう努力している。



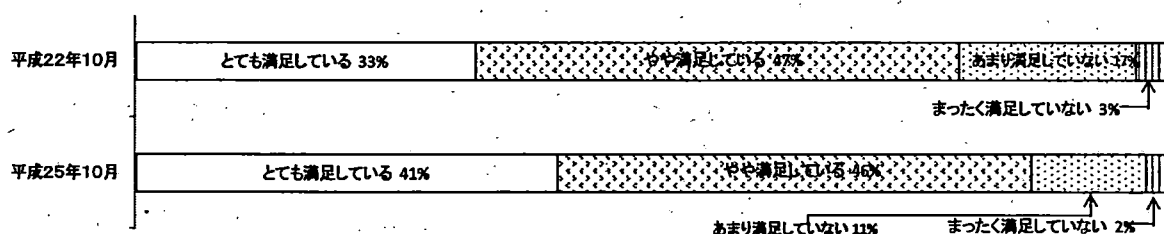
- (7) 高校生と共同の学校行事（陸上競技大会・飛翔祭等）や部活動・生徒会活動が充実している。



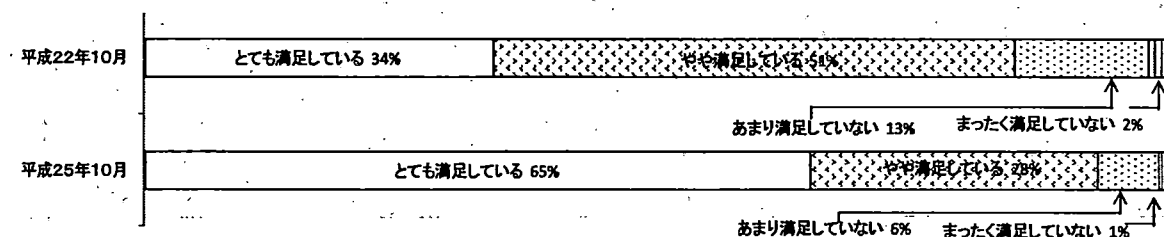
- (8) 生活に関する相談や指導が充実している。



- (9) 中学特別教室棟(多目的ホール)を活用できるとともに、高校の施設設備を使うことができる。



- (10) 総合的に判断すると附属中に満足している。



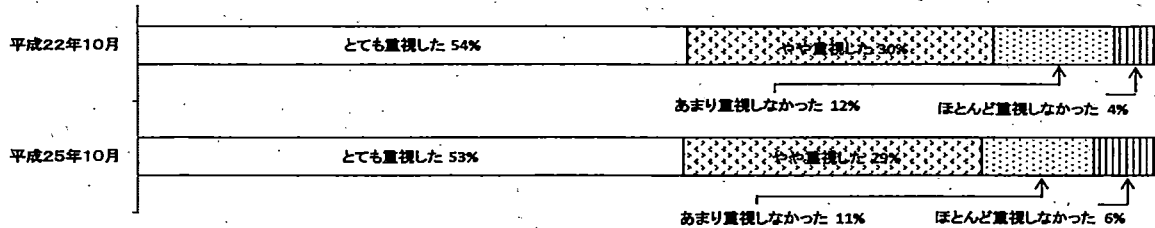
〈回収率〉

市立稲毛高校附属中第3学年生徒及び稲毛高校第1学年内進生	アンケート回収数	回収率
160人	159	99.4%

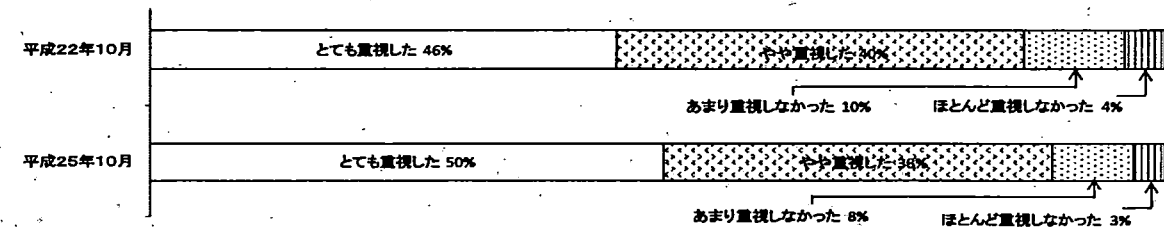
イ 保護者対象(附属中学校第3学年・稲毛高校内進生第1学年)

1 お子様が稲毛高等学校附属中学校を受検するにあたり、次の各項目について、あなたはどの程度重視したか。

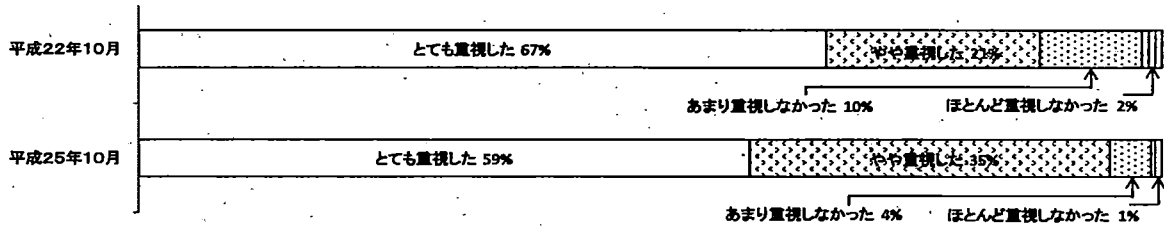
(1) 高校受検がなく、そのまま稲毛高校に進学できる。



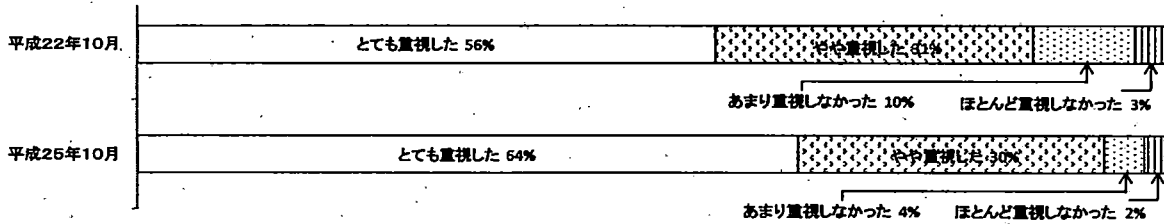
(2) 中高一貫教育目標として「真の国際人の育成」を掲げ、確かな学力・豊かな心・調和のとれた体力を身につけたバランスの取れた生徒の育成を目指している。



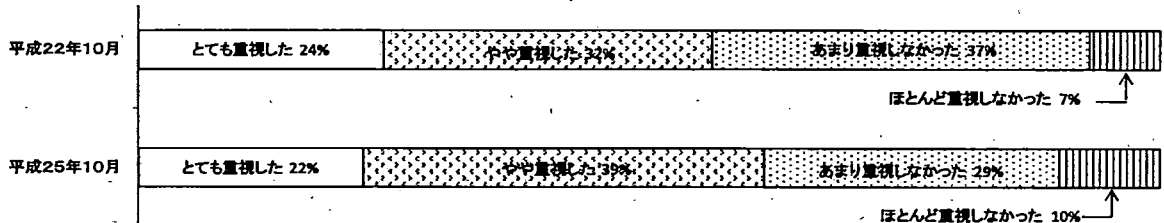
(3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目など特色ある教育を行っている。



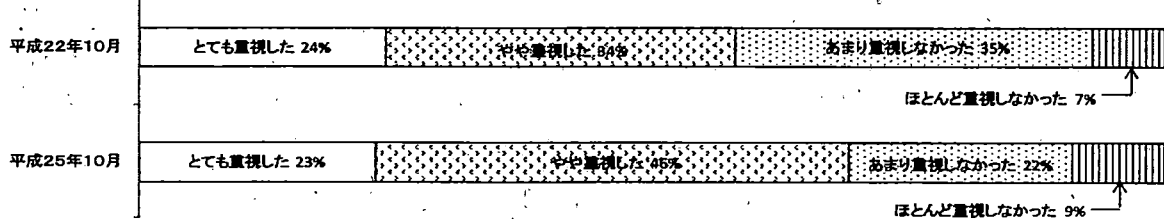
(4) Call 教室やネイティブ講師を活用し先進的な英語教育を行い、高校進学後に海外語学研修がある。また国際交流活動が充実している。



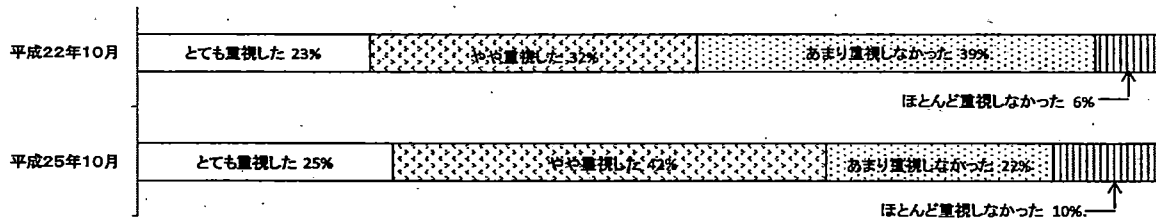
(5) 中高の先生が共同して教えている。



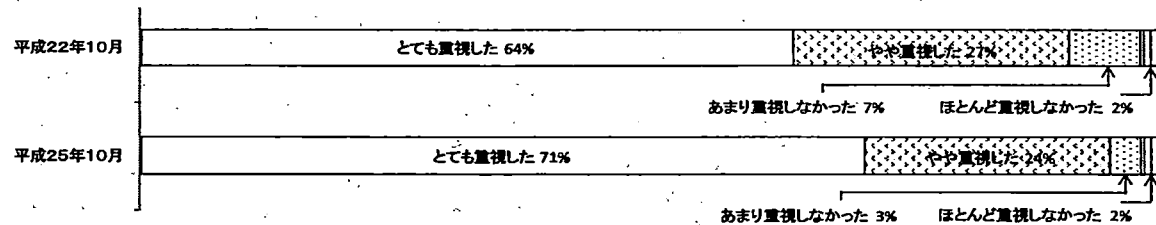
(6) 高校生との交流があり中高共同の活動(部活動・行事・生徒会等)が行われている。



(7) 中学生が高校の施設・設備を使うことができる。

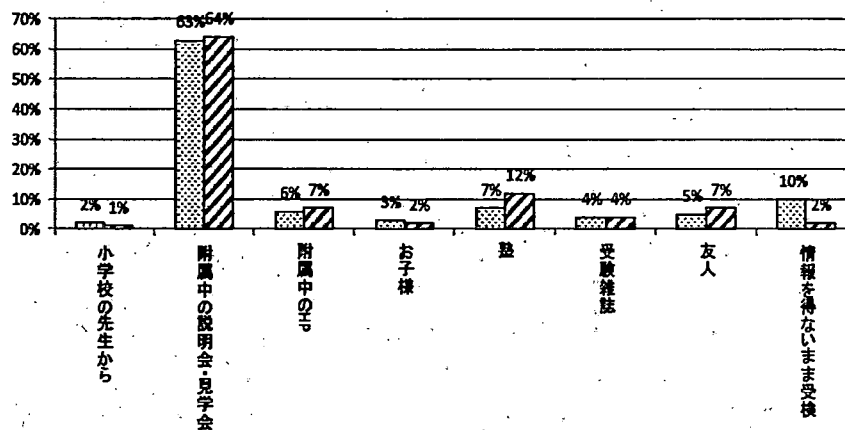


(8) 公立なので経済的であり新たな公立中学校の選択肢である。



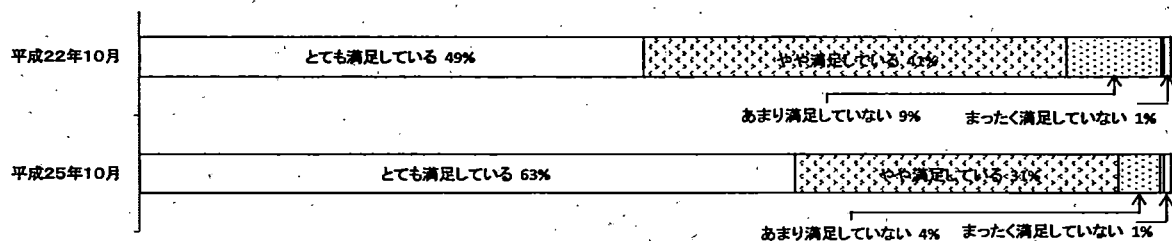
2 附属中の情報について主にどこ(誰)から知ったか。

2 お子様が小学校6年生の時、附属中を受検するにあたり、附属中の情報をどこ(誰)から得ましたか。

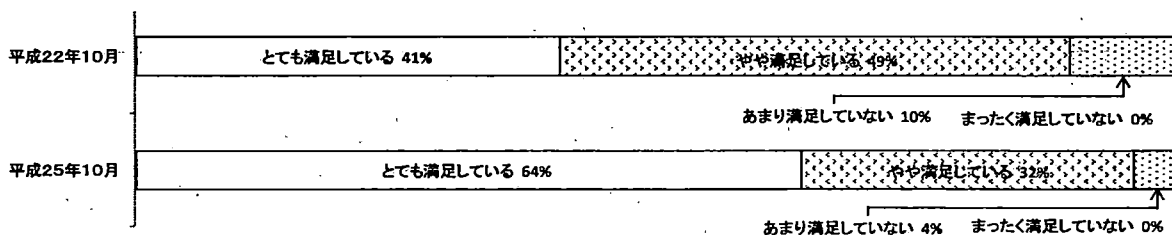


3 附属中学校で、次の項目についてどのくらい満足しているか。

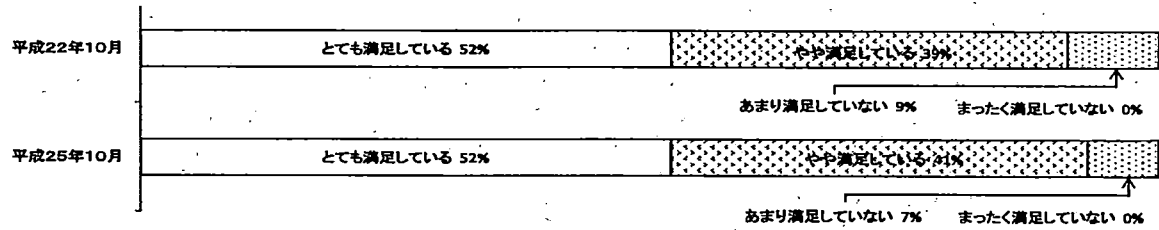
(1) 子どもが高校受検を意識せずに学習や諸活動に取り組むことができる。



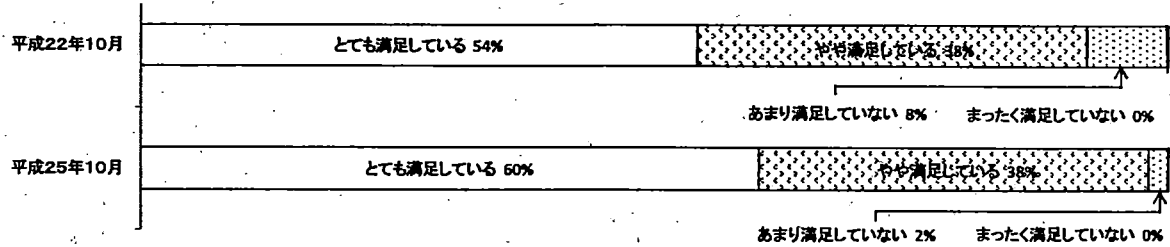
(2) 「真の国際人」を育成するために、学習指導だけでなく多様な体験活動等を通じて心と体の教育も充実している。



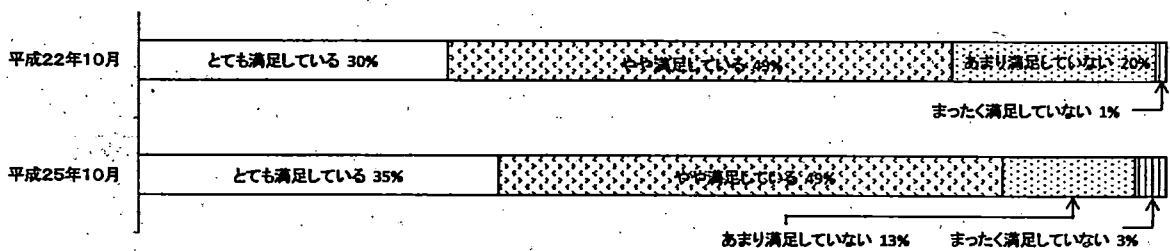
- (3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目などをとおして、総合的に学力を向上することができる。



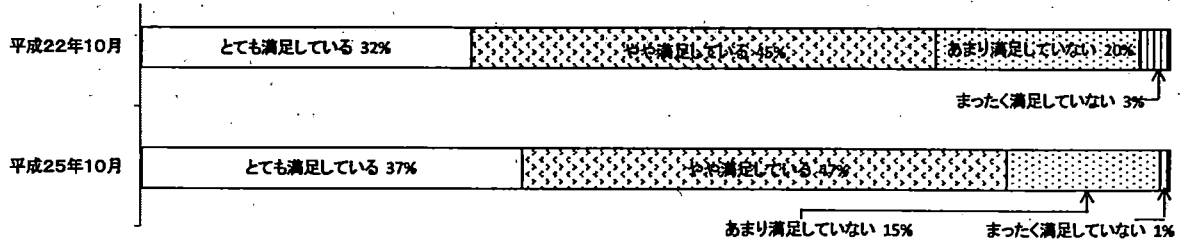
- (4) Call 教室やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育により英語力を高め、多彩な国際交流活動をとらして国際人としての視野が広がる。



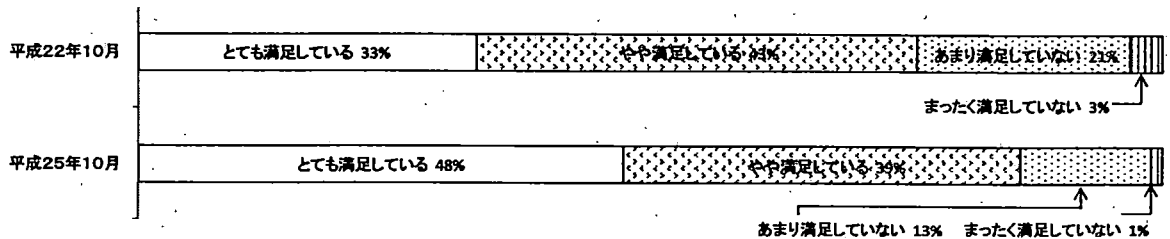
- (5) 子どもが高校の先生による専門的な指導を受けることができる。



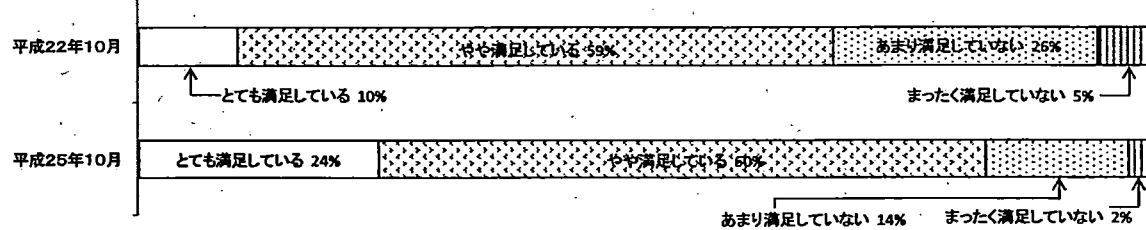
- (6) 授業を工夫したり補習を充実させたりして、子どもが学習内容をきちんと理解できるよう努力している。



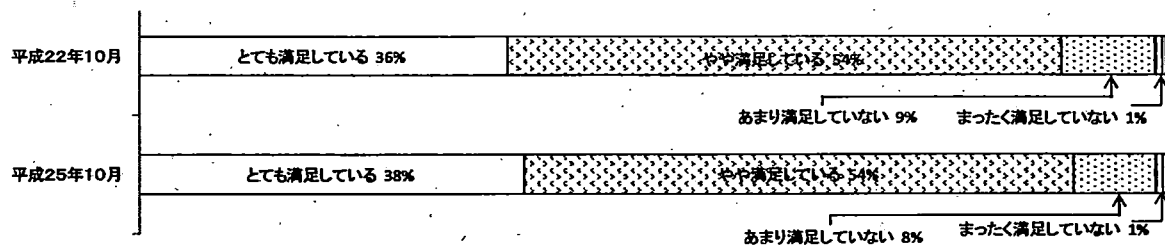
- (7) 高校生と共同の学校行事(陸上競技大会・飛翔祭等)や部活動・生徒会活動が充実している。



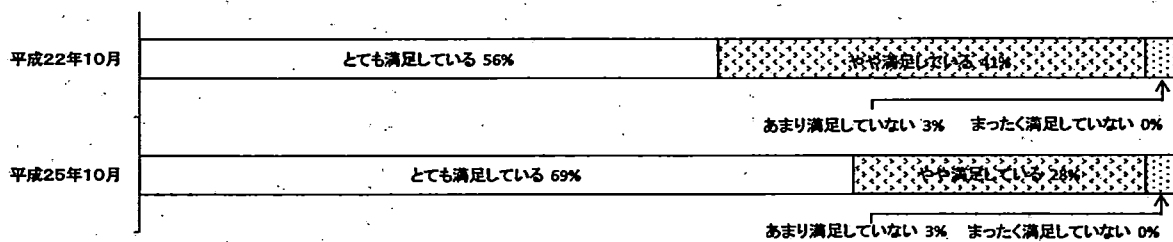
(8) 生活に関する相談や指導が充実している。



(9) 中学特別教室棟(多目的ホール)を活用できるとともに、高校の施設設備を使うことができる。



(10) 総合的に判断すると附属中に満足している。

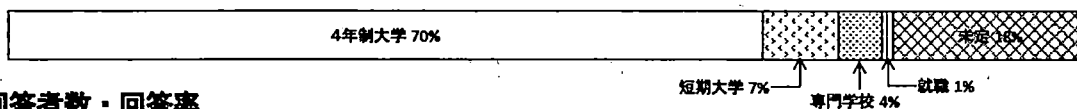


〈回収率〉

市立稲毛高校附属中第3学年生徒及び稲毛高校第1学年内進生の保護者	アンケート回収数	回収率
160人	144	90.0%

ウ 卒業生対象(平成24年度稲毛高校普通科卒業生)

1 回答者の高校卒業後の進路について



2 回答者数・回答率

	内進生	外進生	合計
回答者	30人	61人	91人
回答率	38%	31%	33%

3 (内進生のみ回答)

a 中学時代に市立稲毛高校の生徒と同じ校舎で学んだことが、学習意欲の向上につながったか。



b 高校1年時に同じ学年に外進生が入学してきたことは、学校生活における意欲の向上につながったか。

ア 学習や進路を考える場面



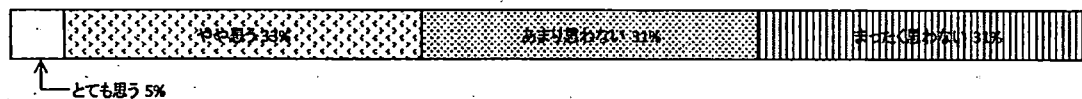
イ ア以外の学校生活全般を行う場面



4 (外進生のみ回答)

高校1年時に同じ学年に内進生が在籍していたことは、学校生活における意欲の向上につながったか。

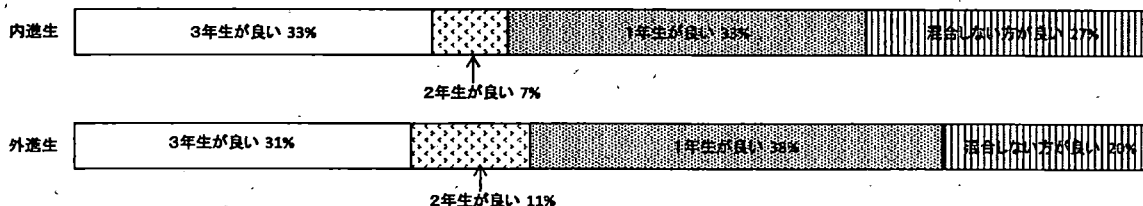
ア 学習や進路を考える場面



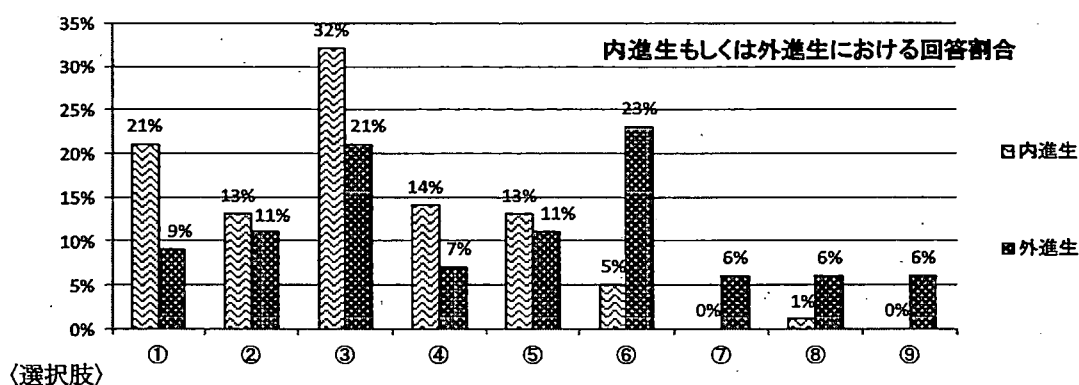
イ ア以外の学校生活全般を行う場面



5 内進生と外進生の混合クラス編成になる時期について

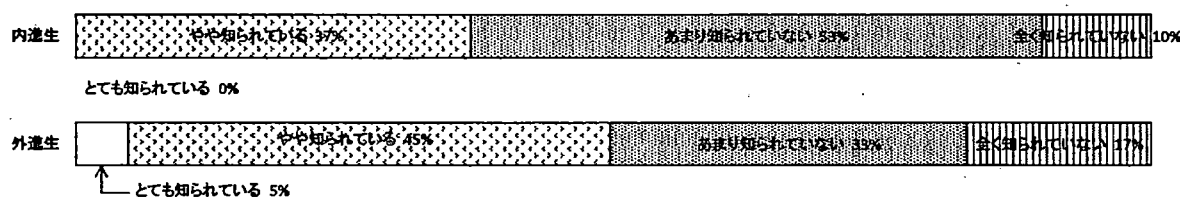


6 「市立稲毛高校の魅力や特色」は、何か。(複数回答可)

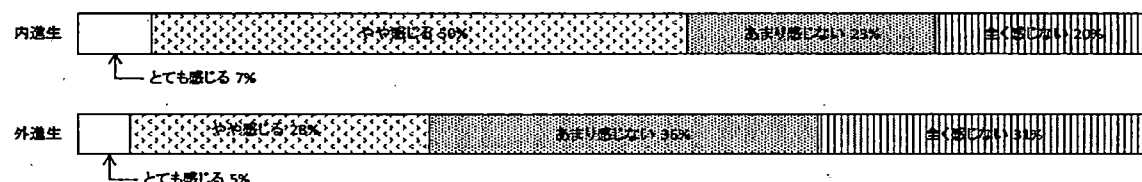


- ① 「真の国際人」を育成するために、学習指導だけでなく多様な体験活動等を通じて心と体の教育も充実している
- ② 文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目などをとおして、総合的に学力を向上することができること
- ③ Call 教室やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育により英語力を高めること
- ④ 国際交流活動をとおして国際人としての視野が広まること
- ⑤ 中高一貫校による中学生と共同の学校行事（陸上競技大会・飛翔祭等）があり、盛り上がる
- ⑥ 文武両道で部活動・生徒会活動が活発に行われていること
- ⑦ 進路指導における実績があること
- ⑧ 大学や企業との連携による授業が豊富にあること
- ⑨ その他 [記載内容]
- ・個性があり、魅力的な人が多い
 - ・先生方が良かった
 - ・吹奏楽部
 - ・生徒会全体が学校行事へ積極的に参加する
 - ・ない（2件）他

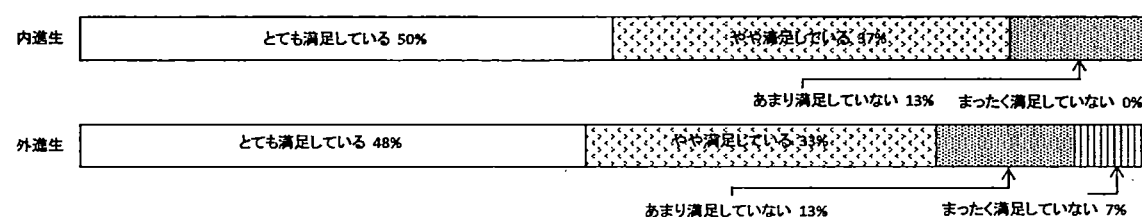
7 「市立稲毛高校の魅力や特色」は市立稲毛高校以外の友人や後輩に知られているか。



8 市立稲毛高校を卒業して、「真の国際人」に近づけたと思うか。



9 市立稲毛高校(附属中学校)に進学したことを満足しているか。



あなたの学校生活についてのアンケート(市立稲毛高等学校附属中学校3年生・稲毛高等学校普通科1年生[内進生]対象)

千葉市教育委員会

このアンケートは、皆さんに学校生活の様子をお聞きし、今後の教育に役立てる目的で実施します。なお、提出されたアンケートについては、この目的以外には使用いたしません。
回答はすべて枠内のマーク欄を鉛筆もしくは黒ボールペンで丁寧に塗りつぶしてください。

1 あなたの高校卒業後の進路希望について、あてはまる番号を一つだけ選んでください。

- ① 4年制大学 ② 短期大学 ③ 専門学校 ④ 就職 ⑤ 未定

1の回答... ①②③④⑤

2 あなたは部活動に入っていますか。

- ① 加入している ② 加入していない

2の回答... ①②

3 あなたが小学校6年生の時、稲毛高等学校附属中学校(以下「附属中」と言います。)を受検するにあたり、次の各項目について、どの程度重視しましたか。(1)～(8)までそれぞれ当てはまる番号を一つだけ選んでください。

- ① とても重視した ② やや重視した ③ あまり重視しなかった ④ ほとんど重視しなかった

(1) 高校受検がなくそのまま稲毛高校に進学できる。

(1)の回答... ①②③④

(2) 中高一貫教育目標として「真の国際人の育成」を掲げ、確かな学力・豊かな心・調和のとれた体力を身につけたバランスの取れた生徒の育成を目指している。

(2)の回答... ①②③④

(3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目など特色ある教育を行っている。

(3)の回答... ①②③④

(4) Call教室やネイティブ講師を活用し先進的な英語教育を行い、高校進学後に海外語学研修がある。また国際交流活動が充実している。

(4)の回答... ①②③④

(5) 中高の先生が共同して教えている。

(5)の回答... ①②③④

(6) 高校生との交流があり中高共同の活動(部活動・行事・生徒会等)が行われている。

(6)の回答... ①②③④

(7) 中学生が高校の施設・設備を使うことができる。

(7)の回答... ①②③④

(8) 公立なので経済的で新しい公立中学校の選択肢である。

(8)の回答... ①②③④

4 あなたが小学校6年生の時、附属中を受検するにあたり、附属中の情報をどこ(誰)から得ましたか。主なものを一つだけ選んでください。

- ① 小学校の先生 ② 附属中の学校説明会・見学会 ③ 附属中のホームページ
④ 保護者 ⑤ 塾 ⑥ 受験雑誌 ⑦ 友だち
⑧ 特に情報を得ないまま受検した

4の回答... ①②③④⑤⑥⑦⑧

5 これまでの附属中の生活を振り返って、次の項目についてどのくらい満足していますか。下の(1)～(10)にそれぞれ当てはまる番号①～④を一つずつ選んでください。
(高1の皆さんは中学校時代を思い出して答えてください。)

- ① とても満足している ② やや満足している ③ あまり満足していない ④ まったく満足していない

(1) 高校受検を意識せずに学習や諸活動に取り組むことができる。

(1)の回答... ①②③④

(2) 「真の国際人」を育成するために、学習指導だけでなく多様な体験活動等を通じて心と体の教育も充実している。

(2)の回答... ①②③④

(3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目などをとおして、総合的に学力を向上することができる。

(3)の回答... ①②③④

(4) Call教室やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育により英語力を高め、多彩な国際交流活動をおして国際人としての視野が広がる。

(4)の回答... ①②③④

(5) 高校の先生による専門的な指導を受けることができる。

(5)の回答... ①②③④

(6) 授業を工夫したり補習を充実させたりして、生徒が学習内容をきちんと理解できるよう努力している。

(6)の回答... ①②③④

(7) 高校生と共同の学校行事(陸上競技大会・飛翔祭等)や部活動・生徒会活動が充実している。

(7)の回答... ①②③④

(8) 生活に関する相談や指導が充実している。

(8)の回答... ①②③④

(9) 中学特別教室棟(多目的ホール)を活用できるとともに、高校の施設設備を使うことができる。

(9)の回答... ①②③④

(10) 総合的に判断すると附属中に満足している。

(10)の回答... ①②③④

中高一貫教育についてのアンケート(市立稲毛高等学校附属中学校3年生・稲毛高等学校普通科1年生[内進生]保護者対象)

千葉市教育委員会

このアンケートは、保護者の皆様に中高一貫教育に関するご意見をお聞きし、今後の教育に役立てる目的で実施します。なお、提出されたアンケートについては、この目的以外には使用いたしません。回答はすべて枠内のマーク欄を鉛筆もしくは黒ボールペンで丁寧に塗りつぶしてください。

- 1 お子様稲毛高等学校附属中学校(以下「附属中」と言います。)を受検するにあたり、次の各項目について、どの程度重視しましたか。

(1)～(8)までそれぞれ当てはまる番号①～④を一つずつ選んでください。

- ① とても重視した ② やや重視した
③ あまり重視しなかった ④ ほとんど重視しなかった

- (1) 高校受検がなくそのまま稲毛高校に進学できる。

(1)の回答... ①②③④

- (2) 中高一貫教育目標として「真の国際人の育成」を掲げ、確かな学力・豊かな心・調和のとれた体力を身につけたバランスの取れた生徒の育成を目指している。

(2)の回答... ①②③④

- (3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目など特色ある教育を行っている。

(3)の回答... ①②③④

- (4) Call教室やネイティブ講師を活用し先進的な英語教育を行い、高校進学後に海外語学研修がある。また国際交流活動が充実している。

(4)の回答... ①②③④

- (5) 中高の先生が共同して教えている。

(5)の回答... ①②③④

- (6) 高校生との交流があり中高共同の活動(部活動・行事・生徒会等)が行われている。

(6)の回答... ①②③④

- (7) 中学生が高校の施設・設備を使うことができる。

(7)の回答... ①②③④

- (8) 公立なので経済的で新しい公立中学校の選択肢である。

(8)の回答... ①②③④

- 2 お子様小学校6年生の時、附属中を受検するにあたり、附属中の情報をどこ(誰)から得ましたか。主なもの一つだけ選び○を塗りつぶしてください。

- ① 小学校の先生 ② 附属中の学校説明会・見学会 ③ 附属中のホームページ
④ お子様 ⑤ 塾 ⑥ 受験雑誌 ⑦ 友だち
⑧ 特に情報を得ないまま受検させた

2の回答... ①②③④⑤⑥⑦⑧

- 3 附属中で、次の項目についてどのくらい満足していますか。(1)～(10)までそれぞれ当てはまる番号を一つずつ選んでください。

- ① とても満足している ② やや満足している
③ あまり満足していない ④ まったく満足していない

- (1) 高校受検を意識せずに学習や諸活動に取り組むことができる。

(1)の回答... ①②③④

- (2) 「真の国際人」を育成するために、学習指導だけでなく多様な体験活動等を通じて心と体の教育も充実している。

(2)の回答... ①②③④

- (3) 6年間の継続的な学習指導と先取り教育、文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目などをとおして、総合的に学力を向上することができる。

(3)の回答... ①②③④

- (4) Call教室やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育により英語力を高め、多彩な国際交流活動とおして国際人としての視野が広がる。

(4)の回答... ①②③④

- (5) 高校の先生による専門的な指導を受けることができる。

(5)の回答... ①②③④

- (6) 授業を工夫したり補習を充実させたりして、生徒が学習内容をきちんと理解できるよう努力している。

(6)の回答... ①②③④

- (7) 高校生と共同の学校行事(陸上競技大会・飛翔祭等)や部活動・生徒会活動が充実している。

(7)の回答... ①②③④

- (8) 生活に関する相談や指導が充実している。

(8)の回答... ①②③④

- (9) 中学特別教室棟(多目的ホール)を活用できるとともに、高校の施設設備を使うことができる。

(9)の回答... ①②③④

- (10) 総合的に判断すると附属中に満足している。

(10)の回答... ①②③④

以上で質問項目は終了です。ご協力、ありがとうございました。

(参考5) 市立稲毛高校・附属中学校【保護者用アンケート】

市立稲毛高校普通科卒業生用アンケート

千葉市教育委員会

このアンケートは、平成24年度市立稲毛高校普通科を卒業した皆さんに「千葉市立高校改革」に関するご意見をお聞きし、今後の教育に役立てる目的で実施します。なお、提出されたアンケートについては、この目的以外には使用いたしません。回答のマークシート部分はすべて枠内のマーク欄を鉛筆もしくは黒ボールペンで丁寧に塗りつぶしてください。

1 あなたの高校卒業後の進路について、当てはまる番号を一つだけ選んでください。

- ① 4年制大学 ② 短期大学 ③ 専門学校 ④ 就職 ⑤ 未定

1の回答 ①②③④⑤

2 あなたは内進生(附属中学校から入学)ですか。外進生(高校から入学)ですか。

- ① 内進生 ② 外進生

2の回答 ①②

→ 内進生は質問3へ。外進生は質問4へ進んでください。

3 a あなたは中学時代に市立稲毛高校の生徒と同じ校舎で学んだことが、学習意欲の向上につながったと思いますか。

- ① とても思う ② やや思う
③ あまり思わない ④ まったく思わない

3aの回答 ①②③④

b 高校1年時に同じ学年に外進生が入学してきたことは、学校生活における意欲の向上につながったと思いますか。下のア、イの場面ごとに番号①～④から選んでください。

- ① とても思う ② やや思う
③ あまり思わない ④ まったく思わない

ア 学習や進路を考える場面

アの回答 ①②③④

イ ア以外の学校生活全般を行う場面

イの回答 ①②③④

→ 内進生は質問5へ進んでください。

4 高校1年時に同じ学年に内進生が在籍していたことは、学校生活における意欲の向上につながったと思いますか。下のア、イの場面ごとに番号①～④から選んでください。

- ① とても思う ② やや思う
③ あまり思わない ④ まったく思わない

ア 学習や進路を考える場面

アの回答 ①②③④

イ ア以外の学校生活全般を行う場面

イの回答 ①②③④

→ 外進生は質問5へ進んでください。

5 高校3年時に内進生と外進生の混合クラス編成になりましたが、この時期について、あなたはどのように思いますか。

- ① 3年生で良かった ② 2年生からが良かった
③ 1年生からが良かった ④ 混合しない方が良かった

5の回答 ①②③④

6 卒業後にあなたが考える「市立稲毛高校の魅力や特色」とは、どんなものだと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

- ① 「真の国際人」を育成するために、学習指導だけでなく多様な体験活動等を通じて心と体の教育も充実していること
② 文系理系にかたよらない学習内容、少人数指導、標準より多い授業時数、学校独自の設定科目などをとおして、総合的に学力を向上することができること。
③ Call教室やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育により英語力を高めること
④ 国際交流活動をとおして国際人としての視野が広がること
⑤ 中高一貫校による中学生と共同の学校行事(陸上競技大会・飛翔祭等)があり、盛り上がること
⑥ 文武両道で部活動・生徒会活動が活発に行われていること
⑦ 進路指導における実績があること
⑧ 大学や企業との連携による授業が豊富にあること
⑨ その他(記載してください)

6の回答(複数回答可) ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨

7 質問6の「市立稲毛高校の魅力や特色」は市立稲毛高校以外の友人や後輩に知られていると思いますか。

- ① とても知られている ② やや知られている
③ あまり知られていない ④ まったく知られていない

7の回答 ①②③④

8 市立稲毛高校はハイレベルな英語力、国際理解、実践的コミュニケーション能力を通して国際人の育成を目指しています。あなたは市立稲毛高校を卒業して、「真の国際人」に近づけたと感じますか。

- ① とても感じる ② やや感じる
③ あまり感じない ④ まったく感じない

8の回答 ①②③④

9 今、振り返り、あなたは市立稲毛高校(附属中学校)に進学したことを満足していますか。

- ① とても満足している ② やや満足している
③ あまり満足していない ④ まったく満足していない

9の回答 ①②③④

(参考6) 市立稲毛高校・附属中学校【平成24年度普通科卒業生用アンケート】

市立稲毛高・附属中 アンケート用紙

千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～

資料編 各種調査の結果 平成26年3月

千葉市教育委員会教育総務部企画課

学校教育部学事課

〒260-8730 千葉市中央区問屋町1-35

千葉ポートサイドタワー12階（企画課）

11階（学事課）

☎ 043-245-5908（企画課） 043-245-5928（学事課）

千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～

概要版

平成26年3月 千葉市教育委員会

1 背景と経過

★情報化や国際化をはじめとする社会の変化

★多様な進路ニーズや教育ニーズに対応

★文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくり

平成17年6月

千葉市立高等学校改革基本方針



市立千葉高等学校

千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)研究で培った研究機関及び研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に単位制を導入



市立稲毛高等学校

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間にわたる計画的・継続的な指導により、コミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入

平成19年4月

市立高等学校改革

多様な進路ニーズに対応した
進学重視型単位制高等学校への移行



真の国際人を育成する
中高一貫教育の実施(附属中学校の開校)

平成23年2月

千葉市立高等学校改革の評価・検証～中間まとめ～

〈評価・検証の目的〉

平成22年3月、市立千葉高等学校においては、単位制移行後、初の卒業生を輩出し、同年4月、市立稲毛高等学校・附属中学校においては、第1期生が「内進生」として市立稲毛高等学校に進学したことを受け、市立千葉高等学校卒業生の進路状況や市立稲毛高等学校の内進生及び附属中学校の生徒における状況等の調査に相応しい年度であることから、平成23年2月に「千葉市立高等学校改革の評価・検証～中間まとめ～」を実施した。

〈主な成果〉

- 1 市立千葉高等学校及び稲毛高等学校・附属中学校は、進路ニーズや教育ニーズの多様化に適切に対応できており、生徒・保護者の満足度は、かなり高い。
- 2 志の高い教職員とそれに応える生徒のやる気、さらには両校の教育活動に対する行政の支援が相乗効果として表れている。
- 3 これまでの文武両道の教育の伝統と、市立千葉高等学校の理数教育及び稲毛高等学校の国際理解教育の成果が生かされている。

2 評価・検証～最終まとめ～

(1) 評価・検証の目的

改革後6年を経過した平成25年3月には、市立稲毛高等学校初の内進生が卒業し、その進路状況等を調査することが可能となり、「中間まとめ」における課題への対応とこれまでの成果を改めて検証するとともに、市民の多様なニーズと社会の変化に対応できる魅力ある市立高等学校づくりの更なる推進に資するため、本年度「千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～」を行った。

(2) 中間まとめにおける課題への対応

学校の特色や改革の成果等についてのアピール

両校とも各種説明会、学校公開、近隣小・中学校との交流活動等の実施に加え、市立千葉高等学校では、千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同モノレール千葉駅構内で生徒の作品展示を行った。また、市立稲毛高等学校・附属中学校では、千葉市教育研究会国際理解部会の開催に向けた協力や、市内中学校職員の初任者研修における授業の公開、文化祭で好評を得たエイサーと三線演奏を地域でも披露するといった積極的な活動を行った。

市立稲毛高等学校・附属中学校の施設設備の改善

昨年度まで、部活動等の活動場所については、千葉市中央卸売市場のグラウンドを借用し、対応していたが、平成28年度より、隣接する旧高浜第二小学校の校庭と体育館を附属中学校で活用することとした。

(3) 改革の成果

市立千葉高等学校

○多様な選択科目・特色ある教育を実現

進学重視型単位制の導入に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなど特色ある教育が可能になった。

○進路実績の向上

「充実した施設・設備」に対する生徒・保護者の満足度も高く、「1日7限授業」や「生徒の学習ニーズに対応した選択教科」の導入により、4年制大学への進学率や国公立大学合格者数は、着実な伸びを示している。

・「施設・設備」に満足と回答した割合 生徒の93%

・進路実績

	H16	H21	H24
4年制大学の現役進学率	50.5%	72.7%	73.0%
国公立大学現役合格者数	20人	40人	47人

○理数教育の伝統や成果を継承

理数教育の成果が、生徒へ十分に浸透しており、理系大学への進学率が高い。

- ・平成24年度 4年制大学に進学した現役生233人のうち理数大学の進学者は81人(35%)
- (参考) 県内の公立高校における進学者のうち理数大学の進学率 27%(H24年度)

○生徒の主体的な活動の継続

生徒は、部活動や行事に自覚と自信を持ち臨んでおり、引き続き、主体的・活発な活動を行っている。

市立稲毛高等学校・附属中学校

○高い英語力とコミュニケーション能力の育成

生徒は、先進的な英語教育と6年間の継続的な指導により、高い英語力とコミュニケーション能力が育成されている。

- ・高校3年の内進生におけるGTEC平均スコアは594点(H25年度) (海外の高校の授業に参加できるレベル。英検2級相当レベルは570点以上)

○高い満足度

「真の国際人を育成する中高一貫教育」・「中高6年間の継続的な指導」・「先進的な英語教育」は、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。

・満足度(「とても満足」もしくは「やや満足」と回答した割合: H24年度)

	生徒	保護者
真の国際人を育成する中高一貫教育	85%	96%
中高6年間の継続的な指導	85%	93%
先進的な英語教育	93%	98%

○進路実績の向上

全校生徒が切磋琢磨し、4年制大学への進学率や国公立大学合格者数は、着実な伸びを示している。

・進路実績

	H16	H21	H24
4年制大学の現役進学率	54.3%	66.9%	69.3%
国公立大学現役合格者数	16人	12人	26人

○中高共同の活動が充実

部活動や学校行事等、6年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実している。

「千葉市立高等学校改革基本方針」に基づく本市の高等学校改革は、良好な成果を収めている。

- ① 進路ニーズや教育ニーズの多様化へ適切に対応でき、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。
- ② 文武両道の教育の伝統と、それぞれの改革の特色が調和し、良好な成果を収めている。
- ③ 熱心な教職員の指導と生徒の積極的な姿勢、教育活動に対する行政の支援により、教育効果が上がっている。

(4) 課題

市立高等学校改革の成果や効果をより地域全体に波及させるためのさらなるアピール	・積極的な授業公開や文化祭の開催時期を検討 ・地域との連携を強化し、外部の学校や教育機関にも成果を発信
市立高等学校改革の実効性を高める上での優秀な人材の確保	・教職員の公募制の実施に向けて検討 ・教職員の増置など配置の改善や教育活動の実施方法の工夫
教育課程上の課題に対する手立て	・大学入試改革に対応した教育課程の編成に向けた検討(市立千葉) ・内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した、中高の教育内容全体の検討(市立稲毛・附属中)
教育委員会事務局の組織体制の強化	・課題への対応を図り、より魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、教育委員会事務局の組織体制の強化や学校とのより強い連携が必要

(5) 今後の方向性

今後も、市立千葉高等学校においては、「科学都市ちば」(平成23年6月)の実現に向け、本市における小・中学校の理数教育をリードする役割を担い、その核となる学校を目指すことが期待されている。また、市立稲毛高等学校・附属中学校においては、文部科学省が掲げる「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(平成25年12月)の先駆的な存在として、「真の国際人を育成する教育」に励み、より発展することが期待されている。今回の検証を踏まえ、これからの市立高等学校のあり方やその姿を実現していく上で必要となる対応を検討していく必要がある。

お問い合わせ 千葉市教育委員会 教育総務部企画課 ☎043-245-5908
学校教育部学事課 ☎043-245-5928